

2016（平成28）年度
事業報告書

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

2016年度事業報告目次

	ページ
法人	1
平生園	15
さくらの苑	21
高齢者グループホームわらしべ	25
恵生園	29
あったかプラザ	35
真生園	37
和生園	41
グループホームもみの木・かしの木	46
北但広域療育センター	50
エスポワールこじか	54
神戸聖生園	58
グループホームながみね	68
グループホームしおや	71
グループホームたいのはた東	75
神戸愛生園	79
すま障害者地域生活支援センター	86
神戸聖隷総合相談センター	90
神戸友生園	93
神戸光生園	97
グループホームみなみたもん	105
神戸明生園	108
ケアホームきたすま	112
神戸市立ワークセンターひょうご	
神戸市障害者就労推進センター	114
神戸障害者就業・生活支援センター	
障害者就職拡大推進事業	
ひょうご障害者地域生活支援センター	120
神戸市発達障害者中部相談窓口	125
神戸市障害者基幹相談支援センター	130
神戸市立障がい者デイセンターひょうご	134
インクルージョンひょうご	138
アクシスひょうご	142
神戸市立自立センターひょうご	146
ワークセンターわかまつ	152
せいれいやさかだい	155
別表1（事業実績）	161
別表2（設備整備実績）	163

2016年度 事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
理事長 水野 雄二

「立って、真ん中に出なさい」(ルカによる福音書 6:8)

2016年度がスタートして間もない4月14日、16日に震度7の大きな地震が熊本を襲いました。その後も余震が長く続く中で、災害時における障害者支援の課題を考える機会となりました。また、7月26日には神奈川県相模原市の知的障害者施設で障害者殺傷事件が発生し、施設の防犯対策のみならず、子どもや高齢者、障害者を真ん中にした安全な地域づくりの課題を再認識する衝撃的な出来事となりました。

このような不安な出来事が続く中でも、神戸聖隷福祉事業団では、9月22日に開催された「第36回おいでやすカーニバル」に象徴されるように、多くのご利用者が真ん中に出て歌い、踊り、笑顔が輝く時を持つことができました。神戸地区、但馬地区の各施設で開催された各種の活動も、ご利用者とご家族、また地域の方々の笑顔が交差する場となりました。

しかしながら、一方ではいくつかの残念な事案が出来ました。深い反省の上に立って、ご利用者に寄り添う支援の質の向上に更なる知恵と努力が必要なことを痛感しました。

神戸聖隷福祉事業団は、社会福祉を取り巻く大きな時代の変化に対応して、2016年度の基本方針として4つの柱を掲げて歩みました。

1. 法人基本理念の一層の周知と理解の深化
2. 支援職員の確保と質的向上
3. 第2期中期計画の完遂と第3期中期計画策定を通しての事業価値の向上
4. 社会福祉制度改革に即した新時代への対応

それぞれに着実な計画執行を進めつつ、課題を再確認し、新しい時代へと繋げることができました。更に次の第3期中期計画の実現を通して、ご利用者を真ん中に、ご家族、地域の皆様と共に歩みを進めていきます。

1. 推進体制の状況

計画	実績
i) プロジェクト推進 ①地域密着型特養開設委員会を設置し、西山理事を長として配置します。	i) プロジェクト推進 ①朝来市竹田に地域密着型特養「さくらの苑」を新築する計画に関して、3/8まで12回の開設準備委員会を開催し建設、備品整備等に努めてきました。従事者確保を含めて概ね予定通り進捗し、3/31に引渡、4/15に竣工式を挙行することができました。 (事業概要) ア) 地域密着型特別養護老人ホーム 29名 イ) (予防) 短期入所生活介護 10名 ウ) 地域密着型通所介護 18名 エ) 居宅介護支援事業所

<p>②友が丘での総合支援事業所設置に向けたプロジェクトを設置し、有川理事を長として神戸地区施設長のワーキングチームで推進します。</p> <p>③神戸聖隷資料館兼但馬総合事務所創設のために委員会を設置し、吉田常務理事を長として配置します。</p>	<p>オ) 介護予防拠点 カ) 施設内保育施設 キ) 総合相談窓口 (建物概要) ア) 鉄骨造鋼板葺 3 階建 イ) 建築面積 (1239.58) m² ウ) 総床面積 (2976.71) m² エ) 敷地面積 (2065.80) m² オ) 駐車場面積 (1818.77) m²</p> <p>②「地域生活支援拠点」のモデルケースをイメージしましたが、全体的なプランを纏めるには至らず具体的に進捗が図れませんでした。今年度参画頂いた横田前理事の助言などをもとに地域性に着目した取り組みなど地域における公益的な活動の拠点となるよう第3期中期計画に繋げていきます。</p> <p>③予定通り 11/23 に開所式を挙行することができ、新 DVD をその場で上映しました。来館者向けの歴史パンフレットも作製しました。11/24～3/15 の間の見学者数 350 名余りとなりました。 会議室利用は 40 回と重用され、また本部から登記権利証書や創業時からの理事会議事録を搬入し但馬総合事務所としての機能を果たし始めました。</p>
<p>ii) キャリアパスに連動した職員育成・教育研修体系の再構築</p> <p>① 職員育成担当理事として加藤理事を配置します。</p> <p>②担当理事とサービス・事業担当者会議が各種研修を推進します。</p>	<p>ii) キャリアパスに連動した職員育成・教育</p> <p>①加藤理事の下で研修体系の再構築を見据えた研修の拡大(新副主任研修・中級一般職研修Ⅱ10/12・Ⅲ1/13開催)とその検討を実施しました。</p> <p>②法人内部研修は、サービス・事業担当者会が担当して精力的に推進・実施しました。 5/13～14 新規採用職員研修 17名 6/3 上級一般職研修② 23名 6/17 同上 19名 7/28 新副主任研修 5名 10/12 中級一般職員研修Ⅱ 20名 11/4～5 課長研修 19名 11/27～28 新採フォローアップ研修 16名</p>

<p>③キャリアパスの効率的運用のために人事・総務・財務担当者会議が制度の定着を推進します。</p>	<p>1/13 中級一般職研修Ⅲ 26名 1/31 主任・副主任研修 21名 2/9 主任・副主任研修 27名 2/18 総合職員研修 136名</p> <p>③人事評価の実施について、施設長研修を年間2回実施するとともに、人事総務財務担当者会議で、評価結果のバラ付き、評価者が忙しすぎることで、育成面接が不完全になること等の不都合を解消するため、コンサル任せから法人自体で制度運営の方向で運用の改善を提案しました。</p>
<p>iii) 法人の福祉サービスの質の向上</p> <p>① 支援サービス向上担当理事として種谷理事を配置します。</p> <p>② 担当理事とサービス・事業担当者会議がサービスの質向上の方策策定に取り組みます。</p> <p>③ 成年後見制度活用推進の努力をします。</p>	<p>iii) 法人の福祉サービスの質の向上</p> <p>① サービス・事業担当者会より「サービスの質向上担当」として3名の施設長により、4回の会議を行い企画検討と実施を行いました。</p> <p>② 虐待防止判定基準表運用の勉強会の企画と実施。事故・ヒヤリハット報告の分析と修正指導について検討。各障害者支援施設でのサービス管理責任者会議の開催のための助言をおこないました。</p> <p>上記2項目は第3期中期計画QOL担当者会に引き継ぎます。</p> <p>③ 成年後見制度活用推進委員会の活動は以下のとおりです。</p> <p>ア) 研修会開催 基礎研修 11/26 但馬地区 (94名参加) 「親、兄弟亡きあとのご利用者の権利を考える～事例を通して～」 12/7 神戸地区 (88名) 「わかりやすい成年後見制度学習会」</p> <p>実務研修 3/2 法人本部会議室にて 成年後見制度実務研修～「親が行う『終活』・相続対策を中心に」(48名)</p>

	<p>イ) 啓発活動 みまもり通信の発行（15号、16号）</p> <p>ウ) 制度活用推進状況 今年度新たに、後見11名、保佐3名、補助2名、任意後見2名、合計18名の方々の制度活用をサポートしました。</p>
<p>iv) 第2期中期計画の完遂と評価</p> <p>① 必達事項を絞り込み地区本部長の指揮のもとに担当チーム主導で完遂します。</p>	<p>IV) 第2期中期計画の完遂と評価</p> <p>但馬地区</p> <p>ア) 総合相談窓口開設…さくらの苑に居宅介護支援事業と障害者相談支援事業を併設した総合相談窓口を5月に開設し、障害者・高齢者の各種相談にワンストップで幅広く対応します。</p> <p>イ) グループホーム増設…第3期計画で取り組みます。</p> <p>ウ) 旧さくらの苑跡の活用…第3期計画で取り組みます。</p> <p>神戸地区</p> <p>ア) 事業再編…神戸友生園を中心として就労継続B型事業所の請負作業の共同受注体制を確立し、全体的な受注量の増加が図れました。</p> <p>イ) グループホーム増設…法人として初の土地活用による建て貸し方式のGHふくだについてオーナー、業者と入念なやり取りを重ね、3月末に完成引き渡しを受けました。センター化は第3期継続となります。</p> <p>ウ) 友が丘プロジェクト…「プロジェクト推進」の項を参照して下さい</p>
<p>v) 第3期中期計画の策定</p> <p>①常任理事会が中心になって、第3期中期計画の基本方針を策定します。</p> <p>②計画策定のための地区別・分野別チームを、施設長と課長で編成します。</p> <p>③2015年度の予備的な取組成果を活用し、骨格たる基幹的計画、地域課題に対応する地区計画、さらに支援分野と各施設が目指す</p>	<p>v) 第3期中期計画の策定</p> <p>「策定の経過」</p> <p>ア) 常務理事が策定推進担当となり、2015年度に受講した経営計画策定演習の方法に沿って計画策定を推進しました。</p> <p>イ) 全施設長・課長が集合して以下の通り策定会議を開催しました。</p>

<p>べき分野計画を、全員参加で策定します。</p>	<p>【1】 6/13：第2期計画振り返りと第3期計画へのキックオフとして2025年の姿と中期ビジョンを考える</p> <p>【2】 7/13：2025年ビジョンを基に中期ビジョンと中期目標を定め、そこに至る経営課題をSWOT分析結果から抽出して中期事業目標とする</p> <p>【3】 8/19：重点実施項目の確定による戦略マップ制作作成、BSCシート様式の提案</p> <p>【4】 9/30：BSCカードの完成と施設計画への導入</p> <p>【5】 10/18：BSCカードの公表説明・質疑と施設計画への着手状況報告（全施設）</p> <p>【6】 12/15：施設計画案の発表、社会福祉法改正のポイント、社会福祉充実計画について、そして新たな組織体系の提案</p> <p>【7】 2/10：策定から推進へ（部門担当常任理事からのプレゼン）</p> <p>【8】 3/6：各推進担当部長（常任理事）による部門別重点実施項目（法人及び施設）の年度（3年）実行計画集計結果のプレゼンと、スタートに向けた取組み方の検討</p> <p>ウ) 概要</p> <p>2025年の姿として</p> <p>①「全ての人々が支え合い、安心して働き暮らせるコミュニティの実現」</p> <p>②「地域で一番高い評価を受けられるいち輝く夢のカンパニーの実現」</p> <p>2020中期ビジョンとして</p> <p>「地域と連携した支援体制づくりと魅力的な職場環境の実現」</p> <p>中期事業目標として</p> <p>①「社会福祉法人の使命を果たすため、堅く理念に立ちます」</p> <p>②「福祉人材の確保と育成に努め、やりがいをもてる職場をつくります」</p> <p>③「ひとり一人のQOLを生涯にわたって（一貫して）支えます」</p>
----------------------------	---

	<p>④「社会的使命を果たすために安定的で規律のある経営を続けます」</p> <p>⑤「安心して暮らせる地域の実現に尽くします」</p>
<p>vi) イメージアップ並びに先進性の追求</p> <p>①常任理事の担当分野を支えるために広い職員層から委員会を構成します。</p> <p>②法人本部チームによるSNSの運用を進めます。</p> <p>③『洗足』編集会を強化し、その内容を吟味し、更に有効な活用を進めます。</p> <p>④「ICT・介護ロボット導入委員会」を設置します。</p> <p>⑤「地域貢献推進委員会」を地区別に設置します。</p>	<p>vi) イメージアップ並びに先進性の追求</p> <p>①主任・副主任、課長層とも非常に多忙で、委員会設置は困難でした。</p> <p>②4/6 を初回に法人フェースブックをアップして以来、各週金曜日更新を実行し、79 回タイムライン投稿しました。</p> <p>③『洗足』を、7/23 に第 13 号、11/23 に第 14 号、3/15 に第 15 号を予定通り発行しました。</p> <p>④「ICT・介護ロボット導入委員会」は未着手ですが、日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会（11/12～13 兵庫県立福祉のまちづくり研究所主催）に本部職員が参加。また真生園で 2 度の機会に（10/22 「福祉機器展示会」・ホテル KOSHO・5 名、2/21 「移動支援機器（歩行車）の活用ワークショップ」・総合リハビリテーションセンター福祉のまちづくり研究所・2 名）見学をしました。</p> <p>⑤「地域貢献推進委員会」を地区別に設置することはできませんでしたが、第 3 期計画の「地域貢献推進担当」チームに託す予定です。</p>

2. 基本理念を基盤にした活動

(1) 辞令交付式

2016 年 4 月 1 日（水）10：00 から舞子ビラ神戸・五色の間にて、新採用職員 17 名、昇任者 8 名、異動（課長以上）10 名に辞令を交付しました。開会礼拝では、神戸愛生伝道所竹内富久恵牧師のメッセージ、お祈り、祝祷をいただきました。

(2) 創業 41 年記念式典

2016 年 6 月 22 日（水）10：00 から舞子ビラ神戸須磨の間にて、神戸地区各施設から多くのご利用者にも参加いただいて元気で明るい記念式典を開催することができました。

記念礼拝では西神戸教会尾堂拓哉牧師から「あなたの隣人は誰？」のメッセージをいただきました。

永眠者追悼式では和田山地の塩伝道所内山強牧師の追悼の祈りをいただきました。表彰では、勤続10年5名、20年12名、30年1名に賞状と記念品を授与しました。またボランティア活動やご献金に対する感謝状を4名の方々に贈呈しました。最後に、全員で「365日の紙飛行機」を歌って閉会しました。

(3) 新規事業の順調なスタート

①グループホームたいのはた東

利用率85%で稼働しており、11月からは体験利用サービスもスタートしました。夜間対応の出来るパート職員の確保が困難な状況です。

②アクシスひょうご

利用率は自立センターひょうごのご利用者を中心に高率で推移しましたが、日中もご利用になる方の少なさ、支援区分の比較的低い方のご利用が多いこと、また夜間の支援体制を厚くして安心安全を確保していることから、経営は楽ではありません。

③神戸聖隷総合相談センター

法人内ご利用者の計画相談支援で契約数が239件となりました。事業の形態から赤字経営となりますが、神戸地区全体でカバーしています。

(4) 社会福祉法人制度改革対応

①組織体制関係

新定款と新定款施行細則を定めました。

評議員選任解任委員会を構成し、3/18理事会で2017年度以降の評議員を選任しました。

②会計監理関係

理事長、常務理事、監事団でプロポーザルを通じて選定した会計監査人を選定しました。

③社会福祉充実関係

社会福祉充実残額の試算（2015年度基準・全国経営協方式）では11億円と算出されました。

3. 監事監査

11/29に但馬地区のエスポワールこじかと北但広域療育センター、11/30に神戸地区のひょうごデイサービスセンターとワークセンターひょうごに会計監事による立ち入り監査が実施されました。

また11/29に但馬地区の主任級職員、11/30に神戸地区の主任級職員を対象にした福祉並びに法人事業に関する問題意識の状況を把握するための業務監事によるヒアリング監査が実施されました。

4. 出来した事案

(1) 利用者介助事故

4/29、ひょうごデイサービスセンター利用者（57歳、女性）が昼食時に喉詰め、入

院後 5/1 に死亡。主要な死因は既往症。幸いご家族との困難な関係には至りませんでした。

(2) 虐待事案

① 3月発生、ひょうごデイサービスセンターの食事介助で「無理やり口に入れていた」との神戸市への匿名通報の件、4/27 神戸市へ調査結果報告、9/6「虐待の判断に至らず」の回答がありました。

② 6/28、ワークセンターひょうご利用者（18歳、男性）の後頭部を、支援員が「はたく」行為。当日に役職者とともに謝罪、当日神戸市報告。8/31 付で懲戒処分「譴責」に処しました。

(3) 金銭侵奪事案

6/27 発覚、すま障害者地域生活支援センター相談利用者財産侵害事案（7月評議員会報告）、8/31 懲戒解雇処分、9/6 神戸市へ最終報告書提出。その後、神戸市の再発防止報告指示を受け現在の取組状況を提出しました。

(4) 職員間セクシャルハラスメント事案

神戸地区施設で発生、被害者から施設長への相談で発覚。9/16 加害者への調査対策委員会、9/21 被害者への調査対策委員会、9/25 常任理事会聴聞、9/26 懲戒処分（諭旨退職）。加害者が不服として、双方の弁護士間で調停協議となっていました。11/30 付で協議が成立しました。

この事案では、被害者が7月以降出勤できなくなったため、常任理事会で業務上の原因を認定するとともに主治医受療費を法人負担して復帰を期待しましたが、結果的に3月末を以て、被害者本人も退職しました。

以上

2016年度但馬地区事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
但馬地区本部長 種谷啓太

1. 第2期中期計画5年目（最終年）

- (1) 旧さくらの苑跡地活用につきましては、施設連絡会で検討を重ねましたが、改修費用捻出が難しく、また現事業の移設が遅れ、また建物の老朽化もあり事後計画は保留。
- (2) 総合相談所につきましては（新）さくらの苑に介護保険でのケアマネージャー、障害福祉での相談員、また両資格保有者職員を配置予定。
- (3) グループホーム部会
3回開催 1年後の制度改正に向けて企画立案するため第3期中期計画に引き継ぐ。

2. 但馬地区各会議

- (1) 施設連絡会は13回開催 13名出席
（新）さくらの苑開設進捗確認、障害福祉支援記録システム整備状況確認、第2期中期計画実践進捗確認、地域貢献への取り組みなどの検討実施。
- (2) （新）さくらの苑開設委員会
12回開催 8名出席
建設、運営、利用契約、事業移転、職員確保について検討。
- (3) 医務連絡会
6回開催 竹田地区5施設の医療対応について連絡。
- (4) 事務連絡会
6回開催 但馬総合事務所開設準備
- (5) 安全対策チーム
河川清掃、普通救命講習会実施、竹田福祉村合同避難訓練
- (6) 外部研修
12月10日 支援学校教員、基幹相談センター職員、圏域コーディネーターより「自分らしく生きていくための選択を考えてみませんか？」～青年期になすべきことはなにか～と題し研修実施。
- (7) 地域貢献推進委員会
（新）さくらの苑開設委員会で継続検討 ゴミ出し、無料送迎バスなど検討。
- (8) 地域交流部会
福祉体験学習を小中学校7校で9回実施。特別講師（点字、手話など）2校で13回実施。手話講習会3回実施（消防員、地域住民参加）地域行事参加、神戸聖隷杯グランドゴルフ大会主催。部会報告のかわら版を各施設に配布。

2016年度神戸地区事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
神戸地区本部長 有川 洋司

1. 第2期中期計画の最終年度における事業推進状況は以下のとおりです。

(1) 事業再編については利用者のニーズと客観的な支援の必要性に基づいたサービス提供を効果的に行うため、多機能による強みを活かすものと単一でサービスを特化することにより質の高いサービス提供を図るものとに編成し直す方向で取り組みました。また、喫緊の課題であるせいいやさかだいのシミズ事業所の移転については林タオル事業所と同じ建物への移転を検討しましたが、法令上の課題等により具体的な展開には至りませんでした。ワークセンターわかまつの移転課題も含め第3期中期計画において継続課題とします。共同受注については神戸友生園が基幹となって地区内事業所が連携して取り組む体制を構築し、スケールメリットを活かした新規受注先の開拓と安定的な作業量の確保をはかりました。

(2) グループホームについては法人では初めての建て貸し方式による「グループホームふくだ」の開設にむけてオーナー、業者との話し合いを丁寧に行い、10名定員という規模や正規職員の専任スタッフ配置などこれまでにない試みでしたが5月の事業開始にむけて着実に準備を行いました。バックアップセンター構築については、具体的な体制の確立には至りませんでした。今年度より「きたすま」と「みなみたもん」のサービス管理責任者を兼務とし、その職員を核とした今後のバックアップセンター構築のむけた体制づくりを検討しました。

(3) 新規事業の「アクシスひょうご」は法人内の各事業所の利用者の方々にご利用いただき当初の目標を上回る利用率を達成することができました。また、入所の併設型ではない単独型の短期入所施設という法人では初めての事業で最も重要視した安全面の確保においても複数の事業所間の連携により一年を無事に経過したことが一番の成果と考えます。また、「神戸聖隷総合相談センター」については経営的な課題はありますが、法人内各事業所の協力のもと239名の方と契約を行い計画相談の推進が図れたことと地域との連携により成年後見の勉強会を開催できたことは大きな成果でした。

(4) 「友が丘事業推進プロジェクト」は、地域生活支援拠点を中核的なイメージとして地域のニーズに対応する取り組みの在り方について検討しましたが、具体的なプランの確立には至りませんでした。しかし、今期から参画頂いた横田前理事より地域の特色を活かした方向性について示唆して頂いたことは、今後第3期中期計画において地域における公益的な活動を考えていくうえで繋がっていくものとなりました。

2. 事業運営に係るリスク管理面での課題について

今年度は法令遵守、職員倫理に関わる事案が複数発生し、事業存続が危ぶまれる事態に繋がりがねない事案であったためリスク管理に対する体制の不十分さを痛感し、反省と見直しが必要な一年となりました。業務管理体制はもとより職員育成や職員採用などについても見直しを行い、再発防止の徹底にむけて取り組みました。

2016年度 サービス・事業担当者会事業報告

サービス・事業担当者会議

委員長：西郷 昌一

2016年度のテーマ：「支援することを学ぶ」（理念の実践）

担当者会メンバー：種谷、高瀬、加藤、山本、西郷、伊崎、掃部、中江、井上

（委員長）西郷、（副委員長）伊崎

1. 総括

「理念に基づく利用者支援のあり方について」というテーマを今年も継続し、利用者へのサービスの充実として、その質を高めるために取り組んできました。

大きくは、各職制・階層別の研修と虐待防止チェックリストを全施設対象に実施しました。

研修としては、階層別の研修を実施しました。内容として、一年間の支援の集約としての総合職員研修、新たに採用された職員の研修では、新採用職員研修及び半年後に実施するフォローアップ研修。また、人事・財務・総務チームで行っているキャリアアップのための研修との関係を踏まえながら、例年の主任（副）・課長の各研修に加え、一般職を初級、中級、上級にブロックを分け、さらに各級においても勤務年数に分け、1研修20名前後を一組として、実施しました。

虐待防止関係の取り組みとして虐待防止チェックリストを用い、年間を2期に分け支援の振り返りと改善策の取り組みを各施設単位で行いました。第1期を4月～7月に支援を行ったものに対する振り返りを8月に、第2期は、10月～1月の支援を行ったものに対する振り返りを2月に実施しました。また、今年度は第1期の実施結果の内、不適切な支援や改善のある事柄について取り組みを実施しています。

更に、虐待防止関係に視点を充てた、今年度一年間にされた各施設の取組みをまとめていきます。

3月に実施された新採用職員入団前研修（本部主催）では、新採用職員の研修フレーム見直しにより、基本理念の理解を勤務に先立って実施し、4月以降に備えました。なお、講師を吉田和夫常務理事が担いました。

サービス管理責任者会議は、年間13回開催しました。（全体2回、地区別11回：神戸4回、但馬7回）参加人数28名（神戸11名、但馬7名）

会議内容は、各施設サービス内容の把握、不適切支援を考慮した支援実施書の活用方法の検討を行いました。「個別支援計画策定の意義とサビ管の役割」については、各施設への出向いて行つての研修を実施しています。

2. 研修報告

日時・場所	研修名及び内容	人数	講師
2016年5月13日～14日 コープこうべ協同学苑 宿泊	新規採用職員研修 ・神戸地区各施設見学 ・法人理念、キリスト教徒社会福祉、コミュニケーション、個別支援計画	17名	竹内牧師、水野理事長、稲松理事、有川本部長、木南課長
6月3日、17日 コープこうべ協同学苑	上級職一般職研修 組織の中の自分の役割 (チームワークとチームリーダーを再認識する)	(6/3) 23名 (6/17) 19名	津田評議員
7月28日 本部会議室	新副主任研修 組織の中での役割 自身の支援を振り返る (グループ討議) 人事制度評価者研修 「メンタルヘルス研修」 ～ラインケアとセルフケア～	5名	水野理事長 吉田常務 有川本部長 中江施設長
10月12日 丹波悠遊の森	中級一般職研修Ⅱ グループワークと交流	20名	講師なし
11月4日～5日 コープこうべ協同学苑	課長研修 ・基本理念について ・利用者の権利擁護について ・グループ討議 ・討論会	18名	内山牧師、吉田常務、有川本部長、西山副本部長、村山施設長
11月27～28日 但馬長寿の郷宿泊	新規採用職員フォローアップ研修 ・成年後見制度 ・メンタルヘルス ・先輩からの一言 ・但馬地区各施設見学 ・地の塩伝道所礼拝参加 ・自分自身の振り返り	17名	中江施設長 山口主任、 金井主任
1月13日	中級一般職研修Ⅲ 振り返りと組織の一員として求められるもの	26名	植戸評議員
1月31日、2月9日 コープこうべ協同学苑	主任・副主任研修 OJT研修	(1/31) 21名 (2/9) 27名	津田評議員
2月18日 コープこうべ協同学苑	総合職員研修 (全施設による取り組みの発表) 本部主催による新採用職員内定式	約130名	内山牧師

3. 虐待防止チェックリストの取り組み (別紙)

人事・総務・財務担当国会議

委員長 久木田憲彦

担当者：但馬地区 久木田（委員長）、西山、太田

神戸地区 村山（副委員長）、有川、谷上、吉田、吉本

今年度は、全職員を対象としたストレスチェックを10月に実施し、職場環境の改善等に着眼した組織分析説明会を地区ごとに行いました。また、臨時職員の給与単価について、正規職員との比較や地区間の格差等様々な角度より検証し、兵庫県最低賃金がパート職員の時給単価を上回る10月より改定しました。あわせて、次年度の処遇改善加算増額分についての手当の検討も行いました。

人事制度については運用3年目を迎え、法人単独で制度運用を行うことを目的とし、これまで支援いただいた株式会社経営開発センターによる人事制度施設長会議を開催し、人事考課制度と目標管理制度の運用についての理解を深めるとともに、新規採用職員及び、副主任昇任職員を対象とした人事制度説明会を法人職員が実施し、新人事制度の周知に努めました。

さらに、一般職員への目標管理制度の導入について検討するとともに、サービス事業担当者との連携による研修体系構築委員会において、人事制度に則した研修体系の整備を行いました。

人事制度の完成を目指しテーマごとのワーキンググループにより実行計画を策定し、次年度以降の第3期中期計画で取り組む部会へ引き継ぎました。

実施内容は下記のとおりです。

記

人事・総務・財務担当国会議

2016年6月27日：ストレスチェック規程、臨時職員給与単価

7月19日：ストレスチェック制度実施規程

8月30日：ストレスチェック結果分析方法、臨時職員給与改定

9月27日：ストレスチェックの実施、考課結果の処遇への反映

10月28日：研修体系構築委員会、処遇改善手当の検討

12月 5日：人事制度の運用、処遇改善手当の検討

2017年1月26日：ストレスチェック組織分析説明、人事考課結果、WG報告

2月21日：人事考課制度スケジュール、WG報告

第1回人事制度施設長会議

但馬地区：2016年 4月12日 神戸地区：2016年 4月19日

テーマ ・目標管理制度の進め方と設定目標の進捗管理の進め方

第2回人事制度施設長会議

但馬地区、神戸地区：2016年 9月26日

テーマ ・2016年度人事考課の進め方と人事考課の推進スケジュール管理

第3回人事制度施設長会議

但馬地区、神戸地区：2016年11月 2日

テーマ ・人事考課進捗確認と分析表入力・施設別審議会

第4回人事制度施設長会議

但馬地区：2016年12月 1日 神戸地区：2016年11月25日

テーマ ・地区評価審議会とフィードバック面接

第5回人事制度施設長会議

但馬地区：2017年 2月21日 神戸地区：2017年 2月22日

テーマ ・年度のまとめと今後の課題

新採用職員説明会

職員研修：2016年 5月13日

人事制度評価者研修

新副主任研修：2016年7月28日

ストレスチェック組織分析レポート説明会

但馬地区：2017年 3月 2日 神戸地区：2017年 3月 8日

以上

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 平生園

施設長 松本 雄二

総括.

- (1) 第2期中期計画の中核をなす地域密着型特養の新設については、年度内に完工検査や補助金申請、事業許可申請の提出を完了して、次年度に事業開設可能な状況となりました。
- (2) ケア記録等帳票入力業務省力化や情報の一元管理、科学的データの利用者支援への活用等を目的に2016年12月に記録ソフトを導入しました。
- (3) 作業療法士の雇用により、利用者やその家族の要望に沿う形での専門的なりハビリテーションが可能となりました。また作業療法士の指導により、介護職員も起居移乗時やレクリエーション時の生活リハビリテーションが可能となりました。
- (4) 身体拘束防止において、多職種協働で身体拘束に繋がりそうな原因と対策を検討することから始め、試行錯誤を繰り返し結果的に無理なく身体拘束解除が可能となり、それを法人総合研修で報告したことで好評価をいただきました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	地域密着型特養(サテライト型)新設への対応	①新施設「さくらの苑」建設と兵庫県完工検査完了 ②行政へ施設開設(事業許可)の申請書類を提出 ③地域、利用者、家族、市内居宅介護支援事業所へ説明会開催や自宅訪問、文書にて説明
	施設改修	①隔月にアサヒファシリティズ(株)による建物設備調査を実施
	オンリーワンのサービスの提供	①アセスメントに基づいた個別ニーズに沿った支援の提供(外出、食事、余暇活動)とサービス提供後のモニタリングの実施
	地域との交流の促進	①法人但馬地区施設で連携を図り、市内の小・中・高等学校に Outreach 福祉体験学習を実施 ②法人但馬地区施設合同で高齢者を対象としたグラウンドゴルフ大会を主催
	平生園独自のターミナルケアの構築・定着	①ターミナルケアに際し、本人や家族の要望に沿ったサービスを提供(13名) ②家族参加でのデスカンファレンスは開催できなかったが、個別のターミナルケア終了毎に家族と職員にアンケートを取り委員会内で検討
ビ サ ス ー	各委員会活動を活用したサービスの充実	①接遇学習会や定期の接遇新聞の発行により、適切な身嗜み、あいさつ、言葉掛けの意識付けを実施 ②医療研修委員会を中心とした学習会の実施

サービス	各委員会活動を活用したサービスの充実	③本人と家族へターミナルケアの意向確認を実施し、それに沿ったサービスを提供（13名）
サービス	各委員会活動を活用したサービスの充実	④オムツゼロに向けた学習会の実施及び、オムツ業者によるオムツの当て方講習会受講 ⑤事故防止委員会を定期的に開催し、対策を職員会議にて職員に周知 ⑥身体拘束状況の確認、拘束解除に向けた取り組みの検討及び実践、虐待についてのアンケート実施 ⑦手指消毒、ノロウイルスに関する学習会を実施、また感染症予防啓発の実施 ⑧楽しみのある食事・おやつの提供や利用者の嚥下・体調に合った食事形態を多職種で検討し提供 ⑨こども園や家族、市内ボランティアグループの新たな受入れによる充実した余暇活動の実施 ⑩行事/余暇活動を部門別にリーダーを分け、行事、外出、レクリエーションのレポーターを増やし定期的に実施
	権利擁護のための支援	①成年後見制度活用推進委員会に職員を派遣 但馬地区開催の成年後見制度基礎研修と神戸地区開催の成年後見制度実務研修に職員を派遣
経営	増収への対応とコスト削減	①経費削減について会議を開催するも効果的な対策は未実施 ②今年度4名の介護度変更申請実施（報酬増） ③短期入所生活介護事業において新規加算を2項目取得
	光熱費削減への取り組み	①職員会議にて光熱水費等の推移を説明してコスト意識を啓発
人材育成	キリスト教理念に則った介護の具現化	①朝礼時の讃美歌賛美、聖書・日毎の糧拝読及び職員会議での法人理念の唱和 ②但馬地区キリスト教福祉講座に2名職員を派遣
	リーダーの育成	①ユニットリーダーを配置し、リーダーとしての役割を担える人材に育成 エルダー制度の計画的活用により、新人及び中堅職員とも育成 ②各委員会活動の起案、実践は実現するも、評価、見直しまでには至らず
	職員の専門性の向上	①外部内部の研修会へ随時職員を派遣 ②専門職と各委員会を中心とした施設内勉強会を開催し専門的知識を習得 ③但馬長寿の郷理学療法士による専門的人材派遣事業活用

(2) 各事業の課題・対策への取り組み

i) 介護老人福祉施設

課題	実施内容
オンリーワンサービスの提供と充実	①入所時やターミナルケア時及び状態変化が見られた際には随時アセスメントを実施
オンリーワンサービスの提供と充実	②自己決定、自己選択機会の提供と継続した対応 ③意向に沿った個別外出支援の実施（自宅、買い物、散策等） ④誕生日当日にお祝い会を開催し、オンリーワンの誕生者希望献立を提供（57名） ⑤各担当がニーズの聞き取りを実施した上で個別余暇活動を実施 ⑥定期的に排泄表を見直し利用者個々の排泄リズムや尿量を把握することにより、オムツに頼る排泄介助からトイレ誘導主体の排泄介助へ徐々に移行 ⑦ターミナルケア後の家族や職員を対象に、サービス向上のための振り返りアンケートを行いデスカンファレンスを実施
QOLの向上に繋がる支援の充実	①生活環境改善委員会を中心とした環境整備の啓発及び実施 ②美しい整容支援をユニット目標に掲げ、利用者とのコミュニケーションを取りながら実施
レクリエーションの充実	①多職種協働で脳トレ、口腔体操、おやつ時の選択メニューの提供、オンリーワン支援及び集団レクリエーションや外出を実施 ②行事/余暇活動を部門別にリーダーを分け、行事、外出、レクリエーションのレパトリーを増やし定期に実施
季節感あふれる空間の演出および行事、余暇活動の計画・実施	①季節毎に利用者との協働による壁面装飾等の作成及び掲示 ②花見会、夏祭り、ハロウィン、クリスマス、お正月、節分、ひな祭等の季節を感じられる行事を提供 ③行事やオンリーワン支援実施後に行事写真を掲示 ④旬の食材を使用した季節感ある食事の提供

ii) 短期入所生活介護（介護予防短期入所生活介護）

課題	実施内容
オンリーワンサービスの提供と充実	①送迎やサービス担当者会議、アセスメントに介護員が参加して家族と情報を共有 ご家族との情報共有を目的に連絡ノートを作成 ②誕生日希望メニューの提供（20名）及び記念写真を家族へ配布 ③個別の生活パターンを把握し、可能な限り在宅と同じリズムで過ごせるよう支援 ④9時から17時の間で希望を伺い柔軟に送迎時間を調整 ⑤利用2日前に体調や身体機能等の変化を電話により確認し、家族、本人の意向や状態に合わせた受け入れ準備と支援を提供 ⑥家族や本人のニーズに沿った作業療法士によるリハビリと介護員による生活リハビリを実施

短期入所独自のプログラムの構築	①日課の見直しを行い、優先度の高い業務だけを残すことにより寄り添う時間を確保 ②ニーズに沿い個別及び集団でのレクリエーションを充実（作業療法士による体操、口腔体操、折り紙、脳トレ、ちぎり絵、書道、塗り絵等）
-----------------	--

iii) 居宅介護支援事業

課題	実施内容
介護支援専門員の資質向上	①介護保険制度法令遵守 ②スーパーバイザー養成講座参加 医療連携マニュアルに沿っての連携実施 ③介護支援専門員研修計画（朝来の医療と介護を考える会・ケアマネジメント支援会議等）に沿って研修会参加 ④居宅ケアマネジメント支援会議 10 回/年実施
高齢者相談センターの充実	①訪問 409 件/年 総合相談 1186 件/年実施 ②あさごいきいき百歳体操教室参加（10 回/年） ③地域住民から高齢者相談センターへの案件については、地域の民生児童委員と情報を共有することにより、地域、行政、各種事業所が連携してサービスを提供
マニュアルの見直し	①マニュアルの見直しと不足分を作成
書類管理	①ケースファイルを新規書式へ順次変更 ②経過書類の分別と処分
キャラバンメイト活動	①2017年度キッズサポーター養成講座に向けて会議参加（2回/年） たつの市キッズサポーター見学（10/19） 朝来市キャラバンメイト養成講座参加（2名） 認知症サポーター養成講座参加（新井3区）

2. 研修

法人全体で取り組んでいる虐待防止、成年後見制度に関連した法人内外の研修会に職員を派遣することで、知識と意識を高めることができました。また、それぞれの委員会と部署から各分野専門的な研修会に職員を派遣し、学んだ知識や技術を伝達研修することで、個人のスキルアップを図ると共に共通認識を持つことで統一した支援に繋がりました。また、さくらの苑開設準備に伴い、地域支援に関する研修会に多数職員が参加しました。

内部研修（法人内）		外部研修（法人外）	
内容	実施月	内容	実施月
新任職員オリエンテーション（各委員会）	4月	介護職員向け専門研修	5月
		虐待研修会	5月
新規採用職員研修	5月	気づきの事例検討会	5.7.8.9. 10.11.12月
上級一般職員研修	6月	ケアマネジメントの基本を学ぼう	6.7.8.9月

感染症委員会学習会	6月	老人福祉施設新任職員研修	6月
接遇委員会学習会	7月	介護福祉士実習指導者講習会	6月
おむつゼロ委員会学習会	8月	認知症予防体操リーダー養成講座	6.10.11月
医療研修委員会学習会	10月		
2016年度中級一般職員研修	10月	「地域在住高齢者・虚弱高齢者の転倒について」	6月
キリスト教福祉講座	10月	専門的人材派遣事業	7.9.12月
感染症委員会学習会	10月	地域包括ケアシステム研修会	7月
法人課長研修	11月	平成28年度新任職員OJT担当者研修	7月
成年後見制度基礎研修	11月		
2016年度新規採用職員フォローアップ研修	11月	若年性認知症の生活支援研修	7月
		認知症機能訓練(4DAS)基礎研修	7月
ターミナル委員会学習会	12月	相談支援従事者初任者研修	7.8.9月
中級一般職員研修	1月	但馬ブロック栄養士・調理員研修会	8月
2016年度主任・副主任研修	1.2月		
成年後見制度実務研修会	3月	喀痰吸引2号研修	10月
新採用職員入団前研修	3月	看護職員研修	11月
		但馬排泄ケア研修会	11月
		南但給食施設協議会研修	12月
		キャラバンメイトサポーター養成講座	12月
		ユニットリーダー研修	12.1.2月
		兵庫県老人福祉事業但馬ブロック直接処遇研修	1月
		病院・社会福祉施設防火研修会	3月
		朝来市高齢者施設合同連絡会主催職員合同研修会	3月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
3件	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援事業所…1件 (訪問の遅延と住宅改修について) ・短期入所生活介護…2件 (利用日程の調整不備と、職員間の情報共有、介護方法の不統一等について) 	3件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
127件	5件	642件

ヒヤリ・ハット報告件数 642 件中、372 件（全体の 58%）が転倒、滑落、転落によるものであり、結果、事故報告の病院受診 5 件中 4 件が転倒、滑落が要因となった骨折、挫滅創出血でした。利用者の身体的機能の低下と認知症の進行が要因のひとつと考えられます。転落、滑落についてはセンサーマット、センサーベッド、衝撃吸収マット導入で対応しています。

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難訓練	日中火災想定避難訓練（通報訓練含む）	5 月
普通救命講習	心肺蘇生法、AED 使用方法	7 月
避難訓練	夜間火災想定避難訓練（通報訓練含む）	10 月
福祉村合同避難訓練	火災想定合同避難訓練（発災施設わらしべ：駆けつけ応援避難誘導）	11 月
病院・社会福祉施設等防火研修会	講義、消火訓練	3 月

4. 地域交流

法人但馬地区施設の地域交流部会を中心に地域交流に努めました。4 月「お城まつり」での出店、5 月に竹田地区老人クラブを対象とした法人主催の「グラウンドゴルフ大会」、年間を通して市内 1 高校 3 中学と 2 小学校を対象とした福祉体験学習を実施しました。これは、事前に学校と協議して要望通りのプログラムにて学校を訪問しての学習会となりました。

(1) ボランティア) 団体

団体名	回数	延べ人数	団体名	回数	延べ人数
芙蓉の会	6 回	28 名	フラダンス	1 回	20 名
さざなみ会	7 回	38 名	読み聞かせとフラダンス	1 回	19 名
おとめの会	3 回	7 名	自動車組合修理	1 回	16 名
折り紙教室	2 回	2 名	清掃	3 回	90 名
赤ちゃん先生（親子）	1 回	20 名	竹田こども園交流会	1 回	25 名

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 デイサービスセンター さくらの苑
 施設長：掃部 久美代

総括.

- (1) 第2期中期計画の最大の目標である新規施設としての地域密着型通所介護事業所移転に向けて、完工検査や事業許可申請に加え、設備やケア内容の検討等、事業開始に必要な実質的な準備を行いました。
- (2) 利用者個々のニーズ（医療的・介護方法・要望）に応えるため、担当者ケア会議やカンファレンスにて情報収集を実施しニーズを把握した上で、ひとつひとつに丁寧に対応しました。
- (3) ケア記録等帳票入力業務省力化や情報の一元管理、データの利用者支援への活用等を目的に記録システムを導入した結果、連絡ノート記載内容についても見直しが行え、ご家族と細やかな情報の共有が可能となりました。
- (4) 目標利用率 75.0%で当初予算を立てましたが、実績としては利用率 71.0%に止まり(対前年比 2.1%減)大変厳しい経営状況となりました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	具体策の進捗状況等
中期計画	新築移転	①新施設「さくらの苑」の建設、兵庫県完工検査が完了 ②利用者、家族へ新施設の説明と契約を実施 他事業所や市高年福祉課へは事業内容について文書と口頭により説明 ③朝来市日常生活支援総合事業説明会に参加し方向性を確認
	利用者のニーズに応える	①送迎時等を利用し家族から情報収集、また 担当者会議でニーズを把握し支援に活用 ②処置を必要とする利用者や、酸素吸入利用者、感染症対象者、ストマ装着者など医療ケアの高い利用者を受け入れ
	地域交流	①新規ボランティアを受け入れ 小中高等学校を対象とした福祉体験学習に職員を派遣 随時、利用希望者や家族の見学を受け入れ
サービス	個別対応を含めたサービス	①移乗時本人の負担にならないような介護方法の検討や福祉用具の活用を実施 送迎時間や送迎方法等、本人家族のニーズに合わせた柔軟な対応を実施

サービス	個別対応を含めたサービス	②日常の生活援助における排泄介助のような利用者の羞恥心に配慮が必要な事案については、介助の方法や備品を変更 食事については、個人の嚥下機能、咀嚼機能に適した食事形態で提供
	体調管理	①体調管理については、家族や他の福祉サービス提供事業所と対応に関する助言や写真等により情報共有 服薬管理については、送迎時に職員が服薬確認と報告を行い看護師と連携強化 心疾患のある利用者に関しては、体重やむくみ、食事内容、飲水量を家族・訪問看護師等と情報共有し支援 ②感染症対策の確認と保健所の指針を全職員で周知
	権利擁護のための支援	①接遇研修を職員会議で行い、不適切ケアに関する話し合いを実施 虐待チェックリストの実施、職員会議にて虐待防止についての話し合いを実施 ②但馬地区合同の成年後見制度研修会に参加
経営	報酬改定に伴う介護給付費減収への対応	①定員を満たす契約利用者を確保 ②居宅介護支援事業所との連携強化 ③追加利用と代替え利用を家族や介護支援専門員と連絡調整し柔軟に受け入れ
	設備面の老朽化	①偶数月に㈱アサヒファシリティーズによる建物診断の実施を継続
人材育成	キリスト教理念の具現化	①職員会議で法人基本理念を唱和 ②キリスト教福祉講座へ職員を派遣
	専門性の向上	①職員会議にて対人援助研修会を開催 また、送迎手順や介助、環境等のリスク場所の洗い出しを行い、援助方法を統一 ②地域密着型介護施設を見学し情報を収集 ③同一法人内の専門研修へ職員を派遣 ④現場内での支援における気づきや欠席者があった時の職員会議の内容については、職員間の連絡ノート活用により情報共有

(2) 各事業の課題・対策への取り組み

i) 事業名 通所介護・介護予防通所事業

課題	実施内容
利用率の向上	①個別ニーズに応じた時間帯での利用や入浴サービスを提供 土曜・祝日の利用希望者の受入れ強化 ②新規利用者向けの1日体験利用（お試し利用）を実施 ③居宅介護支援事業所への利用時情報提供を強化
サービスの質の向上	①余暇時間に縫い物や切り絵など特技を活かした活動を実施 ②利用者個別状況に応じた入浴方法を実施 ③職員間の情報共有を密に行い支援方法を統一

2. 研修

法人内外の研修会に職員を派遣し、職員会議で学んだ知識や技術の伝達研修を行うことで、共通認識を持つことが可能となり統一した介護に繋がりました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
キリスト教福祉講座	9月	リハビリ研修	8・10月
キリスト教福祉講座	10月	地域ケアスタッフ連絡会	9月
キリスト教福祉講座	11月	介護保険集団指導	10月
主任・副主任研修	2月	リスクマネジメント研修	11月
総合職員研修	2月	総合事業説明会	1月
成年後見制度研修会	3月	朝来市施設職員研修	3月

3. リスクマネジメント

各利用者の身体状況の情報収集を行い、転倒や利用中の体調の変化に注意して支援を実施しました。

個人情報については、苦情対応後全職員が再確認し、意識した対応に努めました。

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
1件	・利用者体調不良時の対応について	1件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
3件	0件	15件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難訓練	火災、地震時の職員対応と利用者避難誘導の訓練	3月
但馬地区合同訓練	災害対応訓練、但馬地区連絡・応援要請訓練	2月
福祉施設防火研修	消防署で火災時の非難誘導や消火訓練	3月

4. 地域交流

(1) ボランティア

- ア) 個人：俳句指導 1名
フルート演奏 1名
似顔絵 1名
- イ) 団体：おとめの会（ハンドマッサージ）10名
たんぽぽ（ハーモニカ・ギター）7名
ひとりとその仲間たち（手遊び、言葉遊び）8名
智の会（踊り）6名

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 高齢者グループホームわらしべ
施設長 松本 雄二

総括.

- (1) 昨年に引き続き地域医療機関の協力を得て看取り介護を実施。利用者のニーズに応える支援に取り組みました。支援後のご家族、職員へのアンケートは今後の実践に繋げるものとなりました。
- (2) 個々の思いに沿った外出支援等年間を通し実施しました。地域資源を活用した地域の方とのカラオケや昼食交流は初めての試みでした。
- (3) プライバシーへの配慮として新たに全居室内トイレのカーテン設置や自然な風を取り入れる網戸、玄関等の手摺設置等快適で安全な生活のための環境整備を実施いたしました。
- (4) ケア記録等帳票入力業務省力化や情報の一元管理、科学的データの利用者支援への活用等を目的に2016年12月に記録ソフトを導入しました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	その人らしい暮らしの提供	①ご本人の生活スタイルに合わせ（起床・就寝、食事時間変更や新聞購読等）その人らしい過ごし方への支援を実施 地域資源（公民館）を活用したカラオケ大会・食事会実施（9月）
	地域交流と貢献	①入居希望者等からの相談受け入れ実施（8回） ②空床情報を居宅介護支援事業所等へ提供し利用の機会を提供（利用4回/空床6回） ③職員による小中高校の福祉体験学習等活動に参加（15回） ④認知症キャラバン・メイト研修2名受講しメイトとして活動に参加（2月）
サービス	個別支援の充実	①ご利用者ご家族アンケート実施（4月）希望等に基づいた外出等を計画実施（買物・催し物見物・遠方外出・コンサート・受診等） ②・③ 少人数ユニット会議を（各ユニット3～4回/月）開催し、状態に即した計画見直しと連絡帳を用い日々の変化に伴う情報を共有 ④毎月の近況報告に加え、看取りの方（1名）については、ご家族とのメールによる随時報告・連絡・相談等を実施

サービス	安心・安全な生活の提供	<p>①安全で安心な入浴のために浴槽用手摺(4・3月)と脱衣場用滑り止めマットを設置 安心できる空間として新たに居室内トイレにカーテンを設置</p> <p>②真生園診療所の定期訪問(1回/月)恵生園看護師の緊急対応や健康管理の実施(1~2回/週)</p> <p>③はるかぜ診療所(個別契約)との24時間体制が5名となり、地域連携がより強化され看取り介護が実現</p> <p>④平生園管理栄養士による栄養アセスメントに基づく栄養指導の実施(3月)と看取り時の栄養相談等実施</p> <p>⑤コグニサイズ研修(5月)・レクレーション研修(6月)参加 余暇活動にて運動を継続 骨折による入院なし</p> <p>⑥感染症予防研修(12月)参加 備品の確認、予防接種(11月)を実施 施設内消毒の実施</p> <p>⑦救命士によるAED訓練(6月)と普通救命講習受講(但馬地区:7月2名) 火災、地震等日中・夜間を想定した自主避難訓練(10回)を実施 緊急時利用者搜索資料作成(9月)</p> <p>⑧・⑨事故発生後の再発防止と早期対応の検討と家族への迅速な連絡実施</p>
	地域との交流	<p>①・③地域ボランティアとの交流を年間通じて実施(30回)</p> <p>②風船バレーボール大会(5月)や12月行事には和田山合唱団等に来所頂き、朝来市内グループホームの方々を招待し交流(約100名)</p>
	権利擁護のための支援と虐待防止への取り組み	<p>①高齢者虐待・身体拘束研修会を開催(10月)</p> <p>②・④虐待防止チェックリスト(2回/年)の実施とユニット会議や職員会議にて日々の支援の振り返りを実施</p> <p>③職員から募った虐待防止標語等毎朝唱和し、意識づけを継続</p> <p>⑤全居室内トイレへ新たにカーテンを設置</p>
経営	利用率の向上	<p>①・②特に下半期は持病の悪化に伴う入院が繰返し発生。空床情報を事業所等へ積極的に提供実施</p> <p>③要介護度変更4名実施(介護度アップ3名)</p> <p>④待機者選考早期実施するも家族都合等による空床発生</p>

経営	経費削減	①・②光熱水費グラフ化し意識づけと冷暖房機使用の工夫等実施するも寒冬等にて削減にはならず ③節水等省エネ家電(洗濯機、乾燥機)を意識し購入
人材育成	法人理念の理解	①職員会議前の基本理念、わらしべ基本方針唱和 ②キリスト教福祉講座参加(1名:9.10.11月) ③職員会議にて利用者手引きを活用し学習(4月)
	専門性の向上	①・④ADL、看取り、認知症キャラバン・メイト等研修参加 ②・③会議等にて言葉遣い等を振り返り接遇向上に努力

(2) 各事業の課題・対策

i) 認知症対応型共同生活介護

課題	実施内容
利用者主体の支援	①利用者希望による看取り(1名)や毎日の日中活動(調理・ゴミ捨て・洗濯物干し等)への支援実施 ②催し物の案内や掲示をする事により自己決定できる機会の提供と自宅への外出の実現(2名) ③帰宅等思いを叶える取組みを実施
日中活動の充実	①・④ドライブ・買物・食事等個々のニーズに沿った外出等実施(31回延べ149名参加) ②ユニット毎の行事实施(たこ焼き・一品料理等) ③・⑤あったかプラザからの出前喫茶(3月)実施 ⑥こども園等との交流は依頼するも実現できず

2. 研修

研修には積極的に参加しましたが、少人数での参加となりました。又、伝達研修についても未実施の研修もあったので、報告書にて確認、周知しました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
上級一般職員研修	6月	グループホーム連絡会「ADL」研修	5月
手話講習会	7・8月	甲種防火管理者新規講習	5月
虐待防止判定基準表説明会	8月	平成28年度介護支援専門員専門研修 課程I	5・6・7・9月
キリスト教福祉講座	9・10・11月	認知症予防体操リーダー養成講座	5月
成年後見制度基礎研修	11月	グループホーム連絡会「レクリエーション」研修	6月
2016年度総合職員研修	1月	地域包括ケアシステム研修	7月
		平成28年度兵庫県相談支援従事者初任者研修	7・9月

	普通救命講習	7月
	認知症研修会	7月
	グループホーム連絡会「グループホームでの看取りに向けて」研修	9月
	グループホーム連絡会「高齢者虐待・身体拘束」研修	10月
	認知症キャラバン・メイト養成研修	11月
	グループホーム連絡会「感染症対策」研修	12月
	朝来の介護・医療を考える研修会	2月
	朝来市内の病院・社会福祉施設等防火研修会	3月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		0件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
53件	7件	60件

※事故内容：転倒 19件・滑落 12件・尻餅 8件・打撲 3件・誤薬 2件・怪我 8件・その他 1件

訓練等	内容	実施月
避難訓練等	夜間・日中想定避難訓練、地震想定訓練、職員による火災報知機の操作手順説明	5～3月
水害予防	さくら川清掃・わらしべ建物周辺溝等掃除	5.8.9.2月
福祉村合同防災避難訓練	夜間の火災想定訓練 (訓練火災発生場所：わらしべ)	11月
福祉施設等防火訓練	講義・消火訓練(南但消防本部)	3月

4. 地域交流

神戸聖隷グラウンドゴルフ大会、朝来市・養父市合同風船バレーボール大会、地域で実施される催し物への外出等積極的に交流を行いました。又、今年度新しく和田山女性部との繋がりが出来、わらしべ夏祭りでも交流が実現いたしました。

(1) ボランティア

ア) 個人：6名 延べ24回(習字・折り紙・包丁研ぎ・茶道・利用者支援)

イ) 団体：8組 (ハーモニカサークルあおぞら・和田山老人クラブ女性部・おとめの会・竹田自治協議会・カパーフラオカイリマレイアーピキ・泉流香玉の会・山賀流舞踊菊花民踊研究会・和田山合唱団)

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 恵生園
 施設長 田路 松代

総括.

- (1) 精神病院長期入院者の利用ニーズに応え、相談支援事業所、行政、精神保健福祉士、家族等と連携のもと、制度外で体験宿泊の機会を提供し2名の入所受け入れを行いました。
- (2) 3名のフロアリーダーを配置し、各フロアの利用者支援、業務面での課題抽出と改善策を検討・実施すると共に、マニュアルを実態に合った内容に見直しました。
- (3) 夜間帯における安全確保のため、朝来市シルバー人材センターに委託し宿直者を配置しました。防犯対策強化整備事業補助金を受け110番直結非常通報装置、防犯センサーライトを設置しました。
- (4) ケア記録・日誌等、転記業務の簡素化による業務省力化と科学的データに基づく利用者個別支援の実践を図るため、2017年5月の障がい福祉支援記録システム整備に向けた準備を行いました。
- (5) 地域の多様な相談に対応するため相談員を増員し、新設さくらの苑に設置する総合相談窓口へ「恵生園相談支援事業所」を移設することを決定しました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	具体策の進捗状況等
中期計画	(地区) 総合相談窓口の開設	①2017年5月開設のさくらの苑総合相談窓口への恵生園相談支援事業所移設方針を決定(6月)
	(施設) 老朽化した施設の改修	①さくらの苑建設を最優先し、防水・外壁塗装等の改修工事は2017年度以降に延期
	(施設) 地域との交流促進	①市内小中高等学校で福祉体験学習を実施(点字3校、手話4校、福祉全般2校) ②利用者が手話や点字、視覚障害者の手引きのモデル、生活についての講師を担う(6校) ③竹田お城まつりで具だくさん汁を提供(4月)
サービス	機能改革 (①②は地区中期計画)	①アセスメントから利用までの流れを明確にし、個々の日課表を提示(9名) ②日中活動の環境改善実施(共有スペースへパソコン、カラオケ設置)、生活スペースの環境改善実施(居室のレイアウト見直し、脱衣室ベンチ・東玄関ベンチ更新) ③フロアリーダーによる早出遅出等の業務マニュアルの見直しと実施(4件)

	安全管理体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ①台風ごとに土嚢・防水板を設置（9、10月）、水害想定防災訓練を実施（3月） ②事故・ヒヤリハット報告書の分析とケース会議の実施（3件）、リスク対策勉強会の開催（4月）、単独外出者確認ボード作成（5月） ③支援課書庫・鍵の整理、エデン書庫内の書棚購入（11月）、保存年限に基づいた書類の仕分け実施（2月）
	権利擁護に向けた支援	<ul style="list-style-type: none"> ①成年後見制度の手続き支援実施（後見3名、任意後見1名）、家族会主催と但馬地区合同の成年後見制度研修会を開催（9、11月） ②虐待・不適切ケア判定基準表勉強会開催（9月）、虐待防止・苦情解決委員会にて虐待防止取組報告実施（9、3月）
	家族との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ①個別支援計画の確認を面談と郵送にて実施 ②転所希望者に対し、相談支援事業所と家族を交え報告、ご利用者の意向確認を実施（2名）
	市内精神障害者の支援	<ul style="list-style-type: none"> ①精神デイケア実施（月2回/延126名）、関係者情報交換会議実施（7.10.3月）
経営	増収への対応	<ul style="list-style-type: none"> ①障害支援区分見直しへの働きかけを実施（区分2→3が1名、3→4が5名、4→5が5名、5→6が1名） ②市町村ごとに相談支援事業所へパンフレットを送付し、入所希望者情報を取得し待機者確保
	経費削減	<ul style="list-style-type: none"> ①全館電気点灯・消灯時間を検証し、マニュアル作成とエアコンの集中温度管理で節電実施 ②コイン乾燥機導入を検討したが、多床室での洗濯干し場確保不可能と判断し、必要者に対して2階に洗濯干し場を整備
人材育成	法人理念の理解と浸透	<ul style="list-style-type: none"> ①毎朝礼時に讃美歌、聖書、日毎の糧を唱和 ②週の初めと職員会議で法人基本理念、恵生園基本方針を唱和 ③キリスト教福祉講座受講（9.10.11月/1名）
	職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ①事業計画を具体的に推進する委員会に全職員参加し、月次計画に基づき実践 ②職員個々の経験年数に応じた研修予定表を作成し参加 ③新採用職員に対し障害特性の伝達研修を実施 ④手話検定5級資格取得8名（12月）、毎朝礼時に手話・点字ワンポイントレッスンを実施

(2) 各事業の課題・状況

i) 事業名 生活介護事業

課題	実施内容
個別支援の充実	①個別支援計画・モニタリングの学習会実施 (4.7.1月) ②業務予定表に基づいたモニタリング・支援会議 を実施(3月モニタリング完了) ③有償ボランティアを活用し、個別ニーズへ対応
日中活動の充実	①平日に加え、日曜に日中活動の提供(19回) ②活動補助ボランティアを開拓(1グループ) ③余暇委員会に利用者出席、活動希望聞き取りを 行い支援に反映(5.8.10.12月)

ii) 事業名 施設入所支援事業

課題	実施内容
重度・高齢化への対応	①高齢化に伴う体調変化が生じた方に対して、相 談支援事業所と家族を交えた報告実施(5名) ②但馬長寿の郷理学療法士指導による個別リハ ビリ支援を提供(21名)、居室や車いす等での 過ごし方勉強会(5月)、高齢者体験勉強会開催 (11月)
口腔ケアの充実	①出張歯科検診実施(9月2回/32名) ②口腔ケアグッズの点検実施(5、8、9、2月)
医療・栄養面の充実	①神戸ヤクルト販売(株)講師による大腸癌予防勉 強会実施(9月) ②感染症予防チェックリスト実施(4月)、ノロ ウイルス感染症対策確認、処理キット点検実施 (8、1月) ③煩雑していた医療費現金払いを口座引き落と しへ変更し、事務処理を改善(4医療機関) ④緊急時に対応する勉強会実施(5、6、8、9、11、 2月)、緊急時の医療情報提供書作成(60名) ⑤栄養マネジメント実施(延289名)
地域生活移行支援	①グループホーム体験利用(2名)、他施設体験 利用(2名)うち、1名が他施設移行 ②他施設等体験利用時に相談支援事業所と連携 し支援実施(3名)

iii) 事業名 短期入所事業

課題	実施内容
利用率の向上	①相談支援事業所へパンフレットを送付し、利用希望者情報収集を実施 ②特別支援学校の見学会等に積極的に参加
地域貢献	①精神病院等入院中の入所希望者に対して、制度外で体験宿泊の機会を提供（延7名/29日）

iv) 事業名 相談支援事業

課題	実施内容
新規依頼者への対応	①新規利用者へスムーズな対応実施（21名） ②朝来市計画未作成者情報を収集し、計画書作成
計画作成者へのフォローと確実な請求処理	①対象者に合ったモニタリング間隔への見直し・行政への申請対応（7名） ②計画相談関係書類を提出し行政担当者と連携
地域の関係機関会議への参画及び朝来市委託相談への対応	①関係機関と連携、南但馬自立支援協議会へ参画（全体会議・運営委員会・しごと部会） 但馬圏域障害者相談支援事業担当者会議出席 ②朝来市基本相談（委託）受託者へ対応（5名）

2. 研修

内部研修は、障害支援区分調査前準備勉強会を実施し、ケース担当の生活支援員自ら調査にあたることができ確実な情報提供で大幅な支援区分の見直しへ繋がりました。外部研修は、虐待防止研修会に積極的に参加し、不適切ケアについて考える機会となりました。また、法人主催の職域や勤続年数に応じた成年後見制度研修会に積極的に参加し、組織としてのチームワークの大切さについて学びました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
身体拘束・リスク・個人情報勉強会	4. 11. 12 月	認知症予防体操リーダー養成講座	5月
サービス利用計画・個別支援計画勉強会	4. 1月	法人上級一般職員研修	6月
個人情報保護勉強会	5月	施設従事者向け虐待防止研修	6月
居室や車いす等での過ごし方研修会	5月	但馬地域栄養士会総会並びに研修会	7月
緊急時に対応する勉強会	5. 8. 9. 11. 2月	朝来市地域包括ケアシステム学習会	7月
障害支援区分調査についての勉強会	6月	普通救命講習会	7月
実習生受入目的・担当者の仕事について勉強会	6月	南但給食施設協議会総会並びに研修会	7月

セクハラ勉強会	6.12月	手話講習会	7.8月
5級取得に向けた手話勉強会	7月	法人新副主任研修	8月
虐待防止勉強会	8.12月	虐待防止判定基準表勉強会	8月
大腸がん予防勉強会	9月	キリスト教福祉講座	9.10.11月
成年後見制度勉強会	11月	法人中級一般職員研修	10.1月
高齢者体験研修会	11月	強度行動障害支援者養成研修 (基礎)	10月
知的障害者への対応勉強会	11月	但馬圏域相談支援フォローア ップ研修	11月
AED使用方法勉強会	3月	法人課長研修	11月
		健康と福祉セミナー	11月
		成年後見制度基礎研修	11月
		南但馬給食施設協議会全体研 修会	12月
		社会福祉援助基礎研修	12月
		但馬地区外部向け研修	12月
		法人主任・副主任研修	1.2月
		法人総合職員研修	2月
		時間外労働管理研修会	2月
		成年後見制度実務研修	3月
		但馬病態栄養勉強会	3月
		朝来市内の病院・社会福施設等 防火研修会	3月
		南但自立支援協議会研修会	3月
		相談支援リーダー研修	3月
		障害者総合支援法等関係事業 者説明会	3月
		障害者虐待対応力向上研修	3月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		件	件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
6件	5件	137件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
通報訓練	緊急連絡網連絡訓練	4.1月
水害予防対策	さくら川清掃	6月
避難訓練	日中想定避難訓練（厨房出火想定）	7月
避難訓練	夜間想定避難訓練（厨房出火想定）	11月
避難訓練	福祉村合同避難訓練（わらしべ）	11月

4. 地域交流

神戸聖隷杯グラウンドゴルフ大会の参加やあったかプラザを継続して利用いただくことで、地域の方と顔見知りになり、体調伺いの手紙をもらうなど、地域へ出かけた際には積極的に挨拶をする等会話に努めました。また、あったかプラザでの作品展示では、地域の方々の趣味の作品展示に合わせ、恵生園ご利用者がつくられたセーターなどを展示し、展示期間中に来館者と交流の場を持ちました。

(1) ボランティア

(1) ボランティア

ア) 個人：小笹 慶子様	編物教室	
西川 豊様	将棋ボランティア	
橋口 扶美子様	外出支援、調理ボランティア	
松島 星様	外出支援、創作活動ボランティア	
松本 昌恵様	日中活動補助ボランティア	
笹井 映子様	日中活動補助ボランティア	
宮本 紀代美様	日中活動補助ボランティア	
イ) 団体：カナリヤコーラス様	利用者様と歌唱活動	(延 16名)
おとめの会様	ハンドマッサージ活動	(延 11名)
たんぼぼ様	ハーモニカ演奏・歌唱活動	(延 39名)
お話しネット様	書籍読み聞かせ活動	(延 24名)
朝来ハーパーズ様	ハープ演奏ボランティア	(5名)
和田山高校吹奏楽部様	クリスマスコンサート	(15名)
和田山高校生徒様	外出ボランティア	(4名)
但馬農業高校生徒様	創作活動ボランティア	(9名)
和田山中学校生徒様	調理ボランティア	(2名)

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 あったかプラザ

責任者 田路 松代

総括.

- (1) 2003年10月1日の開館以来、近隣の方はもとより全国各地から来訪される多くの皆様にご利用いただき、3月に来館者10万人を達成しました。
- (2) 和生園ご利用者の施設外就労として清掃、接客、配膳等の体験の場を提供し、1名をトライアル雇用を経て臨時職員として採用しました。
- (3) 朝来市より委託を受けている精神デイケア事業「うめぼしの会」ご利用者の憩いの場として活用いただきました。
- (4) リピーターを増やすため、スタンプ制サービスチケットを導入し、ポイントをためた方に対して、定食以外のお好きなメニューを無償で提供いたしました。
- (5) 「茶房やっさ」の新メニューとして、「但馬牛すき鍋定食」を販売し好評を得ました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
サービス	介護予防等拠点整備事業の機能を継続	①和生園の施設外就労利用者を継続して受け入れ、1名を採用(9月) ②精神デイケアスタッフとして相談支援専門員配置により、新規利用者増(前年比/延61人増)
	憩いの場として活用	①書道や絵画等趣味の会の作品を展示(12組) ②コミュニティ応援隊事業に応募し、講師派遣を受け、おりがみ教室を開催(8月/15名)
	サービスの充実	①新メニューを開拓(カレーライス、すき鍋定食) ②出前喫茶開催(平生園/6月・わらしべ/3月) (恵生園/4、5、8、9、11、1、3月) ③スタンプ制サービスチケット導入(99枚回収) ④メニューごとの販売数、原価率を算出し、11月より単価改定を実施(18/26品中) ⑤来館者10万人達成し記念品贈呈(3/26)
経営	環境整備の改善	①朝来市予算にて老朽化していた自転車置場の解体工事実施(9月) ②食器洗浄機の老朽化に伴い家庭用から業務用に更新(10月)

	広報	①ブログにてメニューや地域情報発信（20回） ②チラシを作成し、観光案内所へ配信 ③但馬牛のぼり旗を立て、飲食スペースをPR ④ASAGOINGゼミU-18竹田企画 竹田まち歩きスタンプラリーに協賛（2回）
	運営の改善	①メニューを見直し（10品廃止）
育人材	学習機会の提供	①普通救命（7月）、食品衛生講習（7月）参加

2. 研修

救急時（AED）の使い方講習会と食中毒の予防と食品衛生の知識向上を図りました

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
普通救命講習会	7月	夏期食品衛生特別講習会	7月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件			

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
0件		0件

(3) 防災対策

- ・南但消防本部査察（12月）
- ・消防設備点検実施（12月）

4. 地域交流

神戸聖隷杯グラウンドゴルフ大会の景品に「但馬牛定食」「うどん定食」を提供しました。

(1) ボランティア

- ア) 個人：近隣地域の方による除雪作業（冬季）
- イ) 団体：なし

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 真生園
施設長 太田 敦子

総括.

- (1) 昨年度より継続していました空調・給湯改修工事は5月末に終了し、以前の老朽化したボイラーでの冷房使用の不安はなく夏を迎えることができました。
- (2) 12月にノロウイルスによる感染が起これ、マニュアルに従い対応しましたが、終息まで2週間を要しクリスマス食事会など中止しました。
- (3) 苦情解決・虐待防止について、毎月、利用者自治会と施設側による運営会議を実施し、ご利用者が快適に過ごせるよう努めました。又、第三者委員からの意見や指導を受け、職員は権利擁護に関する知識を学びました。
- (4) 年度途中で障がい者雇用に関し、ハローワークのトライやる雇用後、契約を結びました。
- (5) 第3期中期計画策定につきまして一般職員からの意見聴取を実施し、副主任以上の職制のメンバーでまとめる等全員で計画策定に取り組みました。
- (6) 職員確保は今年度も順調ではなく、利用者1.7人に対して職員1人の最大加算を得ることはできませんでした。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	重度障害者の地域移行	①個別支援計画のモニタリングによる地域移行希望者へ、近隣グループホームの情報を提供。見学を実施
	医療体制の充実	①利用者の体調変化に対し、新館個室利用体制の随時見直しを実施 ②施設内の医療処置を含め、外部の医療機関にも必要に応じて受診支援を実施
サービス	体年齢の高齢化	①利用者の高齢化に伴い、ご家族へ終末期に向けた説明を田中医師が実施（10名） ②身体機能に関する外部研修へ参加（4名）
	日中活動の充実	①日中活動に対しての取り組みを実施。12月に施設内で研究発表を実施
経営	利用率の向上	①3名の退所があったが、各相談支援事業所等へ随時問合せをし、3名の新規利用者を確保。また、生活介護の利用率も順調に確保できた。短期入所は、退所の利用者があり利用率減
	入院予防対策	①口腔ケアを充実するための研修へ参加（7月）と言語聴覚士による職員への指導を実施（12月）

	取得加算の維持	①重度高齢化が進行している利用者は随時、生活支援区分の見直しを実施（1名） ②職員数の把握を随時把握（利用者2人：職員1人）
人材育成	基本理念に基づく支援	①毎朝礼時、讃美歌・聖書の朗読及び基本理念の唱和を実施 ②キリスト教福祉講座に参加（2名）
	職員の資質向上	①寮リーダー制継続。しかし、エルダー制度の役割の明確化までには至らなかった ②専門研修へ参加した職員による伝達研修を実施 ③サービス管理責任者研修に参加（1名）
	権利擁護に対する意識の向上	①虐待防止研修会を実施（9月・1月） ②成年後見基礎研修へ家族会、職員が参加（11月）

(2) 各事業の課題・状況

i) 事業名 生活介護事業

課題	実施内容
個別支援計画プロセスの管理	①個別支援計画策定に係る業務の計画化と、書式の統一を実施 ②月次報告に基づく個別支援の進捗状況の把握をし、必要に応じカンファレンスとスーパーバイズを実施
エンパワメントを活かした日中活動	①個別支援計画に沿った外出支援等を実施 ②意思疎通が難しい利用者の方にも、外出の時間を作り充実した日中活動を提供 ③希望される場所へ日帰り旅行を実施（14名）

ii) 事業名 施設入所支援事業

課題	実施内容
生活環境の向上	①利用者自治会と協働し、「何でも相談日」を実施（11回） ②利用者懇談会にて、年間テーマ等についての意見交換を実施（11回）
身体への負担の少ない支援の提供	①但馬長寿の郷 PT 指導にて、利用者の身体に負担の少ないスリングシートへの移行を実施 ②身体的負担を軽減できる介護ロボット体験・研修へ参加（10月、2月）
リスクマネジメント対策の強化	①毎月、ヒヤリハット及び事故に対する対策・評価をリスクマネジメント委員会にて実施

iii) 事業名 短期入所事業

課題	実施内容
定期的短期入所利用者の確保	①退所利用者があり利用率が減少。各相談支援事業所へ随時連絡を実施し入所4名・短期3名の利用者を確保

iv) 事業名 日中一時支援事業

課題	実施内容
在宅障害者のニーズに応じた利用	①新規利用者1名確保し、ニーズに応じた利用を実施

v) 事業名 真生園診療所

課題	実施内容
基礎疾患との併発	①定期健診結果に基づく個別面談60名実施 ②足立歯科による口腔ブラッシング指導と言語聴覚士による口腔ケア指導・食事支援指導を実施 ③利用者個々の緊急時対応の確認10名(延55名)
衛生管理者(管理医師)との協働	①衛生委員会の継続実施(7回/年) ②法人ストレスチェックの実施。また、産業医との協働による職場環境改善の実施

2. 研修

内部・外部研修では職員育成と介護力を強化するための研修を主に参加。また、キャリア別の研修や権利擁護に関する研修へ積極的に参加。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
新任・新人職員研修	4月	兵庫県身体障害者協議会	5月
点字講座	5月	障害者福祉施設新任研修	6月
上級一般職員研修	6月	日本キリスト教社会事業同盟	6月
普通救命救急講習会	7月	長寿の郷介護研修	6月
法人虐待基準作成委員会研修	9月	相談支援従事者初任者研修	7月
虐待防止研修会	9・1月	長寿の郷口腔・食事コース研修	7月
キリスト教福祉講座	9・11月	福祉新任職員研修フォローアップ研修	7月
チームアプローチ実践研修	10月	サービス管理責任者研修会	8・10月
法人フォローアップⅡ研修	10月	県社協OJT研修	9・11月
チームアプローチ実践研修	10月	福祉機器展示会	10月
成年後見制度研修会/基礎編	11月	リスクマネジメント研修	11月
成年後見制度研修会/実務編	11月	近畿地区身体障害者施設協議会研究大会	11月
福祉村合同避難訓練	11月	福祉村サミット	11月
課長研修	11月	福祉村サミット	11月
法人外部研修	12月	権利擁護委員会スキルアップ研修	12月
中級一般職員研修	1月	障害者虐待対応力対応向上研修	1月
主任副主任研修	1・2月	障害者虐待対応力対応向上研修	1月
総合職員研修	2月	採用力UPセミナー	1月

ノロウイルス対策研修	2月	障害者総合支援法等関係事業者説明会	3月
福祉用具展示会	10月		
移動支援機器（歩行車）の活用ワークショップ	2月	朝来市介護保険施設研修会	3月
		社会福祉施設等防火研修会	3月
		長寿の郷紙オムツ介護研修	3月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
2件	支援の遅れ・言葉使いなど	2件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
118件	0件	28件

服薬関係 37件、転倒・転落事故 29件、受傷 17件、経食関係 13件
食事関係 8件 破損・その他 4件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
水害予防対策	さくら川周辺清掃	5月
火災避難訓練	日中想定（新館洗濯室より出火想定）	6月
防災避難訓練（福祉村）	福祉村防災連絡協議会/合同避難訓練（立雲の郷）	11月
防災研修	防火研修会（2名）	3月

4. 地域交流

- ・和田山中学校「トライやるウィーク」へ受入れ申し込みを行うが、希望者はなし
- ・但馬地区地域交流部会への参画と協働。（神戸聖隷杯グラウンドゴルフ大会、朝来市内小・中学校対象福祉体験学習等）

(1) ボランティア

ア) 個人：4名（延15回）

書道クラブ指導/1名

音楽と朗読会/3名

イ) 団体：7団体（延10回/延人数89名）

天理教朝来支部/除草ボランティア

広畑キリスト教会/繕い物ボランティア・お話ボランティア

朝来市社協/サマーボランティア

朝来市役所職員/窓拭き清掃

ワイワイ・ドリーム・ネットワーク/外出支援 和田山高校/花いっぱい運動

竹田地区自立支援協議会ふれあい部会/清掃ボランティア等

2016年度 事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 和生園

施設長 久木田 憲彦

総括.

- (1) 就労継続支援B型事業では和生園と第2和生園のプログラムの差別化を図り、よりニーズに応じたサービスを提供しました。また、利用ニーズ調査を行いニーズに応じて就労移行を含めた事業間でのサービスを選択できるよう支援しました。
- (2) 工賃向上を目指して下請け作業や焼き菓子の生産活動を行っていますが、下請けの中軸となる㈱セイバンの肩ベルト作業が、11月以降の生産調整により生産数が激減し代替作業でしのぎましたが、生産活動でも、10月、11月に大口の注文をいただくも竹田城への観光客の減少により道の駅での委託販売が低調となり、当初の工賃目標を達成することができませんでした。
- (3) 就労移行では、2年目の利用者の実習が盛んになり2名の方が就職されましたが、その半面、目的なかばで退所される方もあり、個々の特性に応じた支援の在り方と利用者の確保に苦慮しました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課 題	実 施 内 容
中期計画	就労系事業の再構築とグループホームの新規展開	①朝来市内の相談支援事業所へ在宅障害者のグループホームのニーズ調査を実施（9月）
	地域との関係強化	①和生園だよりを秋葉台、竹田地区に隣保回覧（4月） 秋葉台地区、竹田地区で開催される地域イベントに積極的に参加（4・7・9・10・11月） ②毎週1回、JR和田山駅、円山川左岸の清掃活動を実施
サービス	ニーズに応じたサービス提供	①事業所利用に係るニーズ調査を実施（9月） ②相談支援事業所と連携し、家庭状況も含め情報を収集 ③利用者個々の状態に応じた視覚支援の実施と、作業手順書の更新による作業支援の標準化を実施 ④随時、利用者との面談を行う中から、将来の希望に応じたニーズ把握を行いモニタリングに反映

	高工賃の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> ①閑散期の作業を小泉製麻より新たに受注し対応 平均工賃月額：27,212円（前年度比：△2,257円） ②受注数の増加と作業配置のバランスに苦慮し、不良の早期発見には繋がらず ③兵庫ブランドモデル事業への参画に加え、宣教教育専門放送より焼き菓子（550個）の大口受注
サービス	社会経験活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ①事業毎の月次目標を利用者と共に設定し、目標を掲示し共有 ②㈱シーレックスの企業見学の実施（11月） 就B全体で㈱セイバン見学を兼ね一泊旅行実施（3月） ③たじまびつくりばこや兵庫県知的障害者施設協会綱引き大会に参加し、他施設利用者と交流（11月）
	安心・安全な施設づくり	<ul style="list-style-type: none"> ①利用者と共に手洗いチェッカーによる手洗い指導を行うと共に、吐物処理方法に係るOJTを実施（11月） ②消火器の取扱い訓練を近隣住民へ案内（12月）
	権利擁護の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ①成年後見制度に係る研修会への積極的な参加 後見制度に係る意向調査（9月）と、成年後見制度が必要と思われる利用者を把握 ②虐待防止チェックリストに基づく意見交換を実施し、事業所内の共通認識を実施
経営	安定した経営	<ul style="list-style-type: none"> ①就職等による退所者の補充について、新規利用者の確保には繋がらず、利用率の維持に苦慮 ②送迎利用希望減により送迎加算Ⅰ→Ⅱへ変更（6月）
	設備整備	<ul style="list-style-type: none"> ①日本財団に希望する送迎車両なく助成申請は取止め、共同募金会へ送迎・商用車両の助成を申請。3月内定 ②第2和生園の屋根改修工事を実施（10月）
人材育成	法人理念の理解	<ul style="list-style-type: none"> ①毎朝礼時に法人基本理念、基本方針を唱和。パート職員向けの法人基本理念の勉強会を実施 ②キリスト教福祉講座へ職員1名が参加（9～10月）
	資質向上のための研修	<ul style="list-style-type: none"> ①成年後見制度研修、触法障害者への支援研修会へ参加 ②自立センターひょうごで知的障害者の方への支援に係る現任訓練の実施（4月） ③チームマネジメント・アプローチ研修は未受講
	専門性向上のための研修	<ul style="list-style-type: none"> ①年度当初に研修計画を作成し、外部研修へ積極的に参加し、職員の資質向上を図る ②朝礼時に研修内容報告を簡潔に行い共有 ③パート会議で人権擁護に係るOJTを実施（6・7月）

(2) 各事業の課題・状況

i) 事業名 和生園（就労継続支援B型）

課 題	実 施 内 容
高工賃の確保	①肩ベルト日産本数 302 本（前年度比：7 本減） ②利用者の出勤状況の把握に努め、障害特性に応じた作業配置による作業を遂行 ③資材在庫状況と作業状況を照合し、外注依頼を適宜、実施
個別支援の実施	①工賃評価会議を通じて利用者の情報交換を行い、状況に応じたモニタリングを実施 ②利用者の特性に配慮し視覚化等で作業遂行状況を把握できるように支援

ii) 事業名 第2和生園（就労継続支援B型）

課 題	実 施 内 容
プログラムの充実	①午後、気分転換を図るためウォーキングを導入 ②毎月一回、お菓子作り・外出等の余暇プログラムを実施 公共交通機関を利用し、一泊の宿泊体験を実施（10月） ③マナー習得に繋がる月間目標決めを利用者と実施し、毎月の振り返りを実施 ④随時、相談支援事業所を含め面談を実施し、情報を共有 ⑤視覚支援を取り入れ、見通しのつく支援を実践 利用者個々に応じた自助具の活用により活動範囲を拡大
工賃向上のための取り組み	①道の駅、兵庫セルフセンター、たじまびつくりばこ等に加え、歴史資料館で新たに製品を販売 兵庫ブランドモデル構築事業を受託し、次年度始動予定 ②新規下請け作業の依頼があるが、先方の準備が整わず頓挫

iii) 事業名 第2和生園（就労移行支援）

課 題	実 施 内 容
就労に向けた支援	①毎水曜日の午後より、DVD 及び書籍を活用した学習プログラムを提供 ②ステップアップに繋がる、一般就労訓練マニュアルを検討 ③毎木曜日の午後より、調理実習・体力づくり等、余暇活動に繋がるプログラムを実施 ④既就職者の就職先を訪問し状況を確認。茶話会等は未実施 ⑤新たに 6 事業所の職場体験実習先を開拓 ⑥第 2・4 水曜日 15：00～就労移行会議及び策定会議を実施
関係機関との連携強化	①但馬就業・生活支援センターと連携し、6 事業所で述べ 9 名の企業実習を実施。内 2 名が就職 ②特別支援学校生徒 5 名の実習を受入れ。内 1 名の就労アセスメントを実施

2. 研修

年度当初に研修計画を作成し職員の資質向上と、事業継続に必要とする資格取得を勧める

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
自立センターひょうご研修	4月	キャリア教育推進学習会	6・9・12月
療育基礎研修	4・5月	荒川商事技術講習会	6月
上級一般職員研修	6月	夏季食品衛生特別講習会	7月
地域包括ケアシステム学習会	7月	サービス管理責任者合同講義	7月
普通救命講習会	7月	相談面接技術研修	7月
手話講習会	7・8月	ハイスポートハートサル担当者研修会	7月
手話勉強会	7月	サービス管理責任者共有講義	8月
キリスト教福祉講座	9～11月	地域福祉基礎研修	8月
課長職研修	11月	阪丹但地区職員研修会	10月
ノロウイルス対策研修会	11月	サービス管理責任者/分野別研修	10・12月
成年後見制度基礎研修	11月	就業支援基礎研修	11月
リスクマネジメント研修会	11月	成年後見制度実務研修	11月
中級一般職員研修	1月	SST ファーストレベル研修	12月
主任・副主任研修	1月	触法障害者への支援研修	3月
総合職員研修	2月	社会福祉施設等防火研修会	3月
超過時間労働管理研修会	2月	朝来市高齢者施設合同研修会	3月
成年後見制度実務研修	3月	南但馬自立支援協議会研修会	3月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
5件	職員対応(4件)・作業支援(1件)	2件	3件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
34件	1件	27件

※特記事項：本部報告事故(転倒事故による受診3件)

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	作業場より出火想定、消火器使用訓練	12月
避難訓練	地震想定避難訓練	3月

4. 地域交流

- ・4月：和田山ただお城祭り出店し、利用者2名自主製品を販売
和生園だよりを発行し、隣保回覧依頼を実施
 - ・5月：地域交流部会主催のグランドゴルフ大会に利用者8名参加
 - ・7月：秋葉台夏祭りに共催・出店
 - ・9月：竹田地区老人会主催のグランドゴルフ大会に参加（雨天の為、職員のみで参加）
 - ・10月：竹田秋祭りに奉賛協賛し、地区へ電源を供給する等の協力
 - ・11月：竹田地区主催ふれあいウォーキングに参加
たじまびっくりばこ（授産製品展示即売会）参加
- ・地域交流部会主導による、福祉体験学習への協働

(1) ボランティア

- ア) 個人：4名 第2和生園余暇活動指導・作業補助・クリスマス礼拝オルガニスト
- イ) 団体：82名 あじさいの会（年10回：給食サービス）
東谷昭和会（7月：草刈り、清掃奉仕）
秋葉台3区有志（5・6月：草刈奉仕 12月：窓拭き清掃）

2016年度 事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名：グループホームもみの木・かしの木
 施設長：久木田 憲彦

総括.

- (1) 今年度は特別支援学校卒業者4名を迎え、体験利用の居室以外満室となりました。しかし、新たな環境の中での生活に慣れるのに時間がかかり、自立生活へ向けた当初の計画を遂行することが困難な1年でした。
- (2) 高齢化・重度化への対応としては成年後見制度の説明を行い、利用に向けた支援を行いましたが現状を打破するまでに至らず、近い将来に向けて引き続き理解を深めることを痛感した1年でした。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	具体策の進捗状況等
中期計画	グループホームの事業展開	①但馬地区グループホーム部会にて相談支援事業所(3事業所)へニーズ調査を実施(9月)
サービス	ニーズ把握と個別支援計画	①新規利用者に重点を置き課題、能力を把握 ②利用者連絡会を実施し意見・情報収集(7回) ③世話人連絡会にて情報共有するも文書マニュアルは未整備 ④課題の多い新規利用者への定期的なモニタリングを実施
	社会経験活動の実施	①多岐にわたる利用ニーズに個別に対応 ②外出活動、余暇活動の情報提供を実施 ③新規利用者へ公共施設等利用の情報を提供
	地域関係の構築・強化	①観桜会(4月)クリーン作戦(6月)夏祭り(7月)避難訓練・旅行(9月)運動会(10月)に参加
	安心・安全な施設づくり	①ノロウィルスの感染予防キットの設置と感染症対応伝達研修の実施(12月) ②市一斉避難訓練に要援護者として参加(9月)
	利用者の健康管理	①必要に応じ職員同行し主治医との面談を実施 ②世話人による共通献立の食事提供と衛生面での環境改善のための支援を実施

	権利擁護の取り組み	①会議、面談時に個人情報保護の説明を実施 ②成年後見制度の必要な利用者のニーズ調査と活用の必要性の検討を実施 ③虐待防止チェックリストを実施するとともに世話人連絡会にて虐待防止研修を実施
経営	経営基盤の安定	①和生園利用者2名新規体験利用を実施 ②食材、消耗品等の一括購入を継続して実施
人材育成	法人理念の理解	①世話人連絡会にて法人基本理念・基本方針を唱和 ②世話人のキリスト教福祉講座への参加はできず
	資質向上	①支援学校卒業後の利用者への強みを引き出すモデルステップでの支援を実施 ②世話人連絡会にて支援の標準化について検討
	専門性向上	①世話人の不足により外部研修不参加 ②世話人連絡会にて研修を実施

(2) 各事業の課題・状況

i) 事業名：グループホームもみの木

課題	具体策の進捗状況等
高齢化・重度化への対応	①将来像をイメージするためのモニタリングを実施 ②著しい機能低下見られず医療機関等との連携による支援は未実施
自立生活へ向けたスキルアップ	①休日の調理、地域行事参加等による意識高揚の支援を実施 ②知識、技能習得の為に適時機会を設けるもプログラムの企画、実施に至らず ③該当する利用者が休日帰省で不在のため生活面に関する課題抽出に至らず

ii) 事業名：グループホームかしの木

課題	具体策の進捗状況等
高齢化・重度化への対応	①将来像をイメージするためのモニタリングを実施 ②関係機関と連携して介護機器を導入し使用
体験利用、体験実習の受け入れ	①和生園利用者2名の体験利用（延49日） ②恵生園利用者の体験利用受け入れ実施（1名） 特別支援学校実習生（2名）受け入れ実施（延11日） ③相談支援事業所へ利用ニーズ調査を実施（9月） 関係機関への情報発信により1名体験利用開始

ii) 事業名：グループホームかしの木Ⅱ

課題	具体策の進捗状況等
障害特性に応じた支援の実施	①新規利用者の障害特性に応じた支援を試行し世話人で共有 ②対人関係を円滑にするための利用者連絡会を実施
自立生活へ向けたスキルアップ	①自立へ向けた基本的な社会生活を送るための支援を実施 ②知識、技能習得の為に適時機会を設けるもプログラムの企画、実施に至らず ③目標を細分化し短期間での支援計画を策定

2. 研修

外部研修へはサービス管理責任者等が主に参加し、世話人連絡会にて伝達研修を実施。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
虐待研修(呼称)	11月	療育基礎研修	4・5月
ノロ対策伝達研修	12月	地域福祉基礎研修	8月
		阪丹但地区職員研修	11月
		ノロ対策研修	11
		成年後見制度研修	11・3月
		リスクマネジメント研修	11月
		自立支援協議会研修会	3月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
<u>7</u> 件	利用者の障害特性 (6)、除雪時の対応 (1)	<u>2</u> 件	<u>5</u> 件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
<u>4</u> 件	<u>0</u> 件	<u>0</u> 件

※特記事項：転倒による事故4件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
秋葉台避難訓練	市内一斉避難訓練に利用者 8 名参加	9 月
避難・消火訓練	和生園にて消火器使用訓練	12 月
地震想定避難訓練	和生園にて初期対応・避難訓練	3 月

4. 地域交流

- ・地区の行事には希望する利用者が積極的に参加し、地域住民との交流を行う。
- ・区長、民生委員へ要援護者として登録し、市内一斉避難訓練に参加し地域住民の支援を得る。

(1) ボランティア

地域住民の方より、ホーム周囲の草刈りや積雪時の除雪の奉仕をしていただく。

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 北但広域療育センター

施設長 中江 紀子

総括.

- (1) 児童発達支援の5歳児グループでの新規契約、それに合わせて保育所等訪問支援への需要が増加し、利用率は76%と目標を大きく上回りました。また作業療法士による「特別支援計画」を策定し、放課後等デイサービスでの増収となりました。
- (2) ひょうご発達障害者支援センタークローバー豊岡ランチのバックアップ機関としての周知が進み、企業や就労関係機関へ向けてのコンサルテーションの機会が増加しました。また「すまいる」と連携した祖父母向け、きょうだい支援講座も好評で、来年度継続実施を予定しています。
- (3) 内山牧師によるキリスト教福祉講座を2回実施、職員研修「福祉現場で働く職員の基本姿勢はどうあるべきか」(津田講師)を実施および第3期中期計画策定のための意見聴取など職員全員で、法人・自施設・支援を振り返る機会を多く持つことができました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	障害理解の啓発	①クローバーと児童発達支援事業と連携し、きょうだい向け支援講座及び祖父母向けの研修実施
	サービスの見直し	①相談支援事業において、相談支援補助員を置き、新規相談受付様式を修正し、相談支援専門員・相談支援員・補助員の業務分担を明確化
サービス	サービスの質を確立	①新採用の臨時職員を中心に発達障害の特性理解の研修、豊岡市サビ管ネット、感覚統合研修や相談支援専門員初任者研修などの専門研修へ参加し、職員のスキルアップを促進 ②すべての利用者に統一したサービスが出来るよう支援マニュアル作成の基盤として、2015年度版利用者アンケートを実施、分析
	各事業における権利擁護の支援	①成年後見制度活用推進委員会へ参加 ②法人虐待防止研修へ参加
	備品の更新	①老朽化したパソコン2台を更新 ②発達関連DVD、パンフレットスタンド、軽量ラック等の購入

経営	利用促進	①相談支援事業の周知のためのパンフレット作成 ②すまいるの評価日を見直し、保育所等訪問支援事業を契約直後から実施
	経費削減を具体的に実施	①離席時のパソコンのスリープの奨励、24時間換気の停止、ノー残業デイの奨励、終業時の声掛けの取り組み、昼休み事務室消灯を実施
人材育成	法人理念の理解	①毎月曜日に法人理念を唱和 ②キリスト教福祉講座を11月、1月の2回実施
	専門性の向上	①研修に参加し、相談支援専門員1名、児童発達管理責任者2名が資格所得 ②2月職員研修「福祉現場で働く職員の基本姿勢はどうあるべきか～社会人として、組織人として、職業人として～」を実施（講師：津田耕一氏）

(2) 各事業の課題・状況

i) 事業名 指定障害児通所支援事業 すまいる

課題	具体策の進捗状況等
保護者支援	①クローバー豊岡ランチと協同で「きょうだい支援講座」や「祖父母向け研修」を実施 ②保護者学習会を3回×2クール継続実施
地域の園や学校と連携強化	①園や学校からの見学を随時実施(年間35名) ②保育所等訪問支援事業で学校・園を訪問し、情報共有、環境整備を実施(年間120回) ③各種関係機関連絡会議に児童発達支援管理責任者や訪問支援員等が出席し、連携を強化
就学前の療育の充実	①就学前年間プログラムを計画実施。[5月「就学にむけて」保護者学習会。サポートファイルの引き継会(5日間22名)6月教育相談に向けての日程調整。7月教育相談(7日間)。9月次年度サポートファイル申し込み。10月～3月特性に合わせた「1年1組の1日～学校プログラム」。2～3月保護者向け講座等。]

ii) 事業名 障害児者通所支援事業 トゥモロー

課題	具体策の進捗状況等
利用率の向上	①新規利用者の情報を把握、利用者確保(児童発達支援にて5月新規利用者1名。放課後等デイサービスにて6月1名利用。7月夏休み期間5名、1月冬休み期間3名利用。) ②10月に石特別支援学校より卒業後を想定した形で実習生の受け入れを実施

支援体制の再構築	①夏休み利用増に向け、入浴支援員を確保 ②12月職員1名退職のため送迎等は課長、事務員等にて連携し対応
----------	--

iii) 事業名 相談支援事業

課題	具体策の進捗状況等
相談支援体制の整備とシステム化	①新規問合せに対して聞き取り様式を統一 ②新規相談員向けマニュアルを作成し、受け入れから計画相談の流れを図式化 ③サービス等利用計画作成の流れを利用者向けに作成し、契約時に説明 ④相談支援補助員を置き、相談支援専門員・相談支援員・補助員の業務分担を明確化
連携体制の構築とスキルアップ	①ぴあ会議・ぴあミーティングを定期的実施 ②朝礼での各担当からの業務連絡を開始 ③定期的に各市町自立支援協議会に担当者参加 ④兵庫県相談支援専門コース別研修3名、相談支援専門員初任者研修1名参加

iv) 事業名 ひょうご発達障害者支援センター クローバ 豊岡ブランチ

課題	具体策の進捗状況等
家族等の特性理解、サポートの充実	①家族等の自助力向上のため、児童発達支援事業「すまいる」と連携し、きょうだい支援講座、祖父母向け研修の実施 ②自閉症スペクトラム特性基礎講座にペアレントメンターに参加いただき、家庭での実践報告の実施
地域、企業等に向けた普及啓発、地域づくりの実施	①関係機関と連携し普及啓発、研修、コンサルテーションの実施（就労相談機関・企業（官公庁）へのコンサルテーションの実施、特別支援学校キャリア教育推進学習会で普及啓発の実施） ②ケース会議にて高齢者・介護関係機関へ発達障害特性の基礎・ブランチの役割周知

v) 事業名 風（ふう）発達クリニック

課題	具体策の進捗状況等
経営の安定	①昨年度より検査者が1名減のため検査数が減少。検査待ち、受診待ちが増加する一方、地域支援の回数は変わらず、例年並みの収入

2. 研修

相談支援専門員・サービス管理責任者および児童発達支援管理責任者への参加を促し、職員のスキルアップをめざすとともに、新規採用臨時職員に対して障害理解の基礎を学ぶ機会を持つことができました。クローバーによる外部向け研修も例年どおり実施しました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
新採用職員研修	5月	障害福祉施設新任職員研修	6月
第3期中期計画策定会議	6～3月	相談支援コース別研修	7月
自立センターひょうご職員研修	7・11月	相談支援従事者初任者研修	7・10月
法人虐待防止研修	8月	強度行動障害研修	7・10月
法人課長研修	11月	サービス管理責任者研修	8月
キリスト教福祉講座	11・1月	出石特別支援学校キャリア教育	8～9月
課長研修	11月	職場研修プレセミナー	9月
外部研修会	12月	発達障害者地域支援マネージャー研修会	10月
職員研修	2月	自閉症スペクトラム特性基礎講座	10・2・3月
総合職員研修	2月	社会福祉施設看護職員研修会	11月
		発達障害者サポーター養成講座	1・2月
		トータルハーモニー新人研修	3月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		0件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
3件	2件	2件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	トゥモローが主の避難訓練	6月
避難・通報・消火訓練	すまいるが主の避難訓練	11月

4. 地域交流

- ①ペアレントメンターによる「すまいるカフェ」を実施し、保護者同士の交流の場を提供。
- ②恒例の「風まつり」を11月12日（土）に開催し、利用者の出し物参加や近大ボランティアによる人形劇も実施。

(1) ボランティア

ア) 個人：2名 イ) 団体：図書15名、託児20名、散髪 6名

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 エスポワールこじか
 施設長 伊崎 辰夫

総括.

- (1) 利用率は77%と目標を1%上回ることができました。しかし市町の5歳児健診導入後保護者が利用を5歳まで待つ傾向になり、幼児の新規契約は減少傾向で、見学・契約数共に昨年を下回っています。スタッフの積極的な働きかけによる振替(164回←昨年45回)により達成できました。
- (2) 利用者満足に視点を置き、新たに午前中を利用し、食事や排泄などの相談をゆっくりしていただく時間を設け、延べ72名が利用されました。また、職員目線の書き方になりがちな“支援計画”や毎日保護者と一緒に使う“療育の記録表”を、療育の目的を視覚的にお互いが意識できるものへ書式を変更し、その後の面談では分かりやすいと評価をいただいています。
- (3) 兵庫県実地監査、養父市実地監査、法人内部監査、監査法人による会計監査を実施していただき、施設運営の適正化を評価・指導していただきました。全ての監査におきまして“概ね良好”との評価を受けました。
- (4) 相模原の侵入事件、台風によるグループホーム水害などショッキングな出来事を受け、施設において職員が分かりやすく動きやすいマニュアルを検討し、完成しましたが、訓練は実施できませんでした。
- (5) 基本理念の浸透におきましては、内山牧師によるキリスト教福祉勉強会を継続し、また施設長による理念についての勉強会も実施しました。アンケートによる理解度は高くありませんでしたが、毎日の聖書朗読の意識付けになりました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(保護者の様々な相談に寄り添うこと、個別対応療育、聖書勉強の機会、目標利用率の達成など概ね計画を遂行することが出来た。)

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課 題	実施内容
中期 計画	地域との共生	①養父市社会福祉協議会評議員、香美町及び南但馬自立支援協議会専門部会に参画。 見学は法人新採用職員、地域事業者。 実習生の受け入れはなし。 ②保護者会、2市1町運営委員会等にて地域ニーズ依頼。また南但自立支援協議会こども部会にニーズ調査の実施を依頼。

サービス	保護者への相談支援の充実	<p>①特性・子育て・虐待・家庭内・学校の問題等の保護者の相談に訪問・面談・電話等にて多数対応。 大森Drによる療育相談 11回実施</p> <p>②学習会開催10回（保護者延べ55名参加） ・「子どもの特性の違い」・「コミュニケーション」 ・「ことばの発達」・「メンター相談会（5回）」 ・「療育の意味と役割」「子育ての工夫」 ・「歯科予防」・「就園、就学前の準備」</p> <p>③保護者茶話会は、こじか便りやメンターさんから呼び掛けるも、実施できず。</p>
	地域への支援	<p>①ひょうご発達障害者支援センタークローバー豊岡ランチは、事業内容の変更に伴い1回。</p> <p>②南但馬・香美町自立支援協議会、養父市社会福祉協議会評議員、但馬地域特別支援連携協議会員として参加。養父市・朝来市のびのび教室、療育支援講座、要保護児童個別支援会議、個別のケース会議等へスタッフを派遣しました。</p>
	利用の安定	<p>①開所日数は確保。目標利用率7.6人に対し7.7人と達成。</p> <p>②太田垣医師カンファレンス4回、養父市ケース会議2回、朝来市ケース会議3回、香美町ケース会議1回実施。2市1町運営会議2回実施。 （ケース連絡会：健康課・福祉課・教育委員会） （運営委員会：2市1町福祉課長、主幹）</p>
経営	支えとなる法人理念の理解	<p>①聖書朗読、ルカ8章16節～ヨハネ福音書最終</p> <p>②キリスト教福祉勉強会3回実施 内山牧師によるキリスト教福祉勉強会2回実施（延べ14名参加） 施設長による理念勉強会1回（9名参加）</p>
人材育成	職員の専門性の向上及び育成	<p>①特性把握と自己の振り返りのビデオ研修5回、施設内研修1回実施：（CAR Sの見方）</p> <p>②グループリーダー制は、役割確認が十分共有できていないため、次年度見直し必要。</p> <p>③専門研修講座3回の実施 スタッフ延べ22名 外部参加者19名</p> <p>④児童発達支援管理責任者研修受講は、申し込むも受講不可となったため、次年度再受講。</p> <p>⑤法人外研修：15回、延べ19名参加 法人内・但馬地区内主催研修：15回、延べ64名参加。</p>

(2) 各事業の課題・対策

i) 障害児通所支援事業

課 題	実施内容
療育への信頼と安心	①担当制・保護者同伴実施、療育内容及び目的を保護者に分かり易く伝える取り組みを実施。 ②療育活動終了後の時間を利用した生活面（排泄、食事当）への支援は、延べ68名利用。 内容の見直し検討会を実施。 ③新規契約者18名への専門家の評価を入れた個別支援計画の作成。9月、3月に半期毎の支援内容評価と次期支援計画の作成済み。保護者面談（同意）の実施。 ④欠席利用者への振替は、目標120回に対し164回実施。（昨年45回） ⑤地域の園校訪問34ヶ所、セッション参観13ヶ所 ⑥託児ボランティア 延べ107回実施
就学児童への支援	①養父市ケース会議2回、朝来市ケース会議3回、香美町ケース会議1回実施。 転勤に伴う他市町学校との調整。 ②放課後等デイサービスによる療育：6名利用 ③学童相談日は毎月第4月曜日に設定するが、随時の電話相談が中心。来園は1名。

ii) 相談支援事業

課 題	実施内容
新規サービス利用計画、継続サービス利用計画の作成	①新規利用計画作成64件（目標56件） 継続利用計画作成145件（目標117件） 家庭訪問118件 実施
地域関係機関との連携	①但馬圏域障害者相談支援事業担当者連絡会、朝来市要保護児童対策地域協議会個別支援会議、朝来市発達障害児者支援連絡会に出席。 園校・他事業所等訪問、同行支援実施。

2. 研修

（今年度は計画していた施設内での専門研修を実施し、また担当の空き時間を利用して例年より多く外部主催の研修に参加することができた）

法人内部研修		外部主催研修	
内容	実施月	内容	実施月
特性の意味と支援：こじか	4月	和田山特別支援紹介DAY	7月
自閉症スペクトラムの脳の働きの特徴：こじか	5月	外国人のエンパワメント事業 セミナー：豊岡あいうえお	9月

発達障害用語の説明 ：こじか	5月	障害児通所支援事業所研修 会：兵庫県	9月
法人和田山地区施設見学 ：こじか	6月	「フルールみかた」説明会 ：村岡ひまわりの会	10月
キリスト教福祉勉強会 ：内山牧師	6月 11月	但馬精神保健福祉研修 ：精神保健家族会	10月
感染症予防研修 ：真生園	6月	重度障害総合支援センタール ルド館説明会：聖マリア病院	10月
地域包括ケアシステム勉強 会：平生園	7月	但馬圏域相談支援フォローア ップ研修：豊岡健康福祉事務所	11月
自閉症スペクトラム特性基礎 講座3回：豊岡ランチ	7月	自閉症文化と居心地良く暮ら す：出石精和園	11月
虐待防止判定基準表研修会 法人基本理念勉強会：施設長	8月 9月	相談支援専門コース別研修：県 相談支援従事者現任研修：県	1月 2月
リスクマネジメント研修 ：サビ管会議	11月	権利擁護セミナー ：養父市社会福祉協議会	3月
青年期にすべきこと ：但馬地区	12月	朝来市福祉施設合同研修 ：朝来市高齢者施設合同連絡会	3月
総合職員研修 研究発表会	2月	南但馬自立支援協議会報告会	3月
超過時間労働勉強会：法人	2月	障害者虐待対応力向上研修：県	3月
		香美町自立支援協議会報告研 修会	3月

3. リスクマネジメント

(苦情報告・事故報告なし。ひやりハットの件数も少なくなっているため、注意喚起を職員会議にて行いました。)

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		件	件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
0件	0件	12件

(3) 防災対策

- ・不審者対応マニュアル、災害別（火災、地震、水害）対応マニュアルの作成
- ・消防設備点検実施

4. 地域交流

(1) 託児ボランティア：協力8人 8家族利用：延べ107回利用

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 神戸聖生園・せきもり

施設長 西郷 昌一

総括

2016年度を総括するに当たって、この推進の重要な使命をもって働いてくださっている職員に大変残念なことがあったことを報告します。上半期に法人内職員間のハラスメント行為が被害者の訴えによって明らかとなりました。当職員は前管理者による労務管理不備が原因で、体調不良となり、出勤できなくなり、年度末で退職という結果になりました。このことは同職場の職員らに特に心理的にマイナスの影響を及ぼしてしまいました。二度とこのようなことがないように初期対応の徹底や職場環境の整備、被害者に寄り添う対応ができるように心がけ、働きやすい職場をつくります。

事業全体については法令順守・利用者の権利擁護・虐待防止に関する取り組みを事業所内でも朝礼・夕礼・定例会議・内部研修等で実施しました。虐待・権利擁護に係る研修参加は意欲的に参加しました。チェックシートによる振り返りと分かち合いも些細な事から気を付けるよう意見交換を実施しました。研修テーマは一人一研修参加を掲げましたが、臨時職員の参加はご家庭の事情等によりかきませんでした。

第三期中期計画に準じた神戸聖生園の3年後を全職員参加で考えました。現状の課題に加え、将来を見据えたサービスと支援の在り方について考える機会となりました。「サービスの標準化」は支援者が代わっても安定した支援を提供するために必要なものと理解していましたが、現状を共有する中でマニュアルの必要性に職員個々が気付くことが出来ました。マニュアル整備を通じて安心・安全な支援の提供と、過ごしやすい場の提供に向け一層努力が必要です。

2月からは、法人、神戸地区事業所の利用者に向け、グループホームたいのはた東の体験型利用案内を行いました。法人内利用者のご利用が始まっています。ご家族の高齢化を控え、体験利用を通して増々グループホームのニーズが高まってくると思います。

従たる事業所である「せきもり」は土地オーナーからの申し出もあって次の活動場所、移転先の検討と物件探しを始めています。土地返却は9月末の更地引き渡しのため、7月には引っ越しできるよう急いで準備を図ります

神戸聖生園全体で、体調不良や身体の衰えが目立つ利用者が増えて、利用率がやや下がり傾向で推移することがあり、これは固定化しつつあります。今後はより個別化された支援が必要となってくると考えられます。

建物の修繕について、厨房空調機、玄関横活動ルーム、更衣室、会議室・多目的トイレ・シャワールーム・洗濯室、汚物処理室・玄関自動ドア・玄関パーテーション・食堂扉等の整備を行いました。これらの主たる意図は生活介護事業所としてのサービス充実を図ることです。また、厨房設備を使って昼食の配食サービスの復活を目指す準備を始めました。

地域との関係づくりについては、職員の関係するところにまだ留まっているので、利用者の参加が見える取り組みが必要です。

1、2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	<p>神戸地区事業再編と連動した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活介護事業の準備 ・共同生活援助事業の準備 	<p>①第3期中期計画の策定に応じて職員共有を実施。</p> <p>②グループホーム各所の置かれている状況について具体的な対策と行動を開始。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ながみね/移譲先の決定、家族への説明。 ・しおや/夜間支援体制の確立。 ・たいのはた東/体験利用型の運用開始。 <p>③聖生園の2016年度改修工事は1月に完了。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度改修工事（空調・蛍光灯）の見積りを実施。 ・やさかだい給食提供再開に向けた設備（スチームコンベクション・ブラストチラー等）の見積りを実施 ・せきもりの移転先不動産情報収集と検討開始、家族へ報告。 <p>④就Bから生活介護に移行した方が2名。</p>
	<p>神戸地区事業再編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援B型事業の準備 ・グループホームセンター化の準備 	<p>①就労継続支援B型事業の移行先の件、グループホームセンター化の件を含めた神戸地区事業再編の進展がないため未着手。センター化の進展なし。</p> <p>②策定は未着手。</p> <p>③北須磨団地の自治会行事に積極的参加を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏まつり、こんにちはカーニバル、勉強会 他
	<p>長期修繕計画の具体化と計画実施調整</p>	<p>①生活介護事業所に向けた改修工事（トイレ・シャワー室、洗濯場、更衣室、多目的室）は1月に完了。</p> <p>②黒田設計事務所と2017年度改修工事（空調・蛍光灯）の改修内容を擦り合わせる。</p> <p>③利用者・ご家族に対し工事内容・状態等の説明を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事期間中は特に混乱なく過ごせたが、設備にこだわりを見せる利用者対応に苦慮。 ・次年度は工事範囲が広い範囲に及ぶため、工事期間及び手法等に配慮を要す。
	<p>地域貢献事業の具体案策定と実施に向けた準備</p>	<p>①自治会行事・活動を中心に役員や関係者との交流を実施。</p> <p>②自治会会長をはじめとした関係者らとの交流機会を持ち情報収集を実施。</p> <p>③地域学習会（春・秋）参加を実施。</p> <p>④具体策の提案は未着手。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3期中期計画の中で地域貢献策について素案を提案。

サービス	権利擁護のための支援	<p>①法令順守の意識化は事あるごとに働きかけを実施。支援マニュアルの作成・共有は年度末に完了。 ・支援内容の変化をその都度更新し熟成させていくことが必要。</p> <p>②年度初めに虐待防止の研修を実施。半期ごとの振り返りアンケート実施。判定基準表の活用について共有未達成。</p> <p>③法人としての成年後見制度研修（初級）のご案内を家族に実施。 ・関心を持ったご家族が数組出席</p> <p>④権利擁護学習会は未実施。</p>
	サービス標準化への取り組み	<p>①標準化に向けてマニュアルの準備は進展。 ・年度内の達成率は、3割から4割程度</p> <p>②支援マニュアルの整備は一旦完了。・更新と共有の継続が必要。</p> <p>③部分的な作成に留まる。・次年度も継続し拡充を図ることが必要。</p>
	地域行事・イベント等への参加支援	<p>①5月に姫路セントラルパーク、7月に京都交通博物館・水族館を実施。</p> <p>②合同慰霊祭-学習会・夏祭り・運動会・こんにちはカーニバルに参加。</p> <p>③すまいんど部会・すまるしえ販売・妙法寺川桜まつり等に参加。</p> <p>④スポーツ大会は利用者個々で参加。</p> <p>⑤ひっぱりーグに1チーム参加。</p>
	安全で楽しい昼食提供と特別食（介護食）提供準備	<p>①3月に実施。</p> <p>②嗜好調査は未実施。・次年度は上期・下期に2回実施予定。</p> <p>③未実施。・次年度は年4回程度を目標に発行予定。</p> <p>④バーベキュー・お鍋を実施。</p> <p>⑤対応マニュアルの作成は未実施。 ・高齢化、重度化の進む園の課題、愛生園の協力を仰ぎ作成を急ぐ。</p> <p>⑥業務マニュアルの作成は未実施。 ・厨房業務の一貫性を保つためにも必要。 ・利用者の往来が出来てしまう環境も見直しは必要。</p>

	<p>設備の老朽化に伴う改修と機器の交換</p>	<p>①改修工事個所は1月に完成。 ・次年度は空調・蛍光灯等の改修工事が必要</p> <p>②食洗機の交換を実施。 ・やさかの給食提供再開（10月）を目指し、スチームコンベクション・ブラストチラー等の設備設置が必要。</p> <p>③業務用クーラーの設置を実施。</p> <p>④未実施。 ・3園の話合いが持てなかった為、次年度の懸案事項</p> <p>⑤アサヒファシリティズによる定期点検を実施。</p> <p>⑥軽微な内容については、支援課長を中心に補修を実施。</p>
<p>経営</p>	<p>仕事の効率化とモチベーションの確保</p>	<p>①請負作業・会議等の都合で残業削減は未達成。 ・職員の体調不良や離職等の事情も相まって、記録・書類作成など利用者退勤後に残る機会が増えた。</p> <p>②毎週（水）をノー残業デーとしているが未達成。</p> <p>③職員間で意識・疎通を図り実施。</p> <p>④公休/有休を組み合わせ3連休を取る人が増えている。 ・職制では連休使用率は低い。</p> <p>⑤カーニバル、機関紙、業者対応、行事企画等部分ではあるが委譲を進めている。進行中。</p>
	<p>利用率の確保及び向上と支援者の確保</p>	<p>①依頼に応じて実施。 ・状況によっては、園から利用を勧めている。</p> <p>②ケースバイケースで連携を実施。 ・やさかだい/グループホームとの事業者担当会議 ・愛生園/PTへ利用者の姿勢保持で相談 ・明生園/短期入所と日中活動の送迎 ・友生園・光生園・わかまつ/作業確保</p> <p>③祝祭日の一日開所を実施。年間226日開所。</p> <p>④主任主導で実施。</p> <p>⑤満足度調査は未実施。 ・次年度は第3期中期計画の進展にも影響を持つため、調査内容を吟味し実施することが必須。</p> <p>⑦せきもりも開所日を2日拡大。256日開所。</p> <p>⑧せきもりの利用者増員は未達成。園は増員を果たすが、年度末に1名退所となった。 ・次年度は園・せきもり共に利用者増を図る。</p>

	法令順守の徹底	<p>①10月看護師配置が整い11月から減算は回避。</p> <p>②実施。受給者情報の見誤り・現場の情報誤り等、初歩的なミス解消には至らず。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導及び注意力不足に伴うことが多いため慎重に取り組むよう周知・実践する。 <p>③新規採用職員の育成を行うが、体調不良に伴い長期離脱。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度途中より、パート採用にて請求業務にあたる。
人材育成	実習生受入れと実習プログラムの充実	<p>①大学・短大の介護及び社会福祉士資格取得への実習指導者資格を11月主任が取得。以後実習生の受け入れを開始。</p> <p>②時間調整等を実施。</p> <p>③必要に応じて実施。また受け入れも積極的に実施。</p> <p>④具体的な会議、話し合いの場を持つ機会が得られず未実施。</p>
	専門性の向上と支援者個々のスキルアップ	<p>①一般職の研修参加は達成。臨職の出席は一部達成。</p> <p>②簡易報告は実施。事業所内研修等に活用は部分的に達成。</p> <p>③未実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループホームたいのはた東の体験利用も開始されたことから、次年度は利用者に対してアピールする機会として取り組む。 <p>④未実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書式の見直し、事例検討会の開催は次年度取組む。 <p>⑥課題発表者による研究発表を実施。</p> <p>⑦課題提示は実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事考課については、次年度から反映。 <p>⑧就労継続支援B型を取得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取得したものが退職したため、次年度改めて取得を図る。 <p>⑨社会福祉士国家試験受講。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得するが、一般職として転勤となる。 <p>⑩サービス管理責任者会議は主任をはじめとする責任者が出席。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すまいんど、共同受注に関しては一般職が参加。

	法人理念の具現化	<p>①実施。</p> <p>②実施。・365日の聖書朗読については解釈を施し、支援者のより身近なものとして受け入れてもらえるよう工夫が必要。</p> <p>③実施。・支援者の気持ちやその時々への気付きを共有する機会として今後も活用。</p> <p>④実施。</p> <p>⑤未実施。・職員の離職等により出席するタイミングを逃す。</p> <p>⑥未実施。・次年度の研修の一環として取り入れる。</p>
--	----------	---

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護

課題	実施内容
個別支援計画の充実(共通)	<p>①利用者支援実施書の整備を実施(一旦完了)。 ・変更点の更新や共有が今後の課題。</p> <p>②モニタリングを通じ、特に支援上対応混困難・合理的配慮等が必要な方への支援の同意を得るよう進めている。</p> <p>③未実施。・次年度にアセスメント票の一斉更新を図る。</p>
日中活動及びプログラムの拡充 (生活介護特化に向けて)	<p>①メニュー拡充、支援の方向性について共有は実施。 マニュアルの作成は一部に留まる。 ・次年度も継続し整備を進める。</p> <p>②カレンダー製品化・販売を実施。すまろしえ販売を実施。 ・次年度はカレンダーのすまろしえ販売を目指す。</p> <p>③地域への散歩や清掃といった積極的な交流機会は未達成。 ・第3期中期計画にあがった計画に沿って次年度は実践。</p> <p>④妙法寺川桜まつりに参加。</p> <p>⑤3B体操はせきもりの利用者参加も開始。新たな外部講師の擁立は未実施。</p> <p>⑥グループホームの見学、不審者に対する注意喚起は実施。 ・マナー講習会等の勉強会は持てなかった。</p> <p>⑦5月・7月に実施。</p>

職員間の連携及び神戸聖生園せきもりとの協力体制の構築	<p>①精神的不調等に伴う利用者への場所提供・見守りを実施。 ・支援課、厨房職員間での利用者対応において連携を実施。</p> <p>②職員間で調整、情報共有、支援を実施。</p> <p>③3B体操をきっかけに交流を開始。</p> <p>④作業の共有を開始。</p>
看護業務の提供と充実	<p>①11月の看護師配置をきっかけに再開。 ・毎月1回訪問を行っている。</p> <p>②未実施。 ・次年度から情報提供を始める。</p> <p>③再開。</p> <p>④不定期ながら発行。</p> <p>⑤交換を実施。</p> <p>⑥未実施。・次年度実施できるよう看護師と詰めていく。</p> <p>⑦未実施。・⑥と同様に詳細を詰めていく。</p>

ii) 就労継続支援B型

課題	実施内容
個別支援計画の充実(共通)	<p>①利用者支援実施書の整備を実施(一旦完了)。 ・変更点の更新や共有が今後の課題。</p> <p>②モニタリングを通じ、特に支援上対応混困難・合理的配慮等が必要な方への支援の同意を得るよう進めている。</p> <p>③未実施。・次年度にアセスメント票の一斉更新を図る。</p>
作業拡充と協力体制の確立 プログラムの拡充(一部共通)	<p>①見学は実施するも実習体験には至らず。</p> <p>②共同受注を介して技術面の工夫等は共有。</p> <p>③作業種は部分的に増えている。</p> <p>④見学は実施。不審者に対する注意喚起は実施。</p> <p>⑤共同受注参加事業所にて情報共有と作業の分担を図り、作業量の確保及び工賃確保を図る。</p> <p>⑥5月・7月に実施。</p> <p>⑦積極的な清掃や活動参加は未達成。</p> <p>⑧未実施。</p>

<p>作業環境整備と改善</p>	<p>①テーブル配置の変更等作業環境の工夫を実施。マニュアル作成は部分的に実施。 ・不足分は次年度に準備。</p> <p>②実施。 ・作業班の差別化は、まだ時間を要するため継続して行う。 ・こだわりの強い利用者に配慮しつつ、作業環境のレイアウトを今後も変更していく。</p> <p>③実施。 ・利用者に分かり易い作業の伝え方の実践には、掲示物を剥がすことへのこだわりのある利用者への配慮が必要なため、今後も様々な形でトライして整えていく。</p> <p>④実施するが③の状況があるため定着が困難。 ・次年度は全体朝礼を毎日する中で、作業状況等についても伝える工夫を行う。</p>
<p>企業との関係強化と開拓</p>	<p>①お中元・お歳暮・ご挨拶を実施。</p> <p>②チラシ折り・除草等の新規依頼あり。 ・除草は大州開発のあっせんにより、エクシングからの新規作業依頼があったため、光生園と調整して作業に取り組む。</p> <p>③作業従事者の能力・兼務作業と見直しを実施。 ・男性支援者の不足に伴い、屋外作業の担い手の育成が出来なかった。</p> <p>④実施。・企業挨拶を実施、新規作業の獲得を図る。</p>
<p>神戸地区事業再編の調整</p>	<p>①モニタリングで確認を実施。 ・第3期中期計画で3年後の生活介護化を掲げたため、計画に沿った動きによって絞り込んでいく。</p> <p>②事業再編計画の見直しが進まないため移行に向けた調整は進展なし。 ・事業再編の話は進まなかったが、中期計画に沿って聖生園として就B移行先の確保を進めていく。</p> <p>③作業種・作業量については移行後のメンバーの能力に応じて検討を図るがそこまでの進捗はない。</p> <p>④事業再編部会に関しては施設長級でのワーキングとなる。共同受注は、現場担当者の出席を実施。</p>

2. 研修

一人一研修参加をテーマに研修参加を勧めてきました。内部研修は、それぞれの置かれた立場と求められる役割について意識を高める機会になったと思います。外部研修は機会均等として多くの職員に参加してもらったつもりでしたが、家庭事情なども相まって臨時職員の参加は思うように得ることはできませんでした。また、虐待防止・人権擁護の視点に係る研修が例年より多く支援者の意識改革を最優先に考えられていることが感じ取れました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
2016 年度新採用職員研修	5	平成 28 年度法令遵守・職員倫理などに関する職員研修「トラブルゼロの施設を目指す！リスクマネジメントⅡ」	7・10
上級職員研修	6	平成 28 年度神戸市特定給食施設研修会	7
新副主任研修	7	平成 28 年度サービス管理責任者研修（共通研修）×2 日	7
2016 年度課長研修	11	2016 年度兵庫県地域支援分科会研修会「地域支援の在り方を考える」	8
2016 年度新規採用職員フォローアップ研修	11	神戸の福祉を進める会 基調講演/久元善造 「人口減少時代を迎えた社会保障の課題」	9
2016 年度主任・副主任研修	2		
2016 年度総合職員研修	2	市民福祉大学 社会福祉施設中堅職員共通研修	8・11
		外部研修	
		兵庫県強度行動障害者支援者養成研修 ×2 日	9・10
		内容	
		実施月	
		苦情解決セミナー ×2 日	11
市民福祉大学・事務職員講座	5	障害者支援施設等における非常災害対策について	11
神戸市知的障害者施設連盟職員部会研修「虐待について」	5	平成 28 年度サービス管理責任者研修（就労研修）×2 日	11
市民福祉大学「社会福祉施設新任職員共通研修」	6	平成 28 年度障害者虐待対応力向上研修	1・2
平成 28 年度全国知的障害関係施設長等会議（全国知的障害者福祉協会）	6	兵庫県知的障害者施設協会施設長研修会「社会福祉法人改革における福祉充実計画作成について」他	1
第 8 回福祉サービス経営勉強会「自ら考え行動できるスタッフを育てる 5 つのポイント」	6	県・神戸市障害者総合支援法等関係事業者説明会	3
神戸市感染症対策特別講座	6	神戸市特定給食技術研修会	3

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0 件		0 件	0 件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
9件	1件	13件

※在宅中に起きた器物破損の件で警察から連絡を受けた件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	せきもりは定例で実施	毎月
避難・通報・消火訓練	・避難訓練 ・「火災時に気を付けること」について説明	3

4. 地域交流

- ・ C棟団地除草作業、敷地周辺（歩道沿い）の除草作業
- ・ 夏まつり、地域勉強会、合同慰霊祭、こんにちはカーニバル、夕陽を見る会 等
- ・ クリスマス会 ・ 3 B体操発表会

(1) ボランティア

ア) 個人：192名

イ) 団体：30名

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 グループホームながみね
 施設長 西郷 昌一

総括

現在の土地は、2017年10月2日にその借地期間が終了しますので、年度初めから土地の所有者である「一般社団法人 IBS 社団」との調整を進めましたところ、「社会福祉事業継続を条件」に、土地を譲ってくださることとなりました。これによってグループホームながみねは10月以降も現在の場所で存続可能となりました。

一方、事業所の管理体制を整える意味では、万一の場合、バックアップ施設の対応に車で30分もの時間がかかること等、かなりの無理が生じており当ホームの近隣で事業展開をされている社会福祉法人へ管理運営をお譲りする方向で調整をいたしました。このことについては、利用者、家族、職員へ個別に伝達をして了解を得ています。今後、主権者である神戸市、譲渡先法人、理事会・評議員会への報告、調整が必要となります。調整が進むに従って様々な課題が挙がると予想されますが、丁寧な対応が不可欠です。入居者については、4名についてはそのまま、退居される可能性はありますが、2017年9月までは、あえて入居者の数を変えずに事業展開をします。グループホームにスプリンクラーの設置が必置となる次年度ですので、6月に募集がある助成金の申請を行って、必要な改修工事を行う必要があります。また可能な限りの建物の補修を行って10月を迎えます。

1、2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	職員組織体制についての提案	①職員体制の強化は未達成。 ②センター化に向けた人員の確保も未達成。 ・立地的な問題も大きく、希望者があがらず。
	建物の維持管理	①グループホームを他法人に移譲することが大枠決定。9月を目処に移譲を終える予定。 ②家族への説明を実施。 ・利用者へ直接、詳細説明等はこれから。 ③アプローチの修繕を実施。非常階段は未実施。 ・委譲までに補修を実施します。台所の雨漏りも新たに確認。補修を要す。
サービス	権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識付けは口答及び資料を基に実施。 支援のマニュアル化は未整備。 ②虐待防止全体職員研修の実施と半期の振り返りを実施。 ③利用者の成年後見制度の勉強会未実施。

	利用者の体調に応じた支援提供	<p>①定期受診の支援・付添いを実施。</p> <p>②傷病時・緊急時の付添いを実施。</p> <p>③立地条件（土地・建物）は継続。</p> <p>・グループホームの移譲先と現利用者の体力面・支援面について引継ぎが出来るよう整える。</p> <p>④体調に応じ日中活動先への送迎を実施。</p>
	安心・安全な生活の提供 (サービス管理責任者の働き)	<p>①4回/月の訪問は未達成。</p> <p>・本体の動きと距離が課題となり訪問が出来ず。</p> <p>②地域行事・掃除等への参加を実施。サービス管理責任者としての参加は未達成。</p> <p>③速やかな対応を実施。</p> <p>④避難訓練は未実施。</p>
経営	安定的な収入の確保	<p>①年間平均利用率 75.49%を達成。</p> <p>・6月に1名が退所。利用率は維持出来たが収入減となる。移譲が決まるまでの間新規利用者の獲得を行わなかったことも要因。</p> <p>②週末帰省の短縮要請を継続。</p> <p>③日中支援加算について未実施。</p> <p>④体験利用についての可能性は移譲先との調整を要す。</p>
	建物の修繕・コスト削減	<p>①建物補修は自主的に実施。</p> <p>・非常階段の補修は次年度に持ち越し。</p> <p>②屋根・外壁などコスト高の物については未着手。</p> <p>・委譲に際し、整えるか検討を要す。</p>
	土地借用期限問題 (移設に向けた動き)	<p>②移譲先が決定。</p> <p>③利用者・関係者への説明会・プラン提示は次年度着手。</p> <p>④事業内容の見直しには移譲先との検討が必要。</p>
	バックアップ体制の継続	<p>①バックアップ施設の緊急対応は継続実施。</p> <p>②支援マニュアルの作成は未着手。</p> <p>③世話人・支援員の人的補充は未達成。</p> <p>④予定表提出の徹底は確立されず。</p> <p>⑤環境美化・除草を1回実施。</p>
人材育成	専門性の向上と情報共有	<p>①専門研修の情報提供は実施。研修参加は未達成。</p> <p>②世話人・支援者とのミーティング・会議は未実施。</p> <p>③バックアップ施設職員との情報共有は適宜実施。</p>

(2) 各事業の課題・状況

i) 共同生活援助

課題	実施内容
帰省状況の把握と ホーム利用日数増加	<p>①帰省状況の把握を実施。</p> <p>②家族との連絡を適宜実施。</p> <p>③利用日数増加対策の検討は未実施。</p>

移設後のホーム利用と日中活動先のマッチング	①ご家族との意見交換実施。 ・本人への詳細説明は次年度で行う。 ②他事業所へのあっせん等は未実施。
個別支援計画の実践・情報共有・業務に関する記録の確認	①個別支援内容の周知・確認を実施。 ②ケア会議は未達成。 ③家庭訪問は未実施。 ④ホームのマニュアルの整備は未達成。 ⑤調整会議の開催は未達成。 ⑥日中活動先の訪問は未達成。 ⑦ケア記録・業務日誌等の定期チェックを継続実施。
余暇の提供支援とコーディネート	①買い物等の余暇支援、コーディネート継続実施。 ②ガイドヘルパーへのコーディネートを継続実施。

2. 研修

各事業所に必要な内部研修を実施しました。外部研修については時勤務時間調整が難しく、実施できませんでした。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
権利擁護・虐待防止について説明と資料配布	4		

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		0件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
3件	0件	3件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	避難経路・災害時の行動について確認	5

4. 地域交流

- ・護国神社の花見
- ・ハロウィンのお菓子配布
- ・ゴミステーションの清掃など

(1) ボランティア

- ア) 個人：0名
- イ) 団体：0名

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 グループホームしおや
 施設長 西郷 昌一

総括

年度当初から予定していた夜勤支援体制職員の確保が思うように進まず、入居者への夜間支援についてより豊かなものにすることができませんでした。また、事業収入についても当初予算を大きく下回ることとなりました。年度後半になってようやく夜勤体制の組める職員が見つかったので、必要な研修期間を経て、夜勤体制に組み入れました。

これによって夜間支援体制が整い、入居者に必要な支援を無理なく提供できるようになりました。また収入面でも夜間体制加算を得ることができましたので、現在の入居者に必要な夜間支援を支える糧となります。今後は職員数3名の交代勤務ですので、閉鎖的にならないようによき人間関係の構築と専門性の高い支援グループへの成長が不可欠です。

ホーム建物に関しては、大規模な補修工事等はいりませんでした。賃貸物件であることから簡単に建物に工事を入れることはできませんが、次年度が各グループホームのスプリンクラー設置の最終年度になるので、改修工事を進める必要があります。建物の状況によりますが、大規模な補修や場合によっては移転先を探すことが必要になる可能性があります。

1、2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	職員組織体制についての提案	①夜間支援体制加算の体制が1月から整う（3人体制）。 ・夜間体制加算によって収入面は倍増。維持継続できるよう支援者の確保と育成が必要。 ②職員体制が整い臨時職員3名となる。 ・職員間の能力差を補い支援内容・方向性を調整する働きが不可欠。 ③雇用条件の統一（年俸制の廃止）を実施。
	建物の維持・管理の依頼・協力	①修繕を実施。エアコン・電化製品等交換を実施。 ②玄関扉の補修は未実施。 ・時間都合が合わなかったため次年度で実施する。 ③庭木の剪定・掃除は継続実施。
サービス	権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識付けは口答及び資料を基に実施。支援のマニュアル化は整備途中。 ・共通の支援ツールとして整えることが急務。 ②虐待防止全体職員研修の実施と半期の振り返りを実施。 ・資料提供と時間短縮した説明を行うが定期的な研修は必要。 ③利用者の成年後見制度理解へ工夫した勉強会未実施。

	利用者の体調に応じた支援提供	<ul style="list-style-type: none"> ①定期受診の支援・付添いを実施。 ②傷病時・緊急時の付添いを実施。 ③利用者の状況に合わせた送迎を実施。
	安心・安全な生活の提供 (サービス管理責任者の働き)	<ul style="list-style-type: none"> ①定期的訪問(4回/月)は未達成。 ・月1回の職員ミーティングを開催(訪問を義務化) ②地域の方達との交流機会への参加(掃除、近隣へのあいさつ等)は世話人を主として実施。 ・自治会活動(夏祭り)等は利用者の状況を考慮し控えている。 ③速やかな対応を必要に応じて実施。 ④避難訓練は未実施。 ・土砂崩れの避難区域指定範囲にあるため、長雨が続いた際に自主避難(事業所を一晩閉鎖)を実施。
経営	利用率の確保	<ul style="list-style-type: none"> ①年間の平均利用率96.02%を達成。 ②週末帰省の短縮は継続実施。 ③日中支援は未実施。
	建物の老朽化と修繕・コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> ①老朽化に伴う修理を適宜実施。 ②コスト削減を目的とした自主的修理を実施。
	耐震補強・消防設備等への課題対応	<ul style="list-style-type: none"> ①耐震補強対象かを県に対し確認は未実施。神戸市との口頭確認では、現時点で何も指摘等なければ、無いとのこと。 ②簡易スプリンクラー説明会に参加し情報収集を実施。 ・(借家物件につき)家のオーナーにスプリンクラー設置の許可済み。29年度(6月頃)の補助金申請を予定。
	支援者の給与体系見直し	<ul style="list-style-type: none"> ①夜間支援体制を想定した勤務に変更を実施。 ②年俸制を廃止。 ③職員勤務と給与体制の整理を1月から実施。
	バックアップ体制の継続	<ul style="list-style-type: none"> ①バックアップ施設の勤務体制は継続。3月に勤務支援を実施。 ②バックアップ職員へ具体的な支援内容等の共有化は部分的な実施に留まる。 ③環境美化・除草は世話人・支援員で適時実施。 ・人的、時間的余裕なくバックアップとして関りは希薄。
人材育成	専門性の向上と情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ①専門研修の参加は未達成。 ②家族会開催は未達成。 ③世話人・支援員とのミーティング定期的開催は1月から実施。 ④職員間の情報共有、支援共有は担当を通じて実施。

(2) 各事業の課題・対策

i) 共同生活援助

課題	実施内容
個別支援計画の実践・情報共有・業務に関する記録の確認	①個別支援内容の周知・確認を実施。 ②利用者ケアの共有はミーティングの中で実施。 ③家庭訪問は未実施。 ④ホームのマニュアルの整備は未達成。 ⑤調整会議の開催は未達成。 ・日中支援先、本人、ご家族、共同生活援助が介して支援の方向性を確認することは急務。 ⑥日中活動先の訪問は未達成。 ⑦ケア記録・業務日誌等のチェックを実施。
帰省状況の把握とホーム利用日数増加	①帰省状況の把握を実施。 ②家族との連絡は適宜実施。 ③日数増加に必要な支援は必要に応じて実施。
余暇の提供支援	①外食を不定期ながら実施。 ②ガイドヘルパー事業所との連絡・調整も実施。

2. 研修

事業所に必要な研修を実施、臨時採用職員の研修に合わせて再度研修実施。外部研修への参加は勤務時間等の調整が難しく参加できませんでした。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
権利擁護・虐待防止について説明と資料配布	4		
法令順守・利用者の権利擁護・虐待防止の伝達研修	1		

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
<u>0</u> 件		<u>0</u> 件	<u>0</u> 件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
<u>7</u> 件	<u>0</u> 件	<u>7</u> 件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	避難経路・災害時の行動について確認	11
長雨、土砂災害で避難	土砂災害の避難注意を受け、一晩事業所の閉鎖を行った。本人・家族への緊急対応として連絡を行い調整を実施。	10

4. 地域交流

- ・塩屋台地藏盆に参加
- ・自治会清掃（ゴミステーション、ホーム周辺の清掃）

(1) ボランティア

- ア) 個人：1名（月に複数回あり）
- イ) 団体：0名

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 グループホームたいのはた東
施設長 西郷 昌一

総括

グループホームたいのはた東を多井畑東町で開所して1年が経過。この間、心配していた近隣・地域からの苦情や改善要望などはなく、良好な関係を保ち事業運営が出来ました。前自治会長の山本氏やホームの近隣住民の皆さんにも、日頃から利用者さんの様子や健康状態などを気にかけていただき感謝しています。今後もホーム職員と気付きや変化に対して情報共有を図り、信頼と関係性の構築をより図れるよう努力してまいります。

2016年末からようやく体験利用型の利用が開始できる体制が整いました。入居者・支援員の皆さんには負担ある事業ではありますが、ホーム開所時から切望していた事業の開始は今後、グループホームを考える利用者ごと家族にとって良い経験の場となると思います。2017年2月には、法人内神戸地区各事業所へ体験型利用の開始を案内。神戸聖生園以外の利用者のご利用が始まりました。今後は更に利用事業所・利用者数が増えホームの利用が盛んになるよう受け入れの体制を整えていきます。

1、2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	職員組織体制についての提案	①夜間支援体制の勤務体制を実施。 ・支援者のアレルギー体質による体調不良、手術等によって支援体制の継続が困難になることもあったが回避している。 ②夜間支援者3名を確保。通院・日中支援等必要に応じた残業を実施。 ③毎月1回（第3金）にミーティングを実施。
	建物の維持・管理	①物干し場・棚の製作。庭の除草・街路樹の剪定作業等も実施。
サービス	権利擁護・虐待防止のための支援	①法令遵守に関わる研修を実施。 ②グループホーム支援者の在り方と虐待防止研修を実施。
	利用者の体調に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いを実施。 ②傷病時・緊急時の付添いを実施。 ③利用者の感染症罹患時（インフルエンザ）ご自宅までの送迎を実施。

	安心・安全な生活の提供 (サービス管理責任者の働き)	<p>①4回/月の訪問は出来なかったが、ミーティング・礼拝・体験利用型等の関係で本園職員の訪問は増えた。</p> <p>②自治会活動等(ゴミステーションの掃除・地域掃除/夏と冬・近隣とのあいさつ等)は実施。</p> <p>③感染症罹患者が出了た際、事業所を一日閉鎖する対応を実施。</p> <p>④避難訓練は実施。 ・次年度は通報訓練と避難訓練を実施する。</p>
経営	利用率の確保	<p>①年間の平均利用率は84.67%。</p> <p>②週末帰省期間短縮を継続。 ・事業所都合だけで帰省短縮を依頼するのではなく、ご本人の気持ちや家族の思いに配慮した協力依頼が必要。</p> <p>③日中支援による加算獲得は未実施。</p> <p>④体験利用者の受け入れは年度後半から実施。2月に法人内神戸地区事業所に対して体験利用の受け入れを打診。聖生園以外にわかまつ利用者の体験型利用が始まる。</p>
	コスト削減	<p>①消耗品等の無駄を省く努力は継続実施。 ・支援者間の共有を図りながら購入品を考える必要がある。</p> <p>②水光熱費等の節約も継続実施。</p>
	支援者の給与体系見直し	<p>①夜間支援者3名・日中支援者1名の体制を継続。</p> <p>②3名は臨時職員・1名はパートで実施。</p> <p>③センター化に向けたモデルとして実施。</p>
	バックアップ体制の継続	<p>①バックアップ施設の勤務体制実施。</p> <p>②バックアップ職員へ支援内容の共有化は実施。マニュアル更新は未実施。</p> <p>③環境美化・除草等は、必要に応じて実施。</p>
人材育成	専門性の向上と情報共有	<p>①専門研修の情報提供・1名が研修参加。</p> <p>②家族会の開催は12月に実施、達成。</p> <p>③毎月第3金14:00～職員ミーティングを実施。 ・支援内容の共有と対応アドバイス等を施している。</p> <p>④業務日誌のFAX・電話等で共有を実施。 ・距離的に近いため、必要に応じて顔を見て対応している。</p>

(2) 各事業の課題・状況

i) 共同生活援助

課題	実施内容
個別支援計画の実践・情報共有・業務に関する記録の確認	①個別支援内容の周知・確認を実施。 ②職員ミーティング内で個別ケースについて会議を実施。 ③家庭訪問は未実施。 ④ホームのマニュアルの更新は適時意見交換しており更新されている。 ⑤やさかだいの調整会議を実施。 ⑥日中活動先の訪問を6月に実施。 ⑦ケア記録・業務日誌等の定期チェックを実施。
帰省状況の把握・勤務体制の確立とホーム利用日数の増加	①帰省状況の把握を実施。 ・事前に帰省予定を伺い勤務表を作成。 ②家族との連絡は適宜実施。 ③日数増加に必要な支援は適宜実施。 ・無理強いをすることがないように、本人の気持ちや家族の思いに理解をもって協力依頼。
余暇の提供支援	①花見・夏祭り・誕生会・節分・礼拝等を実施。

2. 研修

本年度は主に開所前の人材育成研修と同時開催、外部研修については勤務時間の調整が難しく参加できませんでした。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
法令順守・権利擁護	1 2		
グループホーム支援者としての在り方	1 1		

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
<u>0</u> 件		<u>0</u> 件	<u>0</u> 件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
<u>5</u> 件	<u>0</u> 件	<u>5</u> 件

※利用者の失禁に伴う報告が 3件、

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	避難経路等の確認 (入居者・職員)	1

4. 地域交流

- ・地域清掃（夏・冬）、ゴミステーションの清掃、ホーム周辺の清掃 等
- ・毎日の挨拶

(1) ボランティア

- ア) 個人：0名
- イ) 団体：0名

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸愛生園
施設長 加藤 航

総括.

- (1) 法人基本理念、神戸愛生園基本方針に基づき利用者の人権に配慮した「空気感」を作り出すべく、総合力をもって各事業に尽力しました。
- (2) 吸引・経管栄養が必要な方のニーズの高まりを受け、業者による介護職員等によるたんの吸引等の研修（2号研修）を園内で実施し、有資格者の養成に努めました。
- (3) 年間を通して勉強会等を開催し人材育成に努めました。キャリアパスモデルの確立とそれに沿った研修体制の模索を行い、2017年度以降の人財育成に向けた体制構築を行いました。
- (4) 2016年度は年度当初に職員の入替わりが多い特徴的な年でした。エルダー制により新入職員育成を丁寧に行いました。また、エルダー自身へのフォロー、指導によって、育てつつ、自らも育つ意識を共有いたしました。
- (5) 毎月の接遇強化週間の実施、障害特性の勉強会の開催を行い、虐待防止・人権擁護に引き続き取り組みました。
- (6) 長年取組んで参りました ISO9001 の認証を受け、効率的且つ、効果的な運営行う体制を獲得できました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	第三期中期計画の策定	①法人の示したSWOT分析により、三年間の中期計画を策定。 ②常勤職員にアンケートを実施し、その意見を基に計画を策定。
	サービスの質向上の取組	①「マネジメントフロー」による事務・入所・通所の目標管理の実施。 ②ISOの要求事項による内部監査を実施。 ③ISO9001の認証を取得。
	重度心身障害者の積極的な受入と貢献（地区）	①介護従事者による吸引等医療行為研修を施設内で実施。 ②重度心身障害者の新規登録は未達成。
	施設整備・老朽化への対応	①職員寮（単身部屋）の改修を実施。 ②③建替（またはリノベーション）については、委員会の定期開催と、施設見学を行ったが、建て替え計画には至らず。
	地域貢献への取組	①2016年4月に開設された「神戸聖隷総合相談センター」をサポートし、スムーズな運営を助けた。

		②生きがい作りの場として積極的にボランティア活動を受入。
サービス	利用者満足度の向上	①PTによるリハビリテーション計画を立案し、それに沿った理学療法を実施。
	人権尊重のケア	①障害者差別解消法施行を受け、朝礼の際に「合理的配慮」について、利用者・職員に説明実施。 ②成年後見制度について1名の方の受任有。2名の方について申立支援実施。 ③年2回の虐待チェックリストの実施とそれに基づく職員への喚起を実施。 ④接遇向上委員会による接遇強化週間などによる注意喚起の機会を実行。
	リスクマネジメント	①職員による毎月の福祉機器点検と業者による年1回の点検とメンテナンスを実施。 ②2か月に1回緊急時対応訓練を実施。 ③リスクマネジメント委員会によるヒヤリハットの提出推進、アクシデント発生時にはレポート作成を通して原因の分析と対策を共有。レポートの書式を分析しやすいものへ変更。事故発生率の高い月(9月、12月)には注意喚起を実施。 ④火災を想定した避難訓練を実施。自然災害時の職員緊急連絡訓練を実施。 ⑤非常備蓄食料1週間分及び感染予防対策備品等を常備。 ⑥災害時マニュアルの周知は不十分。
経営	安定した介護給付費収入の確保	①短期入所利用中の生活介護併用利用を進めた。 ②通所利用率達成に向けた進捗管理を実施。 ③入所・通所連携、情報共有により、短期入所利用中の生活介護利用1名増。 ④通所利用者受け入れ1日12.8名を達成。
	コスト削減への取組	①リース・定期保守契約の見直しは未着手。 ②光熱水費の削減のための啓発は全職員には及ばず。
人材育成	法人理念の理解	①週1回朝礼にて、神戸愛生伝道所牧師によるメッセージを実施。 ②毎週月曜日の朝礼、部署会議にて法人基本理念及び神戸愛生園基本方針を唱和。 ③法人開催のキリスト教福祉講座へ参加。

課長、主任等、次世代人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ①年4回の役職者研修は未実施。 ②利用者支援の基本的な考え方に関する研修はOJTや園内研修を通して実施。 ③組織・チームとしての業務推進はISO内部監査、同委員会にて実施。 ④コーチング研修へは未参加。
専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ①生活支援員、看護師、栄養士、調理員の各専門研修に参加。 ②喀痰吸引研修修了者は新たに4名。 ③接遇強化週間等により接遇向上を図る。
社会的使命の遂行と社会資源の開発	<ul style="list-style-type: none"> ①社会福祉士実習指導者講習会に2名参加。 ②実習生、体験学習生を積極的に受入。 ③ボランティアを積極的に受入。 ④人材育成、確保を意識した実習指導、ボランティア対応の実施。
労働環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> ①超過勤務状況の把握と労働者へのヒアリングを実施。 ②天井走行リフト1基導入。 ③労働者の疲労蓄積度自己診断チェック及び職業性ストレス簡易調査表でのストレスチェックを実施（各年2回）。

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護事業

課題	実施内容
安心、安全な介護の提供	<p>【入所・通所共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①定期的な介護技術勉強会を実施し、介護技術の研鑽に努めた。 <p>【入所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①天井走行リフトを1基設置、使用方法の共有も行った。 ②エルダー制度により、新着職員の育成を実施。 ③生活プログラム内容、時間、勤務形態の見直しについてはシミュレーションのみ、実施に至らず。 <p>【通所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①緊急時・体調急変時の対応マニュアル作成済み。 ②友愛館内の環境改善実施。

日中活動の充実	<p>【入所・通所共通】</p> <p>①外部資源の活用に努めた。確保については未達成。</p> <p>【通所】</p> <p>①効果的なグループレクリエーション提供方法の模索は未達成。</p>
---------	---

ii) 施設入所支援

課題	実施内容
中間施設としての役割の検討	①2名の方の地域移行支援に着手開始。
生活・支援環境の改善	①業務効率向上のため、デスクを2台入替え（入所） ②快適な生活環境、感染予防を目的とし、空調の調整、加湿器稼働に加え、空気清浄機のデモ機を2度試行、防臭も含め対策実施。
健康面での安心・安全な生活	①診療所管理医師により、体調管理を実施。 ②基本的感染予防対策を実施。 ③体調を崩しやすい利用者を中心に1日2回バイタルサインを測定。看護師と生活支援員との連携による状態の見守り、急変時に対応。 ④看護業務円滑化のためのマニュアル作成。
穏やかな終末に向けての取り組み	①看取り支援研修は未実施。 ②エンディングノートに基づく聴き取り1名実施。
「ハートフルキッチン」の実践	①嗜好調査を実施。 ②食事形態配慮利用者個人ファイル作成。 ③基本調理方法をマニュアル化。

iii) 短期入所事業

課題	実施内容
利用ニーズ増加への対応	①平日利用の調整と障害者地域生活支援センターと連携、1名の利用者が得られる
重度障害者の受け入れ	①超低床ベッド導入

iv) 神戸愛生園診療所

課題	実施内容
重度化・高齢化による機能、抵抗力の低下	①口腔ケアのセミナーを開催。 ②年2回の健康診断を実施。 ③インフルエンザ予防接種(270名)、肺炎球菌ワクチン接種(1名)の実施。 ④随時健康相談を実施。 ⑤健康診断結果表の発行(7月)、再検査者へ結果表発行(9月、3月)。
状態の観察と変化への対応	①症状に応じた適切な治療を実施。
職員の健康管理	①職員への健康指導を実施。

2. 研修

業者による喀痰吸引研修を園内で実施しました。県主催の研修受講者等と併せて今年度は4名の有資格者が得られました(実地訓練待ちの職員が他4名)。ただ、それに年間を通して多くの時間が割かれたため、外部研修への参加が進みませんでした。

内部研修に関しては新入職員に対する園内独自研修は例年通り行えたものの、時間の確保が難しく、支援職に対する介護の基礎勉強会が行えませんでした。今年度は大幅な職員の入替えがあったにもかかわらず、実施できなかったことは大きな反省点でした。

通所による介護勉強会、介護技術自主勉強会が継続して行われ、通所では長年の取り組みとも相まって、チームとしてのクオリティ向上が図られました。自主勉強会では、小さな気づきから介護動作を掘り下げ、特に経験の浅い職員へのスキルアップに貢献しました。

一方、入所は、介護リフト導入が進んだ近年でしたが、利用者の介護によると思われる傷などが多発している現状に鑑み、介護技術向上研修が企画されました。継続して学ぶ機会の提供の必要性を確認し、次年度からのシリーズ化に繋げました。

キャリアパスモデルも完成し、今後それに沿った研修を行っていくことで、支援者としての育成を計画的に行っていきたいと思っております。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
新任職員独自研修	4月・6月	障がい福祉施設新任職員研修	7月
法人新規採用職員研修	4月	スチームコンベクションセミナー	4月
緊急時対応訓練	5月・10月・2月	第21回日本栄養士会専門研修	7月
介護技術向上研修	11月・12月・1月	神戸市特定給食施設研修会（調理師）	7月
接遇改善・虐待防止研修	4月	新任職員ステップアップ研修	9月
法人新規採用フォローアップ研修	11月	日本栄養士会専門研修	8月
介護職員等によるたんの吸引等の研修(2号研修)	7月～3月	介護職員等によるたんの吸引等の研修(2号研修)	6月
福祉機器取扱研修	4月	全障協研究大会	7月
上級一般職研修	6月	近障協研究大会	11月
臨時職員研修	7月	実習指導者研修	11月
新副主任研修	7月	看護職員研修	11月
課長研修	11月	心理相談専門員研修	1月
主任・副主任研修	1月・2月	神戸市特定給食技術研修	3月
中級一般職研修	1月		
キリスト教福祉講座	3月		
成年後見制度実務者研修	3月		
個別支援計画研修	3月		

3. リスクマネジメント

苦情については、予定連絡会、運営会議、家族会、通所連絡帳を通して伺い、情報共有、早期対応に努めました。2016年度は当初に職員の入れ替わりが多い中スタートし、職員育成に時間を多く費やしました。そんな中で、職員の対応に対しての要望もありました。慌ただしく日々が過ぎゆく中で、利用者の要望に十分に答えきれなかったという事を感じております。

事故・ひやりハット報告については、今年度書式を変更し、分析しやすいようにと試みております。傾向としてはやはり薬に関する事案が最も多く、長年の課題が解決できていません。マニュアルの確認と徹底が急務であり、注意喚起を続けていきたいと考えます。

(1) 苦情相談・対応状況

数	主な内容	解決	継続対応
24 件	・コール対応支援員を増やしてほしい。 ・特定利用者の支援員への態度 ・設備の改善	19 件	5 件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
87 件	4 件	69 件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
非常通報訓練	火災受信機の見方、初期消火までの対応方法、避難誘導までの指示方法についての訓練実施。	6 月
A 棟協力夜間想定避難訓練	上記に加え、職員の自衛消防隊及び A 棟住民による搬送救助協力等、総合訓練を実施。	8 月
消防設備保守点検	年 2 回の設備総合点検、外観・機能点検及びスプリンクラー設備点検実施。	6 月、12 月

4. 地域交流

北須磨団地 A 棟管理組合役員会への出席、消火訓練の共同開催、花火大会への地域住民の方々のご招待、近隣教育機関の実習受け入れや活動への参加、地域行事への参加等積極的に地域交流を図りました。

(1) 行事等

- ・神戸市立多井畑小学校見学 (5 月)
- ・北須磨団地 A 棟管理組合自治会役員会参加 (7 月)
- ・須磨友が丘高等学校職場訪問
- ・須磨網敷天満宮 天神祭の神輿来園 (7 月)
- ・六甲学院夏の奉仕活動受け入れ (8 月)
- ・北須磨団地ふるさと祭り参加 (8 月)
- ・花火大会開催 (8 月)
- ・おいでやすカーニバル開催 (9 月)
- ・神戸大学医学部保健学科名谷祭参加 (10 月)

(2) ボランティア

- ア) 個人： 延べ 565 名
- イ) 団体： 17 団体 延べ 526 名
- ウ) おいでやすカーニバル： 個人ボランティアと 15 団体 合計 159 名

(3) 実習生

延べ 168 名 (神戸総合医療専門学校による体験実習 67 名と教員養成課程「介護体験」90 名を含む)。

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 すま障害者地域生活支援センター
 施設長 有川 洋司

総括.

- (1) 2016年度は、当センター職員による不祥事によって、法人、行政、関係機関に対して社会的信頼を大きく損なう事態を起こしてしまいました。今回のことは責任者としての管理責任が果たせていなかったことが要因であり、そのことを重く受け止め深く反省するとともに管理体制についてあらためて見直しました。事件後は信頼回復に向けて、職員全員で再発防止に取り組み、法人理念に掲げる相談者の人権、意思を尊重しながら、地域の関係機関とのつながりを大切にして障害のある方が住み慣れた地域で安心して生活を営むことができるように柔軟に対応しながら、丁寧な相談支援につとめました。
- (2) 法人理念のもと、地域で生活する障害者(児)とその家族等からの相談に対し必要な情報の提供や助言を行うとともに、関係機関との連携を図り適切な障害福祉サービスを利用調整するなど、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう包括的な相談支援を実施しました。
- (3) 須磨区自立支援協議会の事務局として、行政、関係機関、関係団体と協働しながら、障害の有無に関わらず誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域の特性に応じたテーマ別部会などを通じて様々な活動を実施しました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	(地区) ・障害者総合支援法に対応し地域に根差した相談支援体制の整備	①計画相談支援(サービス等利用計画)の作成推進を実施。(新規/更新80件、モニタリング62件) ②障害支援区分認定調査を実施。(144件) ③委託調査(勘案338件、移動支援13件、訪問入浴3件、生活サポート2件)を実施。(356件)
サービス	・個々の相談者に寄り添った相談支援サービスの提供	①相談者、ご家族、関係機関等からの多様なニーズに柔軟に対応。(7,869件) ②障害種別を問わず、児童から成人までライフステージに応じ生活全般の相談支援を、関係機関と連携しながら丁寧に実施。

	・権利擁護の推進	①成年後見制度に関する相談や虐待（身体的、経済的）に関する相談等、内容に応じた相談支援を実施。（件数 5 件）
経営	・委託事業の特性を踏まえた対応	①障害支援区分認定調査を実施。（144 件） ②委託調査（勘案 338 件、移動支援 13 件、訪問入浴 3 件、生活サポート 2 件）を実施。（356 件） ③ ①②の委託調査を担いつつ、可能な限り、計画相談支援（サービス等利用計画）の作成推進を実施。（新規/更新 80 件、モニタリング 62 件）
	・メンタルヘルス対策	①毎朝、朝礼後にラジオ体操を実施。 ②少数職場かつ支援の継続性が高い相談支援の特性を踏まえ、有給休暇の積極的取得を推進。 ③職員の精神的フォローを主とした面談を定期的実施。（6 月、10 月、2 月）
人材育成	・キリスト教理念の浸透	①毎月の職員会議、ケース会議時に全職員で法人理念を唱和し、法人理念に触れる機会を実施。 ②キリスト教福祉講座、法人総合職員研修に参加し法人理念の学びを深める機会を実施。
	・専門性の向上	①専門性の向上を図るべく積極的に研修参加を実施。（26 回、延べ 32 人）

(2) 各事業の課題・状況

i) 相談支援事業

課題	実施内容
基本相談支援の徹底 (困難ケースへの対応)	①相談者、ご家族、関係機関等からの多様なニーズに柔軟に対応。（7,869 件） ②複雑な課題を抱えるケースにおいて、関係機関との連携による個別支援会議を実施。（15 回）

<p>地域のニーズへの対応 (須磨区自立支援協議会)</p>	<p>①神戸市自立支援協議会 研修部会に参画し、「人材育成」をテーマに、支援職員向け、相談職員向け研修一覧冊子の作成に参画（5月、6月、7月、9月、11月、12月）</p> <p>②就労支援部会：就労意欲、支援力の向上を図り就労ニーズをお持ちの当事者向け就労支援セミナー（11月）、支援者向け勉強会（2月）を開催。</p> <p>③すまいんど部会：事業所自主製品の質の向上と販路拡大を目的に、アンテナショップ「Sumarche」の開催（毎月）、「すまいんど冬のギフトセット」製作、販売（12月）を実施。</p> <p>④まなぼ一部会：支援者の資質向上と障害理解と啓発を目的に、事例検討会（8月、9月、10月）、映画「僕のうしろに道はできる」上映会（3月）を企画、実施。</p> <p>⑤ともいき部会：災害時の要援護者支援のあり方や地域交流を目的に、須磨海浜水族館ふれあい交流会（2月）を企画、実施。</p> <p>⑥親子部会：発達の気になる子どもを持つ保護者の支援を目的とした動作法研修（5月、9月、2月）を企画、実施。</p> <p>⑦グループピアカウンセリング：発達の気になる子どもの保護者同士の交流を目的に、専門のファシリテーター（准教授）によるグループピアカウンセリング（年間9回、延べ24名）を開催。</p> <p>⑧地域の障害者団体や民生委員、身体・知的障害者福祉相談員、関係機関を対象とした連絡会（12月）を開催。</p>
<p>制度改正に伴う今後の事業展開の模索</p>	<p>①センター連絡協議会、機能強化専門員連絡会、コーディネーター連絡会への参加を通して、神戸市所管課と、相談支援の現状、制度の課題等について情報共有、意見交換。（毎月）</p>

2. 研修

障害者虐待防止法、障害者差別解消法をはじめとする権利擁護関係を中心に、目まぐるしく変わる福祉制度についての研修会等、様々な外部研修への参加を通じて職員の知識、スキル、専門性の向上を図りました。

内容	実施月	内容	実施月
障害福祉事務担当者研修	5月	障害支援区分認定調査員研修	5月
精神保健福祉支援者基礎研修	6月	相談支援従事者初任者研修	7、8、9月

相談支援機能強化研修	8月	相談支援機能強化研修 実践編	9月
発達障害者支援関係機関研修	9月	地域生活チャレンジ研修	9月
視察研修（PCAJIP法）	9月	自殺未遂者支援研修	10月
高次脳機能障害研修	11月	福祉サービスに関する苦情解決セミナー	11月
特定相談支援事業者連絡会	11月	障害支援区分認定調査員研修	11月
精神保健福祉従事者研修	12月	神戸市地域自立支援協議会研修	1月
障害児・者相談支援事業全国連絡協議会コーディネーター研修会	1月	ケース会議講座	2、3月
アメニティーフォーラム 21	2月	障害者虐待対応力向上研修	2月
地域生活チャレンジ研修	2月	相談支援従事者現任研修	2月
相談支援機能強化研修	2月	成年後見制度研修会	3月
自殺未遂者支援研修	3月	交流分析研修	3月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件	—	0件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
0件	0件	0件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	—	—

4. 地域交流

須磨区自立支援協議会の事務局として、地域の課題に応じたテーマ別部会活動を通じて関係機関との連携のもと様々な地域交流イベントを開催、参加しました。

(1) ボランティア

ア) 個人：なし

イ) 団体：なし

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 神戸聖隷総合相談センター
 施設長 有川 洋司

総括.

- (1) 地域で生活する障害者とその家族等からの相談に対し、相談者の意思及び人権を尊重した適切な情報提供や助言、意向に沿った計画相談支援(サービス等利用計画の作成)サービスの提供等、住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができるよう丁寧な相談支援を行いました。
- (2) 必要性が高まっている「成年後見制度」に関する相談、情報提供、申立支援を通じて地域のニーズに応えるべく、地域向け学習会を開催しました。
- (3) 地域が抱える課題のセーフティネットとしての役割を果たすべく、障害、年齢等に関係なく、生きづらさや困りごとを持つ方々の相談に真摯に耳を傾け、ニーズ対応に繋がるサービスの模索に努めました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	(地区) ・障害者総合支援法に対応し地域に根差した相談支援体制の整備	①計画相談支援(サービス等利用計画)サービスの推進を実施。(計画267件、 <u>モニタリング</u> 117件)
サービス	・個々の相談者に寄り添った相談支援サービスの提供	①計画相談支援(サービス等利用計画)サービスを通じて、ご本人ご家族との良好な関係構築を図り、日常生活における多様なニーズに丁寧かつ柔軟に対応。(1,393件)
	・権利擁護の推進	①成年後見制度に関する相談や虐待(身体的、経済的)に関する相談等、内容に応じた相談支援を実施。
人材育成	・キリスト教理念の浸透	①毎週月曜日の朝礼時に法人理念の唱和を実施。
	・専門性の向上	①専門性の向上を図るべく積極的に様々なテーマ別研修への参加を実施。(9回、 <u>延べ20人</u>)

地域貢献	・地域貢献の積極的展開	①北須磨団地自治会や友が丘地域の福祉関係機関とのつながりを通じて顔の見える関係づくりを実施。
------	-------------	--

(2) 各事業の課題・状況

i) 相談支援事業

課題	実施内容
基本相談支援の徹底 (困難ケースへの対応)	①相談者、ご家族、関係機関等からの多様なニーズに柔軟に対応。(1,393件) ②計画相談支援(サービス等利用計画)サービスの推進を実施。(計画267件、モニタリング117件)

2. 研修

障害者虐待防止、障害者差別解消をはじめとする権利擁護関係を中心に、目まぐるしく変わる福祉制度についての研修会等、様々な外部研修への参加を通じて職員の知識、スキル、専門性の向上を図りました。

内容	実施月	内容	実施月
相談支援従事者初任者研修	7、8、9月	年金勉強会	8月
より良い老後のために	11月	相続勉強会	11月
法人課長研修	11月	成年後見制度基礎研修会	12月
認知症ライフサポート研修	1月	法人主任・副主任研修	1月
相談支援従事者現任研修	2月	成年後見制度実務研修	3月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件	—	0件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
0件	0件	0件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	—	—

4. 地域交流

北須磨団地自治会をはじめとする友が丘地域の福祉関係機関と協働して、地域の学習会や地域交流イベントに参加し関係づくりを図るとともに、関心の高まっている成年後見制度をテーマに地域向け研修会を企画・主催し、80名を超える多くの方にご参加いただき貴重な学びの機会となりました。

(1) ボランティア

ア) 個人：なし

イ) 団体：なし

2016年度 事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 神戸友生園
施設長 井上 待子

総括.

- (1) 利用者が日中、快適に過ごせるようにトイレ工事を実施しました。以前のトイレは手摺位置等の設備が不十分である為に介助が必要な利用者が、改修工事後は、職員の見守りだけでトイレに行けるようになりました。併せて、職員トイレ改修も行い節水タイプの設備に変更することで経費削減に繋がりました。
- (2) 園内行事等で使用頻度が高い食堂の電力回路増設工事を実施しました。同時に複数の電気器具を使用できるように改善しました。
- (3) 自主生産品として、オリジナルブランドのお茶のアイテム販売を開始しました。様々なバザーへの出店が出来るようになり、工賃向上に繋がりました。
- (4) NPO 法人播磨地域福祉サービス第三者評価機構による「兵庫県福祉サービス第三者評価」を受審しました。評価結果を元に全職員と共にセミナーを受講し、次年度改善点については取り組みを開始します。

1、2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み状況

区分	課題	実施内容
中期計画	新たな支援プログラム	①就労支援プログラムを一就労希望者に提供 障害者合同面接会(年2回)に向けた履歴書 作成等を実施。 ②個別プログラムを1名の利用者へ提供。タイムスケジュール等個別に設定することで、作業に集中できる時間が増える。
	地域生活での安心・安全への取り組み	①送迎車両購入については、次年度助成金を申請し購入予定。
	施設老朽化等改修工事	①電話交換機、固定電話改修工事完工。 ②職員用トイレ改修工事完工。 ③食堂の電力回路増設工事完工。 ④利用者トイレ改修工事完工。
	グループホームの設置に向けた取り組み	①法人内ワーキングに参加。 ②他法人の見学には未実施。 ③建て貸し方式によるグループホームの設置を検討したが、賃料などオーナーとの金額が合わず断念。 ④神戸市から提案のあった借り上げ住宅について検討を開始。

サービス	目標工賃達成への取り組み	<p>①オリジナルブランド茶販売は、浜松聖隷とのコラボレーション、神戸女子大学のバザーなど着実に販売実績を伸ばしている。アイテムも2種類増え5種類のオリジナルブランド茶を商品化し販売開始。</p> <p>②オリジナルアクセサリ作成も実施。おいでやすカーニバルにて販売。(売上29千円)</p> <p>③「年賀状用千支シール」の加工作業を7月～9月の期間、5事業所にて実施。</p>
	サービスの標準化	①アセスメントシートを活用した、個々の利用者のサービス提供表を全利用者にて作成。
	作業評価基準の改定	<p>①新評価基準表作成の遅れ活用には至らず次年度へ持ち越し。</p> <p>②評定会議も同理由にて次年度に持ち越し。</p>
経営	安定的経営の模索	<p>①利用希望者の見学、体験実習を実施。</p> <p>②当初の計画通りに営業。</p>
	経費削減への取り組み	①定時退勤日を設け、職員への声掛けは行っているが、第三者評価受審や行事などで定着できず。
人材育成	内部研修の促進	<p>①年度当初の計画に基づき、内部研修実施。</p> <p>②手話勉強会は概ね月1回実施。</p>
	障害特性の理解	①神戸大学院地域連携事業の協力により、「エゴララム 交流分析」研修を実施。
危機管理	職員会議	①毎月、「苦情・事故・ヒヤリハット」の事例を職員間で共有。
	虐待防止・苦情解決	<p>①9月・2月に委員会を実施。第三者委員訪問についても1回実施。</p> <p>②虐待防止チェックリスト実施。</p>
	防災対策の推進	<p>①地震発生を想定した対策について未着手。</p> <p>②今年度予定の備蓄品は購入済み。マニュアル作成はしたものの、今後精査していく必要がある。</p> <p>③避難訓練実施。(年2回)</p>

(2) 各事業の課題・状況

i) 就労継続B型事業

課題	具体策の進捗状況等
新人職員育成	<p>①新人職員に対して、担当を決めて育成体制を取った。</p> <p>②臨時職員向けの内部研修を実施。</p> <p>③職員会議で外部研修報告の場を設け、共有を図った。</p>

利用者・家族の高齢化問題への取り組み	①グループホーム見学会は、グループホームふくだの案内を情報提供した。 ②個々のケースで必要に応じて、ケアマネージャーや支援センターとの連携。
自立生活に向けた取り組み	①調理訓練を7月30日実施。
個別プログラムの策定	①個別プログラムを一人の利用者の方へ提供。就労支援プログラムについては、障害者合同面接会に向けた支援提供にとどまり、職業能力の見極めなどは未提供。
年間行事の策定	①職員会議で進捗確認をしながら、予定通りに行事を遂行。

2. 研修

虐待防止に関する研修や、外部研修など必要に応じて職員を参加させました。
また昨年度に続いて手話勉強会を継続して行いました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
手話勉強会	毎月実施	市民福祉大学主催「事務職員研修」	5月
個別支援計画策定の意義	6月	創シーエーシー主催「職員研修」	9月
臨時職員研修（講師植戸先生）	7月	兵庫県主催「サビ管ファシリテーター研修」	9月
「就 B の役割と地域資源の活用」	7月	NPO JC ネット主催「職が適応援助者養成研修」	11月
「基本理念について」	8月・9月	「成年後見制度実務研修」	3月
虐待防止研修	2月	兵庫県主催「障害者虐待対応力向上研修」	3月
神戸大学地域連携室「交流分析 エゴグラム」	3月	サービス管理責任者研修ファシリテーター	10月、11月
第三者評価セミナー	3月	サビ管ブラッシュアップ研修ファシリテーター	2月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
4件	職員の配慮不足についての苦情 近隣住民からの送迎車に対する苦情 作業手順提案を職員に受け入れられなかった苦情 委託送迎車のマナーに対する一般の方からの苦情	4件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
5件	0件	9件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	友が丘3園合同避難訓練	12月
避難・通報・消火訓練	神戸友生園避難訓練	3月

4. 地域交流

神戸総合医療専門学校学生の体験実習及びボランティア受け入れ
多井畑小学校3年生の福祉体験授業

(1) ボランティア

ア) 個人：75名（家族等による作業ボランティア含む）

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 神戸光生園
 施設長 吉本 ひろみ

総括.

(1) 生活介護事業は、これまでの多種多様なプログラムをより充実・定着させることを重視しました。多くの利用者が同じフロアで様々な活動を安全に行えるよう、動線を考え、備品を整理し効率的に利用できるようにしました。また、昨年度からの取組みであった地域のデザイン会社との協働で利用者の作品を商品化し、東京ギフトショーに出店するチャレンジを行いました。今回は残念ながら取引にまでは至りませんでした。他業種間の交流から多くを学ぶことが出来、「商品企画」「販売」という世界への挑戦を今後も続ける糧とすることが出来ました。

(2) 4年目に入った「手作り味噌」は、対応できる職員を増やし技術や知識を途切れさせないようにしました。また、但馬の有機栽培農家の大豆を使用し、利用者も収穫作業体験をさせて頂き、良い経験と交流が出来ました。今年から新たにギフト用として瓶詰用ラベルも製作し、レシピブックと共にお洒落な「瓶詰め味噌」の販売を始めました。

就労継続B型での作業としてメインとなっているシミズ事業所からの作業量が減少しており安定した作業確保に苦しみました。共同受注で新たな作業を得るが単発作業が多く今後の課題となっています。これまでの取引先からの作業を確実に行う事によって、何とか昨年度の平均工賃をわずかに超え、目標工賃達成加算を暫定ではあるが申請することができました。

就労移行では新規利用者2名を迎え、4月に2名が就職、下半期にもトライアル雇用を経て1名就職することができました。関係機関との連携により新たな実習先を開拓することができました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	地域での自立生活支援（地区）	①グループホームの円滑な運営をバックアップ施設として支え、利用者の緊急対応、余暇支援、医療面での支援調整等を実施。 ②新規に「グループホームふくだ」をハウスメーカーの建て貸し方式で開設準備。 ③センター機能の構築には至らなかったがコーディネーター要員としてサービス管理責任者が複数のホームの世話人会議へ参加。
	事業展開の再検討（地区）	①「就労継続B型」では引き続き神戸地区の事業再編部会と連携し共同受注ワーキングに参加し、作業量の確保に努めたが安定供給とはならず。

	施設老朽化対策（改修）	①本館 1 階作業場（就労エリア）床張替、内装改修及び 2 階作業室等の電気設備改修（LED 化）実施。 ②全館各室扉を更新、温室の撤去（園庭整備）
	第 3 中期計画策定	①2017 年度からの第 3 期中期計画策定について、全職員で取組み（全体会議 4 回、他各グループ会議 1～2 回）素案作成。
サービス	満足度調査の実施	①満足度調査を実施（調査対象者数 97 名 回答者数 82 名、回答率 84.5%）回答者の 72～78%の方がサービス・施設環境について満足、ほぼ満足という結果、職員の対応・態度等では 68%とやや低め、一方個別支援計画や活動内容については 80%と一番高い結果（昨年度回収率 75.3%） ②1 階のトイレ設備への改修希望が多いが補助金での改修工事済なので今後の課題。
	マニュアルの整備	①業務マニュアルは 10 月に改訂済み。 支援マニュアルはサービス管理責任者会議に於いて各施設で作成することになるが、完成せず。
	土曜開所プログラム	①土曜開所日のプログラムを工夫し、月 2 回の内 1 回はイベントを実施。
経営	利用率の安定維持	①就労移行事業は平均利用者数 3.4 名、平均利用率 56.9%（目標 70%）、対前年度比 2.3%増、多機能全体では平均利用者数 84.8 名、94.2%（対前年度比 3.9%増） ②必要に応じて個別送迎を実施。 ③暦日－8 日の「法定開所日数」を実施。
	設備管理	①作業用車両老朽化に伴い平成 27 年度の共同募金受配事業にて車両購入実施（あかはね号）
人材育成	キリスト教理念の浸透	①朝礼時、讃美歌の斉唱・月曜日は基本理念の唱和、火曜日から金曜日は施設基本方針を唱和。 ②法人キリスト教研修への職員参加。 ③毎週の礼拝の牧師のメッセージを通して、キリスト教理念に触れる機会を持つ。

<p>専門性の向上</p>	<p>①研修参加は積極的に行ったが研修計画は策定できず。 ②専門実習として神戸女子大学3名、神戸学院大学2名、神戸常盤大学2名、須磨の浦高等学校5名、豊岡短期大学2名、関西国際大学1名を受入実施。 ③実習指導講習会に1名参加。 ④全国知的障害者福祉関係職員研究大会（北海道大会）に1名参加。</p>
<p>虐待防止・人権擁護の取組み</p>	<p>①接遇向上委員会（たのしい光生園を作る会）の活動を継続し、利用者支援における接遇やより良い支援を考える場とし、月1回事例検討会を開催、新たな標語を朝礼時に唱和。 ②全体研修として「福祉施設における虐待防止の概説と具体例」を弁護士 福島健太氏の講義を実施。</p>

(2) 各事業の課題・状況

i) 就労移行支援事業

課題	実施内容
<p>就労への取組みの充実</p>	<p>①日々の作業訓練による能力・スキル・体力の向上と作業適性を見極めることで、本人に適した一般就労へのマッチングを行い合同就職面接会からトライアル雇用を経て2017年1月に1名就労決定。（上半期のトライアル雇用後、再利用となった利用者） ②日々の作業では、適正に合わせた個別の作業プログラムや、タイムカードの導入、報告・連絡・相談の練習などをグループワーク等を通して実施また、実習や就労時に必要な面接の練習も実施。</p>
<p>関係機関との連携</p>	<p>①雇用先から就労者の相談があり、ハローワークや就労推進センターと連携を行う。支援機関の調整や直接支援を行い、雇用継続を維持。また、各就労推進センターのジョブと定期的に連絡を行い、就労者の状況把握を行った。 ②ネットワーク会議に年1回参加。就労移行支援部会に年2回参加。会議にて、各関係機関と情報共有やジョブコーチについての相談を行い、定着支援につなげた。 ③11月頃より、総合リハビリテーションセンター能力開発部「お仕事体験事業」と連携を行い、実習先を開拓。新しい実習先として、清掃実習やスーパーでの実習を実施。</p>

新規利用者の確保	①オープン見学会や支援学校の見学会に参加し、情報提供を行う。 7月に就労継続B型より1名事業移行、8月に他支援機関との連携により1名新規利用。3月より支援学校を卒業した学生1名が利用開始。
----------	---

ii) 就労継続支援B型事業

課題	実施内容
作業提供と支援の充実	①取引先企業から新しい作業の受注はあるが、単発での作業が多く、また共同受注ワーキングの作業も年間を通してあったが、資材の入荷にばらつきがあり、確実な作業の安定供給には至らず。3月に年間を通して供給可能な新規作業を獲得。
	①ブランド力向上として但馬の農家から有機栽培の大豆を購入し味噌作りを行う。生活介護事業の6センスプロジェクトと連携して、味噌レシピブックやビンタイプの味噌の販売を行う。味噌の売れ行きは前年度とほぼ同水準であり、固定客が出来て地域で定着してきている。 ②地域の個人宅からの除草依頼は前年度と同じくらいあるが、職員体制上対応できない事もあった。除草作業では、昨年度の実績から作業依頼が拡大。大きな収入となる。
安定した工賃の確保	①年間を通すと作業は安定性に欠け、目標工賃（13,600円/月）は未達成だが、対前年度額より2円アップ（13,579円→13,581円）している。新規の作業開拓は大きく進展できなかったが、固定の取引先からの受注拡大等で収益アップ。 ②職能表及び工賃配分規定の改定については、検討を行うも未実施。より良い改定案ができなかったため、現状の評価基準・規定を継続。

iii) 生活介護事業

課題	実施内容
プログラムの多様化と支援の充実	①音楽レクリエーション・トリム（月4回）・お茶サークル・フラワーアレンジメント（月2回ずつ）お茶サークルは家族参加型を継続。 講師によるボールエクササイズ（月2回・個別指導）、職員指導によるエクササイズ（月2回）個別支援計画に基づく身体機能維持が目的。 ②個別プログラムとして和太鼓、ウォーキング、スノーズレン、ADL訓練。

	<p>③日中活動として、緩衝材袋詰め、園芸、さをり織り、創作活動、キャンドル製作、軽運動、リラクゼーションを実施。プログラムの安全面の確保と効率化を図る為書庫を購入し備品整理。園芸活動は活動内容の再構築と効率化を図る。温室の撤去を行い備品の整理し利用者の活動場所を確保。</p> <p>④おおまち：月1回のおやつ作りとドライブ、創作活動を個々の特性に応じて実施。職員との月1回の聞き取りを行い、情報共有を図る。又、おおまちのフォロー体制について検討、おおまちでの支援についてレクチャーを受ける日を設けフォロー体制を強化。</p>
創作をより発展させ、社会参加につなげる	<p>①地域のデザイン会社など分野別業界と協働し、東京ギフトショーに出展（2/1～3）</p> <p>②ミニバザー、アンテナショップでの自主生産品の販売活動を継続、アンテナショップでは備品等を購入しディスプレイを工夫。</p>
健康面への配慮・体力向上	<p>①体力づくりとして、ウォーキングやフィットネスマシンでの屋内軽運動を継続実施。</p> <p>②おおまち：2階スペースでのストレッチ&リラクゼーションプログラムは月2回実施。</p> <p>③口腔ケア・ADL（身辺自立）訓練は継続実施。</p> <p>④嘱託医師や看護師による健康相談を実施。</p>
職員の知識・技能の向上	<p>①感染症対策研修に1名参加。</p> <p>②染色関連の研修を2回実施。</p> <p>③姫路獨協大学でスヌーズレンの現認訓練は先方都合で未実施</p> <p>④6月、9月、3月に職員研修を兼ねた利用者参加型ダンスエクササイズ研修実施。職員のスキルアップとプログラムの充実を図る。</p>

2. 研修

新人職員の育成に関する研修、専門性向上の為の研修に積極的に参加しました。また、垂水区自立支援協議会各部会への参加も積極的に行い地域の各事業所や他機関との情報交換・共有に努め地域が一体となって福祉の向上となるよう努めました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
事例検討会（施設内）	月1回（9 11, 3月以外）	防火管理者新規講習	4
新採用職員研修	5	自立支援協議会学習部会	5・7・10・ 12・2・3
上級職員研修	6	自立支援協議会・課題整理検討	5・7・

		委員会	9・3
サービス管理責任者研修	8	安全運転管理者講習	7
虐待防止判定基準説明会	9	リスクマネジメントセミナー	7
新採用職員フォローアップ研修	11	新任職員OJT担当者研修	7・9・11
サービス管理責任者・リスクマネジメント研修	11	管理職のためのスーパービジョンとコーチング	7
主任・副主任研修	2	自立支援協議会就労支援部会	8・9・10・3
総合職員研修	2	自立支援協議会防災部会	8・9・10・11・3
時間外労働勉強会	2	和太鼓研修[TAIKO-LOB]	8
メンタルヘルス研修	2	組織管理者研修	8
成年後見制度実務者研修会	3	全国知的障害者福祉関係職員研究大会[北海道]	9
共同受注勉強会	3	染色技術研修	10
キリスト教福祉講座 2016	3	兵庫県知的障害者施設協会播但地区職員研修会	10
虐待防止施設内全体研修	3	メンタルヘルス研修	11
		社会福祉士実習指導者講習会	11
		マネジメント向上研修	1
		施設マネジメントセミナー	1
		ジョブメイト研修	2
		H28 年度障害者虐待対応力向上研修	3

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
5件	日帰り旅行参加の意思確認の件（ご本人記載についてご家族に確認をとらなかった）（1件）実習生の記録を職員が記入していなかった（1件）ご利用者の行動に注意をする為に場所を異動して頂く際に腕を強く掴み痣ができた件（1件）職員の作業中の私語について（1件）利用者降園後、新年行事の和太鼓の練習音について（近隣の方より）（1件）	5件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
104件	7件	34件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	2階厨房からの火災を想定し避難誘導訓練を実施。実際に火災警報器を鳴動させ、119番通報を行った。実習生も参加。	7
	2階作業場からの火災を想定。火災警報器を鳴動。通報者以外は事前の役割分担なしで行った。	10
非常災害対策避難訓練	神戸市シェイクアウト訓練に参加	1
	大規模な地震を想定し、全館放送、机の下にもぐり、安全確認の協議の上グラウンドへ避難する訓練を実施。	3
避難訓練（おおまち）	おおまち1階キッチン内より出火を想定し、近隣駐車場へ利用者の避難誘導訓練を実施	6
	消防庁のDVD鑑賞「火災時、あなたならどうする？～小規模社会福祉施設における避難訓練等の方法～」	2

4. 地域交流

- ① 毎月第4火曜日のミニバザーは、活動の成果である自主生産品や野菜の販売・喫茶コーナーでの交流と地域の方々に定着し利用者の楽しみであると同時に様々な体験（買い物・販売・接客）の場となっています。
- ② 毎月第2金曜日の垂水区役所内でのアンテナショップは、垂水区の方に定着しましたが、区役所のロビーの使用方法等に抵触する問題、図書館の来館者からの苦情などから規模が縮小されました。利用者の方にとっては、一般の方に販売する経験ができる機会、意欲的に取り組める場所なのでマナーを守って継続していけるように気を配りながら活動しました。

(1) ボランティア

- ア) 個人：延べ 160名
- イ) 団体：2団体（創生会、舞子福祉サークル）延べ 183名

(2) 垂水区自立支援協議会

ア) 各部会

- ① 就労支援部会：垂水区役所内でアンテナショップを月1回定例開催。
：制度の学習会の他、斬新な取り組みを行って成功している事業所の見学などを実施し、高工賃への方策を検討。
- ② 防災部会：昨年度作成した「ヘルプカード」を家族会に向けて配布し、記入の仕方などを説明、より広く利用を進めた。また地域の障害者・高齢者が一緒に活動できる場として、餅つき大会などを実施した。
- ③ 学習部会：今年度は「大人グループ」に属し、主に精神障害への支援を行う事業（病院を含めて）を見学し、地域へ移行する為のシステム等を学んだ。

イ) たるみ桜の会

協議会の7事業所が合同で建設局管理地（平磯緑地）の清掃作業を請け負い、年12回の緑地清掃・年2回のひまわり街道の除草作業を実施。

(3) その他

ア) 施設開放

- ① 野田大町自治会等への会場提供（おおまち2階）を行い、地域住民への施設開放を実施（延べ24回）

イ) 実習

- ① 専門実習：神戸女子大、総合衛生学院（歯科衛生士）、神戸学院大学
神戸常磐大学、関西国際大学、須磨の浦高等学校、豊岡短期大学
- ② 進路実習：青陽西養護学校、いなみ野特別支援学校、のじぎく特別支援学校
青陽須磨支援学校
- ③ その他：高校生の福祉体験学習（福祉ワークキャンプ）2名
トライやるウィーク（長坂中学校）4名

ウ) その他

- ① 東谷公園管理会合同清掃（年5回）
東谷公園とトイレ清掃を管理会から請け負っており、委託作業とは別に管理会委員（地域住民）と合同で清掃を実施。

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 グループホームみなみたもん
 施設長 吉本 ひろみ

総括.

- (1) 2016年度当初から定員が充足し、いずれも安定したご利用状況でした。内1名は8月にお父様を亡くされ帰省が出来なくなり、5名の内2名は年間を通じて外泊なしの100パーセントのご利用となり必然的に利用率が高くなりました。幸い成年後見人が決まっていますが、ご本人と共にお父様の最期をお見送りする辛い出来事でした。後見人のサポートを受けながら立派に喪主を務められました。
- (2) 9月から夜間支援が出来る世話人が1名補充でき4名体制が整いましたが、時折バックアップ施設からの応援が必要でした。1月に1名の夜間支援員が療養が必要となり、苦しいシフトが続きました。
- (3) 入居者同士の関係性が引き続き課題となりました。ホーム内でのルールを決めても、中々徹底できずに、主張が出来ない入居者へしわ寄せが行く結果となってしまいました。

1. 2015年度の主な計画に対する実施内容

1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
サービス	権利擁護のための支援	①成年後見手続きが無事完了し、ご家族亡き後の支援をスムーズに行うことが出来た。 ②虐待防止に向けた取組として月1回の世話人会議での支援方法の確認を行ったが、学習会は継続出来ず。
	マニュアルの整備	①世話人・生活支援員業務マニュアル改定は未着手。
	地域との連携	①前年度に引き続き県営住宅内の自治会役員（書記）を担い、近隣住民との関係性を構築。 ②週1回、入居者と支援員で共用階段の清掃を実施。
	防災対策	①8月8日・11月15日に避難訓練を実施。ワンタッチ通報システムを試用。 ②11月3日に自治会主催の防災講習会に全員で参加。 ③2月27日、地震を想定した訓練を実施。 ④消防設備点検を実施（6月24日）（12月21日）
経営	利用率の安定維持	①1年間を通じて定員の5名利用で安定した利用状況。 ②帰省が少なくなり（2名は100%のご利用）目標95%に対して99.1%と達成。

	バックアップ施設の体制整備	①体調不良の入居者が日中活動事業所を休んだ時に神戸光生園から見守り支援として職員を派遣 ②バックアップ機能コーディネーターとしてサービス管理責任者を務め世話人会議に出席。
人材育成	キリスト教理念の浸透	①理念の浸透を図る為、月1回の世話人会議で基本理念の唱和を実施。
	専門性の向上	①世話人会議時の内部研修は情報共有に時間を要し、実施出来ず。 ②サービス管理責任者が全国グループホーム等研修会（福岡）に出席。
	虐待防止・人権擁護の取組み	①世話人「法令遵守・職業倫理研修」に参加。

(2) 各事業の課題・状況

i) 共同生活援助

課題	実施内容
余暇の充実	①おやつ作りはカロリー制限の為中止、昼食作り、外食を実施。 ②ガイドヘルパーの積極的活用の調整。 ③12月に全世話人・支援員と共に食事会を実施、各自の誕生日にはバースデーケーキでお祝い。
ホームでの円満な人間関係の構築	①入居者同士で大きなトラブルにならないよう、世話人会議、日誌や引き継ぎノートなどで情報共有を行い支援の統一化を図る。
医療面のサポート	①受診が増え、各自の受診予定の調整、服薬管理の徹底。
健康管理	①主食にマンナンヒカリを利用しカロリー調整。 ②体重測定、血圧測定（必要な方のみ）の実施と記録。

2. 研修

法令遵守・職業倫理等に関する研修、感染症対策等、外部研修に出来る限り参加してまいりましたが、夜間支援体制でもあり出席の調整が困難でした。全国規模の研修会にはサービス管理責任者が出席し、制度の動向などの情報を得て共有しました。内部研修が実施出来ず、利用者支援の情報共有に時間を要するので計画的に支援や記録の専門性を高める研修を実施する事が課題となりました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
		神戸市感染症対策特別講座	6
		全国 GH 等研修会福岡大会	7
		垂水区感染症実務者会	9
		法令遵守・職業倫理等に関する研修	10

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
2件	<p>① ご家族が長期旅行前に5万円をホームに預けたが、それが預かり帳簿の記録にない、と訴えがあった。2か月後に訴えがあり、ご家族の記憶も曖昧な所があったが記録等を調べ世話人にも聴き取りをしたが、ご家族の訴えに整合性がなく不明となった。第三者委員に報告し、記録等を確認して頂いたが、ご家族の記憶違いではないかと判断された。ご家族からも「もういいです」と取り下げがあった。帳簿に記載はしていたが預かり証をお渡ししていなかったものでその後は必ず預かり証をお渡しすることとした。(本部報告済み)</p> <p>② 日中活動の事業所から「健康診断」を受診するか確認があり、例年受診しているので「受診する」と返答した。ご家族から「確認がなかった」とお電話があった。費用がかかるのでは?という問い合わせであったが毎年無料であった事をお伝えすると納得された。</p>	2件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
0件	0件	0件

4. 地域交流

2016年度も引き続き202号室分の輪番の役員として書記をつとめました。入居者の方々とも大きな問題もなく溶け込めて来ました。また、週1回ではあるが日曜日に共用階段と廊下の清掃を行い、地域の一員としての役割を担って頂きました。自治会の消火訓練では地域の方に混じって、水消火器を使い消火訓練も行い地域の一員として意識を持って頂きました。

(1) ボランティア

- ア) 個人：なし
- イ) 団体：なし

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 神戸明生園
 施設長 山本 隆志

総括.

- (1) 支援の質向上の為、マニュアル整備、研修体系の構築に着手しました。記録の整理、情報共有の徹底に向けた、記録ソフトの導入については、準備を行いました、実際の導入は次年度への持ち越しとなりました。
- (2) 「生活支援」においては、老朽化した照明設備の改修が完了しました。利用者の高齢重度化への対応策として、浴室内リフトの設置が完了し、入浴支援体制の見直しも含めて、安全な流れを作りました。
- (3) 「活動支援」においては、活動班の再編成を行い、個別支援の充実を図りました。しあわせの村内での、神戸芸工大とのワークショップ等、利用者の地域交流に参画しました。日々の創作活動の発表の場として、7回目となる神戸明生園作品展を元町のギャラリーにて開催し作品展開催当初の入場者目標の 200 名を大きく上回る、300 名以上の来場者数を達成できたことは感謝です。また、高齢重度化対応として、リハビリ的な活動の拡充を実施しました。
- (4) 福祉施設の防犯対策強化が喫緊の課題として挙がり、関係機関との連携、協力を強化すると同時に警備会社との契約、防犯設備（防犯カメラ）の設置で対応しました。

1. 2016 年度の主な計画に対する実施内容

支援内容や質の向上についての検証までは踏み込めませんでした。物理的な環境整備や活動プログラムの見直しなどについては計画に沿って実施ほぼできました。

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	利用者の地域移行	①ケアホーム対応職員（主任）に対して、積極的な外部研修への参加、関係グループホームとの連携強化について具体的に行動した。 ②未実施。
	アメニティの向上	①定員変更について、最終的な判断を第3期中期計画中に行う事に修正した。 ②照明設備（LED化）を完全実施。
	日中活動の充実	①日中活動班について、班編成の見直しを行い、活動提供の充実を図った。
サービス	日中活動の充実	①②「わくわく木曜日活動」の計画的な実施の継続により、個別支援の充実を図った。
	アメニティの向上	①男性・女性の両浴室にリフトを設置した。 ②高齢重度化への検討に着手。

	サービス水準の向上	①満足度調査を実施。 ②木曜活動において計画的に実施。
	人権擁護の推進	①虐待防止・接遇向上委員会の定期開催（2カ月に1回）。 ②3か月に1回の虐待防止チェックリストの実施。
経営	予算に沿った収入の確保	①利用率向上へ向けて、職員間でのデータ共有を実施。 ②一部の送迎加算等の取得に努めた。
	設備の老朽化への対応	①ベッドについては、機種を選定までは至らず。 ②外壁塗装工事等、修繕計画へ向けた計画を策定。積立実施。
人材育成	法人理念についての基本的理解と浸透	①朝礼での聖書とテキストの朗読を実施。基本理念の唱和を毎週月曜日に実施。 ②一部実施に留まった。
	課題解決能力の向上	①清水基金を活用し、困難事例について、外部での事例検討を実施し、施設内で継続検討を行った。 ②気づきメモについては、活用達成せず。
	専門性の向上	①強度行動障害関連研修への参加を図った。 ②見学計画が感染症の発生により中止となり未実施。但馬地区施設の見学は実施。 ③委員会を設置し、計画作成に着手。
	職制レベルの育成強化	①職制会議において課題を共有し、主体的な委員会活動運営に努めた。

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護事業

課題	実施内容
日中活動の充実	①施設行事の提供、外出活動を積極的に提供。 ②木曜活動において、個別のニーズに基づいたサービスを提供。 ③神戸明生園作品展を利用者参加型で開催（イベント回数を増）。 ④個別支援計画の充実までは至らず。 ⑤スヌーズレン活動を計画的に実施。 ⑥リハビリ的な活動をPTと連携して、実施。
社会参加の拡充	①個別支援計画の内容に基づき、一泊旅行（一部のみ）、公共交通機関の利用支援等を実施。

ii) 施設入所支援事業

課題	実施内容
アメニティの向上	①男性、女性共に浴室内に、天井走行リフトを設置。LED化の完全実施の完了。 ②可能な限り、直前配膳を実施。加温配膳車は導入せず。
サービス水準の向上	①職員の積極的な参加による、各委員会の運営を実施。 ②満足度調査を実施（3月） ③支援記録ソフトの導入スケジュールの見直しを行った。
人権擁護の推進	①虐待防止・接遇向上委員会において、虐待防止スローガンを3か月に1回見直し、全体での意識向上のため施設内に掲示。チェックリストを3か月に1回実施。 ②虐待防止研修を2回実施。また、他施設での虐待事例等を朝礼および連絡帳でタイムリーに情報発信。
感染症予防対策	①職員・利用者への予防接種を実施。 ②日常業務において、加湿空気清浄器の稼働、手指消毒の励行、手すり、床、トイレ等の消毒を継続。結果、インフルエンザ罹患者は最小限で抑えられた。 ③口腔ケアの継続により、感染症（肺炎）予防に努めた。
地域生活移行準備	①グループホーム部会への参加に留まった。 ②北区自立支援協議会のくらし部会に参加。

iii) 短期入所事業

課題	実施内容
利用率の向上	①法人内他施設と連携し、利用促進を実施。 ②定期的なSNS更新を行い、広報に努めた。

2. 研修

虐待防止や専門知識研修などの利用者支援に関する研修のほか、自己啓発やコーチングなど職員自身の社会人としての成長に繋がる研修への参加を図りました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
虐待防止研修	4月、1月	市知連講演会（虐待）	5月
評価セミナー	4月	市民救命士研修	6月
市民救命士研修	5月	全知協施設長等会議	6月
上級一般職員研修	6月	清水基金国内研修	7月
不審者対応防犯訓練	8月	サビ管資格研修	7月
喉詰め対応研修	10月	グループホーム研修	7月

中級一般職員研修	10月	虐待防止研修	7月
課長研修	11月	法令順守研修（市）	7月
フォローアップ研修	11月	北摂杉の子会セミナー	8月
主任・副主任研修	1月 2月	全知協全国研究大会	9月
中級一般職員研修	1月	法令順守職業倫理研修	9月
総合職員研修	2月	強度行動障害支援者養成研修	9, 10, 1月
		旭川荘医療福祉セミナー	10月
		社会福祉士実習指導者養成研修	11月
		サビ管ブラッシュアップ研修	2月
		アンガーマネジメント研修	

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件	利用者への対応、職員間の情報共有	0件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
15件	8件	163件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報訓練	日中の出火を想定し、日中活動グループ単位での避難誘導	10月
避難・通報（夜間想定）	夜間の出火を想定し、遅出勤務者・夜勤者8名での避難誘導 非常事態訓練（水害） シェイクアウト訓練（地震）	1月

4. 地域交流

(1) ボランティア

ア) 個人：延べ57名 イ) 団体：4団体 延べ124名 合計181名

(2) その他

しあわせの村まつり、しあわせの村内カウンターショップ、北区社会福祉協議会地域交流イベント、しあわせの村ユニバーサルデザインフェア、神戸芸工大とのワークショップへ参加

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 ケアホームきたすま
 管理者 山本 隆志

総括.

- (1) 利用者の高齢・重度化に伴う健康面・体調維持に関わる課題に対して、バックアップ施設との密な連携に基づき、早期の対応を行いました。システム化されたバックアップ体制の構築に向けて、バックアップ担当職員を中心とした情報の集約を進めました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
サービス	高齢・重度化への対応	①利用者個別の状況に対応した食事形態の提供を実施。安全な入浴支援できるよう、見守りを強化。
	利用者の安全確保	①②次年度実施に計画を見直し。 ③体調不良時の早めの受診、バックアップ施設からの応援で対応。
	地域生活の定着	①自治会の清掃活動に年2回参加。 ②近隣の地域資源（理髪店等）活用を継続。
経営	予算に合った収入確保	①欠員が長引き未達。
	設備改修準備	①オーナーとの相談調整が完了。 ②消防設備設置時期を見直し。
人材育成	専門性の向上	①実施出来ず。 ②虐待防止研修の実施。 ③全職員会議により、地域生活の意味合いを再確認。 ④バックアップ施設との連携強化および対応可能支援員を増やす為、実地見学を受け入れ。

2. 研修

(1) 内部研修

内容	実施月	内容	実施月
虐待防止研修	4月 2月		

(2) 外部研修（法人主催の研修除く）

内容	実施月	内容	実施月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

ア) 苦情

件数	主な内容	解決	継続対応
0件		件	件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

ア) 事故報告

件数	うち本部報告	主な内容
件	0件	

イ) ひやりハット報告

件数	主な内容
0件	

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難訓練	日中の出火を想定し、避難誘導を実施	5月、10月

4. 地域交流

(1) ボランティア

ア) 個人： なし

イ) 団体： なし

(2) その他

自治会清掃活動 年2回

バックアップ施設より、体制強化の為に支援員の見学を随時実施。

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 神戸市立ワークセンターひょうご
 神戸市障害者就労推進センター
 神戸障害者就業・生活支援センター
 障害者就職拡大推進事業
 所 長：谷上 久雄

総括

- (1) 法人の基本理念のもとに標記4事業を一体的・有機的に運営し、障害者が「一人でも多く、一日でも長く」一般就労できるよう、就職支援・定着支援を推進しました。
- (2) 訓練生の就職は昨年度より1名減の18名、一般登録者の就職は昨年度より54名増の170名でした（それぞれ就労継続支援A型事業所への就職を含む）。ワークセンターひょうごについては、これまでの定着支援の成果もあり、次年度は最高単位の就労定着支援体制加算が取得できることができました。また就労相談部門についても、目標にしていた職場定着率の向上を達成できました。
- (3) ワークセンターひょうごでは、利用者確保に向けてPR活動の促進や見学・体験実習の積極的な受け入れをしました。今年度は訓練生の在籍数が多かったこともあり、途中入所者の受け入れは昨年度12名に対し5名と少数でしたが、対定員の利用率は昨年度77.4%に対し82.3%と高い数字でした。また今年度は12月に第三者評価を受け、日々の支援を見直すきっかけとなりました。次年度以降、指摘のあった項目についての改善に取り組みます。
- (4) 神戸地域における障害者就労支援の中核的施設として、労働・福祉・教育等の関係機関との連携に努めました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

事業計画に位置付けた以下の事業について、毎月、副主任以上で進捗状況を確認しながら推進しました。全体として概ね遂行できたと考えています。

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

	課題	実施内容
中期計画	①一般就労した訓練生相談者の居住の確保 ②就労の準備性を高める自立訓練事業の検討	①法人内の部会を通じて、建て貸し方式のグループホームを中心に、開設時期・場所等について検討。建て貸し方式のグループホームの見学を実施。 ②自立訓練事業については、市内の事業所の見学を実施。当センターでの新設よりも、既存の自立訓練事業所との連携を検討。
サービス	特定相談支援事業所の開設	神戸聖隷総合相談センターの中に4月から特定相談支援事業の開設が実現。障害基礎年金についての勉強会の開催や成年後見制度の研修などで円滑な事業展開に協力。

経営	安定的経営の模索	ワークセンターひょうごでは開設日数の増加（年間 25 日の土曜日開所を行い、265/269 日営業）、就職による退所者に見合った積極的な欠員補充、二次募集の実施、特別支援学校との連携強化、普通学校への営業活動を実施。
人材育成	中核施設としての職員の専門性の向上	内部研修の企画・実施、外部研修への積極的な参加、講師派遣を通じて職員の資質を向上。

(2) 各事業の課題・状況

i) 就労移行支援事業（神戸市立ワークセンターひょうご）

課題	実施内容
効率的な就労移行プログラムの検討	<p>①支援の均質化、標準化を目指し、支援マニュアルの策定に着手。</p> <p>②延べ 62 人の体験実習、延べ 21 人の職場実習を実施。</p> <p>③就労意欲向上のため、訓練生全員を対象に事業所見学会（㈱フェリシモ）を実施。</p> <p>⑤男女間のコミュニケーションの取り方を学ぶため、訓練生向けの性教育を含めた講習会を実施。</p> <p>⑥スマートフォン、SNS のトラブル防止の研修会を実施。</p>
就職した卒業生の計画的なフォローアップ	<p>①就職後 5 年間の計画的な職場訪問による定着支援と事業所等からの要請による非定期的な支援を実施（対象 60 事業所、82 名）。この効果もあり、次年度は最高単位の就労定着支援体制加算の取得が決定。</p> <p>②ファミリー会（卒業生の家族の会）を年 3 回開催し、家族から卒業生の状況を把握（延べ 74 名参加）。</p>
ジョブコーチ事業の推進	10 月からジョブコーチ 1 名を追加登録。3 名のジョブコーチが積極的にジョブコーチ支援を実施（新規支援件数 14 件、延べ支援日数 203 日）。
安定的経営の模索（制度的欠陥への対応）	<p>①次年度利用希望者の募集（10 月）では 18 名の応募があり、うち 14 名の利用が決定。その後追加で 1 名の申込みがあり、次年度は 15 名の受入れが決定。学校との連携強化のため、進路指導担当教諭との連絡会を年 2 回開催。</p> <p>②各月日数マイナス 8 日に近い営業を目指し、年間 25 回の土曜日開所を実施（265/269 日営業）。土曜日の出勤率は 73.2%。</p> <p>③将来の当センター利用を視野に入れ、各種学校等からの見学者を 360 名、体験実習 36 名を受け入れ。</p> <p>④紹介用 DVD、ホームページをリニューアルし、PR 活動に活用。</p>

ii) 相談支援事業（神戸市障害者就労推進センター）

課題	実施内容
登録者の状況把握と迅速なフォローアップの推進	<p>①一般登録者 567 名を対象に就労状況等について定期実態調査を実施（417 名から回答、返送率 74%）。うち 502 名に対しては登録確認を併せて実施。回答のあった 417 名のうち、在職中は 65%、求職中は 35%。</p> <p>②個々の調査結果に基づき、今後 1 年間の支援方針を決定し、相談記録に入力。必要に応じたフォローアップを実施。</p> <p>③2013 年度から各地域センターもアンケート調査を実施。登録確認等の回答内容を共有。</p>
各地域就労推進センターや就労支援機関とのネットワーク強化	<p>①各地域障害者就労推進センター・神戸市との連絡会を毎月開催し、連絡調整の他、改正障害者雇用促進法に関する情報共有、ケース検討会を実施。</p> <p>②中部地域就労支援ネットワーク会議（中央・兵庫・長田・須磨区）を 3 回開催し、実務者レベルでの地域連携を強化。</p>
中部地域の就労系事業所との連携強化	<p>中部地域の就労移行・就労継続支援事業所とのつながりを深め、連携を強化（事業所訪問は延べ 110 回、事業所からの来所は延べ 14 回）。</p>

iii) 相談支援事業（神戸障害者就業・生活支援センター）

課題	実施内容
精神・発達障害者への支援	<p>①就業支援アドバイザー制度を活用し、精神科医の意見照会を実施（年 2 回）。</p> <p>②職員に対し、DVD による発達障害についての内部研修を実施。</p> <p>③精神科医療機関とハローワークの連携による就労支援モデル事業の連携会議に出席。</p>
職場定着率の向上	<p>①2010 年度開始の一般登録者への職場定着支援「ロングサポート」を推進。前期 68 名、後期 71 名に対し職場訪問等による定着支援を実施。</p> <p>②「犯罪被害に遭わないために」「コミュニケーション力の向上」等をテーマに在職者交流会を年 4 回実施し、職場定着を促進。</p> <p>③ほっとロビーを延べ 1094 名が利用。</p> <p>④アフターファイブ支援事業「ドリーム」を延べ 1104 名が利用。</p> <p>⑤上記各取り組みの結果、1 年後の職場定着率が昨年度 76.1%から今年度 88.2%に大きく向上（特に精神障害者の定着率が昨年度 61.8%から今年度 86.3%に向上）。</p>
関係機関とのネットワークの強化	<p>約 70 の就労関係機関で構成する「ネットワーク会議」を 2 回開催し、虐待防止法・各機関の就労支援状況等について情報共有。</p>

就労移行支援事業所の支援力底上げ	①経験の浅い職員を対象に、全5日間の就労支援基礎研修「ラーニングセッション」を共催（職業センター、市こころの健康センター）。59名が受講。 ②施設長等で構成する「就労移行支援部会」（2010度新設）を2回開催。新規参加機関からの事業紹介、各事業所の事業報告、就労移行支援事業所の再利用についての情報共有を実施。
就業・生活支援センター機能の強化 （障害者就職拡大推進センター）	支援力の向上を目指し、面接相談スキルアップ研修を始め、各種研修を受講。

iv) 中部在宅障害者福祉センター

課題	実施内容
中部在障の次期指定管理の更新（2017～2020年度）	各階の課長、施設長、所長による指定管理申請打合せ会を開催し、申請書類を作成。9/8に指定管理申請書類を神戸市に提出、9/28に保健福祉局指定管理者選定評価委員会が開催され、指定管理者候補者に決定。市会での審議・議決を経て、12/22付で指定管理者指定通知書を受領。
利用者の権利擁護の一層の推進	①兵庫県、全職員を対象とした障害者虐待防止内部研修を実施。 ②虐待防止に関する外部研修を積極的に受講。 ③全体職員会議にて法人の基本理念を唱和し、理念に基づいた支援を行うよう周知徹底。また、法人内外の事案に対する説明と情報共有を行い、さらなる注意喚起。 ④各セクションの職員会議にて、支援の振り返りや勉強会を行い、障害者虐待への理解を深めるとともに、虐待の防止を徹底。 ⑤法人虐待防止チェックリストによるセルフチェックを年2回実施し、集計結果に基づいて振り返りやヒアリングを行い、改めて注意喚起を実施。 ⑥昨年度募集した虐待防止標語のうち、上位のものから啓発ポスターを作成し、施設内と事務所に掲示。

2. 研修

障害者虐待防止、メンタルヘルスを中心に内部研修を企画・実施しました。また、様々な外部研修への参加や講師派遣を通じて職員の専門性の向上を図りました。

(1) 内部研修 <10テーマ・延べ15回開催。主な内容は以下のとおり。>

内容	実施月	内容	実施月
発達障害	4・5・6	AEDによる心肺蘇生	5・11
知的障害者重度判定	7	てんかん	8
リスクマネジメント	11	PCAGIP法による事例検討	1
メンタルヘルス（セルフケア）	2	個別支援計画策定の意義	3

(2) 外部研修 <73 研修・延べ 116 名受講。主な内容は以下のとおり。>

内容	実施月	内容	実施月
面接相談スキルアップ研修	5・6	就業支援スキル向上研修	6・8・9
精神障害研修	5・6・9 11・2	スーパーバイザー養成講座	10・11
職場適応援助者養成研修	7・9	発達障害研修	9・10・11 1・2・3
ラーニングセッション	8～9	グループホーム研修	8
就労支援研修	4・9・12 1・2	職業リハビリテーション	11

(3) 講師派遣 <11 研修・延べ 12 回派遣。主な内容は以下のとおり。>

内容	実施月	内容	実施月
企業在籍型職場適応援助者研修	7・11	障害者職業能力開発セミナー	9
就業支援基礎研修	9	全国要約筆記問題研究会兵庫支部集会	12
兵庫県進路指導研究会定時制通信制部会	12	生活科学運営職員研修	2

3. リスクマネジメント

中部在宅障害者福祉センター内の全事業所合同のせいれいキャナル虐待防止・苦情解決委員会を 10 月と 3 月に開催しました。

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0 件			

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
9 件	1 件	1 件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	キャナルタウンイーストの合同訓練。	6
避難・通報・消火訓練	センター各階合同避難訓練（地震想定）。	11

4. 地域交流

(1) ボランティア

就労している障害者の居場所づくりと定着支援の観点から、毎週金曜日、青少年会館（三宮）で「ドリーム」を開催（49回）し、ボランティアスタッフとして延べ40名から応援をいただきました。その他、8月に個人の学生ボランティア1名を計10日間受け入れました。

ア) 個人：41名 イ) 団体：0団体

(2) その他

- ・神戸市中学校特別支援学級研究会の見学（16名）を受け入れました。
- ・神戸学院大学オープンカレッジに訓練生6名が参加し、学生との交流を図りました。
- ・中央・兵庫・長田・須磨区所在の就労移行支援事業所等地域の関係機関で構成する「中部地域ネットワーク会議」を3回開催し、地域に根差した就労支援を推進しました。

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
ひょうご障害者地域生活支援センター
所長 谷上 久雄

総括

- (1) 法人の基本理念のもと、地域で生活する障害者(児)とその家族等からの相談に対し必要な情報の提供や助言を行うとともに、福祉、医療、行政などの関係機関との連携を図り、適切な障害福祉サービスを利用調整するなど、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう包括的な相談支援を実施しました。
- (2) 神戸市立中部在宅障害者福祉センター内の各相談支援事業を集約しワンストップ相談支援体制を整備して約4年が経過しました。これまで同様、各相談支援部署との日常的な情報交換による連携や全体職員会議での各部署との情報共有（事業計画、事業報告、並びに取りくみ内容等）を継続するとともに、今年度は、内部研修において各事業紹介や事例検討の導入を行いました。その結果、生活相談から就労相談、発達相談等、各相談者のライフステージに応じた相談支援を適切かつタイムリーに実施することができました。なお、次年度以降も引き続きワンストップサービスの充実に向けた取り組みを行ってまいります。
- (3) 兵庫区自立支援協議会の事務局として、行政、関係機関、関係団体と協働しながら、障害の有無に関わらず誰もが住み慣れた地域で安心して生活を続けるため、様々な取り組みを実施しました。とりわけ、防災部会では、中道地域において「ふれあいワークショップ」を3回開催し、地域住民に対する障害への理解促進や要援護者支援への意識高揚を図ることができました。また、障害者への理解促進と販路拡大を目的とした兵庫区庁舎内におけるアンテナショップ「ハートンマルシェ」を毎月開催し、事務局として参加事業所に対する後方支援を行いました。
次年度以降は、これまでの取り組みを踏まえながら、兵庫区自立支援協議会が、よりいっそう地域課題を検討できる場となるように努めていきたいと思っております。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

事業計画に位置付けた以下の課題について、下記の通り推進しました。全体として概ね遂行できました。

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	障害者総合支援法に対応し地域に根差した相談支援体制の整備（神戸地区）	①指定特定相談支援事業者として、既存の委託業務（認定調査、勘案調査、移動支援、同行援護等）と並行しながら、障害福祉サービスを利用される方へのサービス等利用計画作成を推進(87件)。 ②地域生活を希望される方への病院・施設からの地域移行・地域定着について、関係機関主催の会議等に参加。障害児については、昨年度提示された

		神戸市からの方針に基づき、引き続きセルフプラン作成補助を中心に相談支援を実施。
サービス	ワンストップ相談支援サービスの実施	①包括的な相談支援と相談者の利便性向上を目的に、2施設長の所管に分かれる各相談支援事業を1施設長に統合し、ワンストップ相談支援体制を整えてから約4年が経過。今年度も、より効果的な相談支援が提供できるように、他の相談支援事業との日常的な連携や内部研修を通して、相互理解を目的とした取り組みを実施。
	権利擁護の推進	①成年後見制度や虐待に関する個別相談を通して、相談者の権利擁護を推進。
経営	委託事業の特性を踏まえた対応	①既存の委託事業に個別給付事業（サービス等利用計画 87件、勘案事項調査 629件、認定調査件 200件等）を加え、包括的な視点で効率的な事業運営を実施。次年度も引き続き、委託事業と個別給付事業のバランスを図り、より効率的な事業運営を模索。
	メンタルヘルス対策	①全職員を対象に法人共通のメンタルヘルスチェックを実施（10月）。セルフケア研修を実施（2月）。また、昨年度休職者を出したことを踏まえて、職員の体調変化を早期に把握することを目的に、原則2か月1回のペースで職員との面談を実施。
人材育成	キリスト教理念の浸透	①全体職員会議において、毎回、全職員で法人の基本理念の唱和を行い、法人理念の浸透に努めた。
	専門性の向上	①法人研修（役職別研修等）へ積極的に参加。 ②内部研修の企画・実施、外部研修へ積極的に参加。また、職員の専門性の向上を目的に、積極的に講師派遣を実施。

(2) 各事業の課題・状況

i) 相談支援事業

課題	実施内容
・基本相談支援の徹底 (困難ケースへの対応)	①個別支援会議(3件)、関係機関との連携によるケア会議等(102件)を実施。 ②朝礼時にケースに関するタイムリーな情報共有を実施。 ③毎月実施の職員会議にて、ケース共有を実施。 ④機能強化専門員による定期的なスーパーバイズを実施(6月、8月、10月、3月)。

<p>・地域のニーズへの対応 (区自立支援協議会)</p> <p>・地域のニーズへの対応 (区自立支援協議会)</p>	<p>①5月に、全体会（事業報告、講演会など）を実施。</p> <p>②神戸市自立支援協議会内の事務局会議に参加し、各区の地域課題の整理、及びテーマ別部会の設置に貢献。</p> <p>③運営委員会を年6回実施。</p> <p>④1月に区協議会主催の施設見学研修会を実施（行先：フェニックス長田キュアセンター、しののめハウス、参加者：15名）。</p> <p>⑤防災部会：部会を年5回開催。今年度は、地域住民に対する障害理解の促進、ヘルプカードの周知などを目的に、中道地域での「ふれあいワークショップ」を開催（8、9、2月）。事務局として、部会員の協力を得ながら、ワークショップの準備や当日の運営を担当。また、和田岬地区で開催された兵庫区総合防災訓練安全・安心フェアに参加（11月）。</p> <p>⑥社会参加部会：今年度は、運行マニュアル、業務マニュアル等の作成を目的に部会を年4回開催。グループワーク形式で、実際の事例を通して対応方法などを検討。</p> <p>⑦就労継続B型部会：部会を年5回開催。部会構成機関からニーズとして挙げたテーマ（「感染症対策」「個別支援計画について」、「障害者の権利擁護、虐待防止研修」、「障害者と性について」、「障害年金について」）で勉強会実施。また、就労継続B型部会加盟の7事業所を中心に兵庫区庁舎内において、アンテナショップ「ハートンマルシェ」を毎月開催。</p> <p>⑧活性化部会：部会を年4回開催。昨年度から引き続き、障害当事者の目線での困り事をベースに部会を運営。具体的には、ピアサポーター活動の勉強会や生活場面での困り事をテーマに「ワールドカフェ」方式を用いた話し合いの場を提供。</p> <p>⑨身体・知的障害者福祉相談員連絡会（3回） 相談員間の連絡調整と地域ニーズの把握、課題のとりまとめを実施。</p>
<p>・制度改正に伴う今後の事業展開の模索</p>	<p>①毎月実施している神戸市と各職位別連絡会（センター長会議、強化員会議、コーディネーター会等）に参加し、情報交換・連携を実施。今後の支援センターの効果的なあり方について、引き続き神戸市障害者支援課と協議継続。</p>

2. 研修

障害者虐待防止、メンタルヘルスを中心に内部研修を企画・実施しました。また、様々な外部研修への参加を通じて職員の知識、スキル、専門性の向上を図りました。

(1) 内部研修

内容	実施月	内容	実施月
新規採用職員研修	5	中堅職員フォローアップ研修	10
チャンネル内部研修（事業説明）	10	課長研修	11
リスクマネジメント研修	11	新規職員フォローアップ研修	11
主任・副主任研修 「OJT推進基礎研修」	2	総合職員研修	2
虐待防止研修	2、3	メンタルヘルス研修	2
成年後見制度実務研修	3	個別支援計画研修	3

(2) 外部研修（法人主催の研修除く）

内容	実施月	内容	実施月
新任障害福祉事務担当者に対する研修	5	神戸市知的障害者施設連盟職員部会総会・講演会	5
障害支援区分認定調査員研修	5	県相談支援専門コース別研修	7
兵庫県相談支援従事者初任者研修、演習	7、8、9	触法障がい者の入口支援の実際とこれから	7
中部地域障害者就労推進ネットワーク会議	7	神戸市内特定相談支援事業者連絡会	7、3
兵庫県相談支援従事者基礎研修	8	福祉施設中堅職員共通研修「中堅職員のキャリアデザイン研修」	8、11
地域福祉基礎研修 「エンパワメント支援と地域生活支援」	8	面接相談スキルアップ	8、9、10
神戸市相談支援機能強化研修	8、9	主任者研修「危機管理意識向上研修」災害時に働ける職員になるために	9
障害者差別解消法研修会	9	第1回地域生活チャレンジ研修「ふつうの暮らしのために」	9
依存症についての学習会 第1回～第4回	9、10、11	発達障害者事例検討会	9、3
介護保険との連携研修	10	自殺未遂者支援研修「自殺企図・自殺念慮者への支援」～対応スキルを学ぶ～	10
バリアフリーフェスタかながわ2016	10	障害者地域生活支援従事者研修会	11

高次脳機能障害研修 ～支援プログラムの実際～	11	障害者サービスコーディネーション研 修会（アドバンストコース）	12
市民公開講座 成年後見セミナー 基礎課程、実務コース	1	相談支援を”つなぐ”研修 会（触法障害者支援）	1
兵庫区自立支援協議会研修会	1	神戸市地域自立支援協議会 研修	1
兵庫県相談支援従事者現任研 修	1	談支援を”つなぐ”研修会 （高次脳機能障害者支援）	2
神戸市相談支援機能強化研修 「危機管理マニュアルにかか る勉強会」	2	障害者虐待対応力向上研修	3

3. リスクマネジメント

キャナル虐待防止・苦情解決委員会を開催し、予防・再発防止について意見交換を実施しました。また毎月の職員会議（地域生活支援センター・基幹相談センター・発達相談窓口）でも事故報告・ひやりハット事例を共有し再発防止に努めました。

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件	—	0件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
1件	0件	0件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	キャナルタウンイーストの合同訓練	6
避難・通報・消火訓練	センター各階合同消火・避難訓練（地震想定）	11

4. 地域交流

(1) ボランティア

- ア) 個人： なし
- イ) 団体： なし

(2) その他

- ア) 平成28年度兵庫区総合防災訓練（11月、和田岬地区）に参加し、訓練を通じて、災害時における要援護者の避難のあり方について地域住民と協働し交流を深めました。
- イ) 「中部地域障害者就労推進ネットワーク会議（中央・兵庫・長田・須磨区）」（神戸市障害者就労推進センター開催）の事務局メンバーとして参加し、関係各機関との連携を深めました。

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
神戸市発達障害者中部相談窓口
所長 谷上 久雄

総括

- (1) 法人の基本理念のもと、発達障害者とその家族等からの相談に対し必要な情報提供や助言を行なうとともに、関係機関との連携を図りきめ細やかな相談支援を実施しました。
- (2) 神戸市立中部在宅障害者福祉センター内の各相談支援事業を集約しワンストップ相談支援体制を整備して約4年が経過しました。これまで同様、各相談支援部署との日常的な情報交換による連携や全体職員会議での各部署との情報共有（事業計画、事業報告、並びに取りくみ内容等）を継続するとともに、今年度は、内部研修において各事業紹介や事例検討の導入を行いました。また、発達窓口においては、就労相談部門との合同会議に毎月行い、ケース共有を通して、よりいっそうの相互理解を図りました。その結果、生活相談から就労相談、発達相談等、各相談者のライフステージに応じた相談支援を適切かつタイムリーに実施することができました。なお、次年度以降も引き続きワンストップサービスの充実に向けた取り組みを行ってまいります。
- (3) 発達障害の障害特性からくる日常生活を送るうえでの「困りごと」を的確に把握し、自立と社会参加の実現へ向けて支援すべく、外部研修への参加や関係機関との連携を通して、職員の資質向上を図りました。また、当事者の家族への支援のひとつとして、研究機関の協力のもと、ペアレントトレーニングを実施しました。
- (4) 日々の相談支援業務の実施や定例会議への出席に加えて、昨年度に引き続き、自立支援協議会（兵庫区、中央区）や相談支援事業所連絡会（長田区）等への参加を通して、関係機関との連携強化に努めました。また、中部窓口事例検討会（年2回）を開催し、応用行動分析の手法を用いた事例検討を通して、関係機関との顔の見える関係構築に努めました。
- (5) 発達障害のある方の多くが、就労を含む将来に対する不安を感じている実態を踏まえて、専門学校生等の若年の発達障害者に対するアウトリーチの取り組みを実施しました（9校に連絡、うち5校訪問）。その中で、各学校とも数名は発達特性のある学生を有し、学校として対応に苦心していることが判明しました。今年度は、学校に対する具体的な支援にまでは至りませんでした。今後も学校の新規開拓と既に訪問済みの学校へのフォローを継続実施し、教職員向けの発達障害に関する勉強会などを通して、若年の発達障害者への新たな支援につなげます。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

事業計画に位置付けた課題・対策について、下記の通り実施しました。全体としては概ね遂行できました。

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
サービス	ワンストップ相談支援サービスの実施	①包括的な相談支援と相談者の利便性向上を目的に、2施設長の所管に分かれる各相談支援事業を1施設長に統合し、ワンストップ相談支援体制を整えてから約4年が経過。今年度も、より効果的な相談支援が提供できるように、他の相談支援事業との日常的な連携や内部研修を通して、相互理解を目的とした取り組みを実施。
	権利擁護の推進	①成年後見人制度や虐待に関する外部研修等の情報を関係機関に提供することを通して、権利擁護を推進。
経営	委託事業の特性を踏まえた対応	①委託費が固定化されている中、他の委託事業（地域生活支援センター、発達相談窓口）との連携を図り、健全かつ効率的な運営体制を推進。
	メンタルヘルス対策	①法人共通のメンタルヘルスチェックを実施(10月)。
人材育成	キリスト教理念の浸透	①全体職員会議において、毎回、全職員で法人の基本理念の唱和を行い、法人理念の浸透に努めた。
	専門性の向上	①法人研修（役職別研修等）へ積極的に参加。 ②内部研修の企画・実施、外部研修へ積極的に参加。また、職員の専門性の向上を目的に、積極的に講師派遣を実施。

(2) 各事業の課題・状況

i) 相談支援事業

課題	実施内容
・寄り添った相談支援の提供(困難ケースへの対応)	①個別ケースの展開状況に応じて、随時、事業責任者を交えてケース検討を実施。 ②発達相談に加え、生活支援や就労支援等多岐にわたる相談ケースについては、市発達障害者支援センターをはじめ、市更生相談所、管轄区の地域生活支援センターや就労推進センター、兵庫障害者職業センター等と連携し対応。
・地域ニーズへの対応	①限られた社会資源の中、これまでどおり、地域活動支援センター（発達型）、就労移行支援事業者（発達障害者向け）等と円滑な関係を構築し、丁寧な支援を実施。また、昨年度に

	<p>引き続き、自立支援協議会（兵庫区、中央区）、相談支援事業所連絡会（長田区）に参加し、地域のニーズ把握を行うとともに、各関係機関との顔の見える関係を構築。</p> <p>②昨年度同様、神戸市と市内4窓口と協働のもと、当事者向けのプログラムとして、グループセッション（全6回を2クール、計12回）を開催し、社会生活を営むうえでのコミュニケーションスキル向上の機会を提供。また、家族向けのプログラムとしては、ペアレントトレーニング（全4回を2クール、計8回）を開催し、親子間のコミュニケーション改善の機会を提供。</p> <p>③発達障害のある方の多くが、就労を含む将来に対する不安を感じている実態を踏まえて、専門学校生等の若年の発達障害者に対してアウトリーチの取り組みを実施（訪問校：5校）。</p> <p>④中部窓口事例検討会を開催（9、3月）。応用行動分析の手法を用いて、中部地域に属する相談支援機関等が対応に困っている事例を検討。</p>
・新法施行に伴う今後の方向性の模索	<p>①毎月実施している神戸市と市内4窓口の各職位別連絡会（事業責任者、相談員）に参加し、情報交換・連携を図りながら、現状と課題に関して意見交換を実施。今後の窓口の効果的なあり方について、引き続き市発達障害者支援センターとの間で協議継続。</p>

2. 研修

障害者虐待防止、メンタルヘルスを中心に内部研修を企画・実施しました。また、様々な外部研修への参加を通じて職員の知識、スキル、専門性の向上を図りました。

(1) 内部研修

内容	実施月	内容	実施月
チャンネル内部研修（事業説明）	10	分かりやすい！成年後見研修会	12
中級一般職員研修	1	障害者虐待防止研修	3
メンタルヘルス研修	2	エゴグラム勉強会	3

(2) 外部研修（法人主催の研修除く）

内容	実施月	内容	実施月
「働く力」集い	4	面接相談スキルアップ	5、6、7
神戸市発達障害者相談員研修会	5	神戸市における生活困窮者自立支援の取り組み	6
中央区自立支援協議会全体会	6	警察と配偶者暴力相談支援センターにおける被害者支援を知る	6
家族のコミュニケーション	6、7、8、	日本発達障害学会	8

スキルアップトレーニング	10、11	「共生社会を目指した発達支援を考える」	
就業支援基礎研修	8、9	発達障害の理解を深める	9
家族のコミュニケーションスキルアップトレーニング ブラッシュアップ講座	9	第1回地域生活チャレンジ研修「ふつうの暮らしのために」	9
発達障がい理解と特性を考える	10	精神保健福祉従事者研修	12
発達障害者支援センター全国連絡協議会近畿ブロック研修会	12	障害児・者相談支援事業全国連絡協議会コーディネーター研修会	1
発達障害者専門職事例検討研修会	2	障がい者との共生社会を考える	2
神戸市相談支援機能強化研修「危機管理マニュアルにかかる勉強会」	2	家族のためのコミュニケーションスキルアップトレーニング実施報告研修会	3

(3) 講師派遣

内容	実施月	内容	実施月
ペアレントトレーニング	6、7、8 10、11	グループセッション	5、6、7 10、11、12
全市事例検討会（ファシリテーター役）	2		

3. リスクマネジメント

キャナル虐待防止・苦情解決委員会を開催し、予防・再発防止について意見交換を実施しました。また毎月の職員会議（地域生活支援センター・基幹相談センター・発達相談窓口）でも事故報告・ひやりハット事例を共有し再発防止に努めました。

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件	—	0件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
0件	0件	0件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	キャナルタウンイーストの合同訓練	6
避難・通報・消火訓練	センター各階合同消火・避難訓練（地震想定）	11

4. 地域交流

(1) ボランティア

ア) 個人： なし

イ) 団体： なし

(2) その他： 特になし

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 神戸市障害者基幹相談支援センター
 所長 谷上 久雄

総括

- (1) 法人の基本理念のもと、障害者(児)とその家族等が住み慣れた地域で安心して生活するうえで必要不可欠な相談支援機能の充実に向けて、関係機関との連携を図り、市内における相談支援体制の整備を推進しました。
- (2) 会議やワーキングチーム等の整理や調整などを通して、神戸市内14支援センター及びその他相談支援事業者の統括と後方支援を実施しました。
- (3) 神戸市地域自立支援協議会内に設置された「研修部会」に事務局の一員として整理作業に携わり、神戸市内における研修体系を整備しました。
- (4) 神戸圏域における相談支援の中核的機能として、県下の他圏域相談支援事業者との定例会や兵庫県相談支援従事者(初任者)研修等の運営に参画し、関係機関との連携に努めました。
- (5) 神戸市障害者支援課と共催のもと、神戸市内の特定相談支援事業者連絡会を実施(年3回)し、神戸市内の相談支援体制の強化に努めました。また、今年度は、相談支援専門員の意向を連絡会に反映させるため、3事業所の方に準備段階から関わってもらいました。
- (6) 昨年度に引き続き、高齢者福祉分野と障害福祉分野との連携を目的に、兵庫県との連携のもと、「高齢障害者ケアマネジメント研修」を開催しました(2月)。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

事業計画に位置付けた課題・対策について、下記の通り実施しました。全体としては概ね遂行できました。

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	基幹相談支援センターへの応募(神戸地区)	①2013年度中に基幹相談支援センターの委託事業に応募し、その結果、2017年度まで事業受託。2016年度も引き続き、神戸市における基幹相談支援センターとして、神戸市内14支援センターの連携強化、統括的役割を担い、各地域センターの後方支援を実施。

サービス	ワンストップ相談支援サービスの実施	①包括的な相談支援と相談者の利便性向上を目的に、2施設長の所管に分かれる各相談支援事業を1施設長に統合し、ワンストップ相談支援体制を整えてから約4年が経過。今年度も、より効果的な相談支援が提供できるように、他の相談支援事業との日常的な連携や内部研修を通して、相互理解を目的とした取り組みを実施。
	権利擁護の推進	①成年後見人制度や虐待に関する外部研修等の情報を関係機関に提供することを通して、権利擁護を推進。
経営	委託事業の特性を踏まえた対応	①委託費が固定化されている中、他の委託事業（地域生活支援センター、発達相談窓口）との連携を図り、健全かつ効率的な運営体制を推進。
	メンタルヘルス対策	①法人共通のメンタルヘルスチェックを実施(10月)。
人材育成	キリスト教理念の浸透	①全体職員会議において、毎回、全職員で法人の基本理念の唱和を行い、法人理念の浸透に努めた。
	専門性の向上	①法人研修（役職別研修等）へ積極的に参加。 ②内部研修の企画・実施、外部研修へ積極的に参加。また、職員の専門性の向上を目的に、積極的に講師派遣を実施。

(2) 各事業の課題・状況

i) 相談支援事業

課題	実施内容
・市内14障害者地域生活支援センター・その他市内相談支援事業者の統括	①各職位別連絡会への参加（延べ30回） 事業責任者、機能強化専門員、コーディネーターごとの定例会議に参加し、統括的役割を担当。 ②特定相談支援事業者への研修会を神戸市と協働で企画、実施（7月、11月、3月の計3回）。
・神戸市相談支援体制の後方支援	①神戸市内14支援センター間の各ワーキングに参加し、横断的な連携、後方支援を実施。 ②神戸市内の特定相談支援事業者における相談支援の質の向上を目的に、「市内特定相談支援事業者連絡会」を開催（7、11、3月）。 ③新たに指定申請を検討している事業者への助言や相談支援従事者初任者研修の案内等を実施。

・区自立支援協議会・市地域自立支援協議会・神戸市施策推進協議会との連携	①各区の自立支援協議会総会に出席し、地域課題を把握。 ②神戸市内の研修体系の整理と再構築を目的に、神戸市自立支援協議会研修部会に事務局として参加(5、6、7、9、11、1月)。
・他圏域との連携・情報共有	① 県下の他圏域相談支援事業者との定例会（毎月実施）に出席し、国の動向等最新の情報共有と意見交換を実施。 ② 兵庫県相談支援従事者（初任者・現任者）研修にコアメンバーとして参画し、関係機関との連携強化。
・制度改正に伴う今後の事業展開の模索	① 神戸市障害者支援課との定例打ち合わせ（毎月実施）や日々の情報交換等を通して、基幹相談支援事業の今後の展開について意見交換を実施。次年度は、新たな特定相談支援事業所立ち上げについて、神戸市とも協議の上、具体的な動きを模索。

2. 研修

障害者虐待防止、メンタルヘルスを中心に内部研修を企画・実施しました。また、様々な外部研修への参加、講師派遣を通じて職員の知識、スキル、専門性の向上を図りました。

(1) 内部研修

内容	実施月	内容	実施月
チャンネル内部研修（事業説明）	10	リスクマネジメント研修	11
分かりやすい！成年後見研修会	12	主任・副主任研修 「OJT 推進基礎研修」	1
障害者虐待防止研修	2		

(2) 外部研修（法人主催の研修除く）

内容	実施月	内容	実施月
相談支援従事者指導者養成研修会	5	日中活動支援部会施設長及び職員研修会	8
神戸市相談支援機能強化研修	8、9	第1回地域生活チャレンジ研修「ふつうの暮らしのために」	9
基幹型相談支援センター全国研修会	10	発達障害支援フォーラム	10
高次脳機能障害研修 ～支援プログラムの実際～	11	第2回地域生活チャレンジ研修「地域で住み続けるために」	11
相談支援を”つなぐ”研修会（発達障害）	12	全国相談支援ネットワーク研修大会	1
相談支援を”つなぐ”研修会（触法障害者支援）	1	兵庫区自立支援協議会研修会	1
神戸市地域自立支援協議会研修	1	第3回地域生活チャレンジ研修	2

神戸市相談支援機能強化研修「危機管理マニュアルにかかる勉強会」	2	全国相談支援ネットワーク研修大会	3
発達障害者事例検討会	3		

(3) 講師派遣

内容	実施月	内容	実施月
兵庫県相談支援従事者初任者研修 コアメンバー	7、8 9、10	兵庫県相談支援従事者現任研修 コアメンバー	2
高齢障害者ケアマネジメント研修 (つなぐ研修)	2		

3. リスクマネジメント

キャナル虐待防止・苦情解決委員会を開催し、予防・再発防止について意見交換を実施しました。また毎月の職員会議（地域生活支援センター・基幹相談センター・発達相談窓口）でも事故報告・ひやりハット事例を共有し再発防止に努めました。

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件	—	0件	0件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
0件	0件	0件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	キャナルタウンイーストの合同訓練	6
避難・通報・消火訓練	センター各階合同消火・避難訓練（地震想定）	11

4. 地域交流

(1) ボランティア

ア) 個人： なし イ) 団体： なし

(2) その他

特になし

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 多機能型障がい者デイセンターひょうご
 (生活介護・就労継続支援B型)
 施設長 村山 盛光

総括.

- (1) ひょうごデイ全体としては、短期入所事業「アクシスひょうご」開設に重点が置かれる中で、年間6日土曜臨時営業時のプログラムとして、日帰り旅行を実施し、神戸市身体障害者機能訓練事業の療法士を派遣から事業所雇用に変え、更なる生活介護事業との連携を図る等、様々な工夫により、日中活動の充実を図ることが出来ました。
- (2) 上記に加え、一昨年度より継続して祝日平常営業・新規利用者受入、現登録利用者の利用登録曜日増を進めました。更には今年度4月から開業したアクシスひょうごとの相互利用により、利用登録曜日外の利用日数増につなげることが出来ました。結果、生活介護・就労継続支援B型両事業共、利用率は昨年度より若干良化しました。
- (3) 家庭の都合で自宅にひきこもりがちな当事者に時間単位から少しずつ利用を増やしてゆく取組や、室内にゴミが多く、生活に支障が出ていた当事者自宅の片付け支援等、地域生活課題へのアプローチも行いました。
- (4) 4月末に食事中の誤嚥による事故が生活介護事業において発生しました。大変痛切で残念な結果になりましたが、ご家族には寛大にお受け止め頂きました。改めて今後の支援の在り方について、安心安全な食事支援を目指すべく、再発防止へ誠実に取り組む契機となりました。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

今年度は、多くの当事業所職員が、短期入所事業「アクシスひょうご」を利用された当事業所利用者・家族に関わることで、利用者・家族理解を更に進める契機となりました。

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	・医療部門の再編	①医療ケアの提供体制として、看護師を常勤換算で1名配置し、経管栄養維持管理1名、導尿2名、酸素吸入1名の利用者様へケアを継続。 ②短期入所事業「アクシスひょうご」へ下半期から看護師1名が1泊2日夜勤を担い、夜間の医療ケアを提供。
	・利用者送迎の見直し	①昨年度から継続してインクルージョンひょうごとの共同運行を推進。 ②須磨本区西部まで送迎経路を延長し、新規利用者を受入。
	・サービス管理責任者の育成	①法人サービス管理責任者会議へ出席し、疾患別のマニュアル作成に従事。

サービス	・利用者主体の支援の実践	①毎週月曜日朝礼や事業所の会議にて法人基本理念を唱和。 ②サービス等利用計画内容と反転させつつ、半期での個別支援計画モニタリング実施。
	・権利擁護支援	①中部在障にて虐待防止研修に参加し、関係外部研修に参加。 ②成年後見制度に関する研修に参加。
	・地域生活支援における関係機関との連携・協力	①神戸聖隷総合相談センター等と連携、サービス等利用計画のモニタリングに参画。 ②新規利用希望者の掘り起こしや利用受入。
	・食事サービスの充実	①食事サービス検討委員会を毎月開催、委託先管理栄養士交代後に連携を更に強化。 ②嗜好調査を実施し、利用者の意見を調査し、月2回の選択メニューを実施。
	・快適空間の創造と日中活動の充実	①満足度調査結果に記載されていた他利用者から見た職員の食事支援内容や、設備備品の充実を検討。 ②ハートでアートこうべ2016に出展。 ③各係・担当采配の下、更に充実した活動を展開。
経営	・リスクマネジメントの強化	①服薬間違い、送迎ルート間違い事例の検証と業務手順の明確化。 ②自衛消防訓練を地震対策にて実施。 ③タイムカード、超過勤務命令書の継続的な突合とノー残業ダイの更新・徹底。 ④1月にリスクマネジメント委員会を常設委員会として設置。
	・メンタルヘルス対策の取組	①中部在障全体でセルフケア研修を開催し、新着職員もれなく参加。 ②法人全体でメンタルヘルスチェック実施。
	・第3期中期計画策定	①各職員が記入したSWOT分析シートを基に事業所の第3期中期計画を策定。
人材育成	・キリスト教理念の理解	①法人キリスト教福祉講座へ参加。 ②医療ケアニーズ利用者の利用を積極的に受入。
	・職員の定着と育成	①求職者へ職場見学案内、職場体験を提供し、マッチングに重点。 ②事業所独自初任者研修は4月開催に留まる。 ③各係、担当を職員で話し合いながら分担。 ④職員からの提案により、アクシス入浴のサービスの向上と日中活動事業の負担軽減を図る為、検討委員会を特別委員会として設置。 ⑤考課結果のフィードバック年度内未実施。

	・専門性の向上	①てんかん基礎講座、腰痛対策講座へ参加。 ②法人総合職員研修発表の取組として、摂食嚥下障害評価票を作成。 ③関西福祉大・甲子園短大の実習生受入。
--	---------	--

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護事業

課題	実施内容
日中活動の充実	①今年度からフットマッサージを月1回エステボランティアの協力を得て実施。 ②毎週木曜午前中にボランティアが活動継続し、利用者付添。 ③神戸市身体障害者機能訓練事業の療法士を派遣職員から事業所雇用へ変更し、多機能・生活介護本体事業との連携を緊密化。 ④音楽療法を週1回提供。 ⑤夏祭り、クリスマス会、喫茶外出、茶話会、日帰り旅行（エキスポシティ、姫路セントラルパーク等）を実施。 ⑥駅前商店街への外出付添。
生活介護事業利用率安定化	①利用率 82.23%（対法定 80.4%） ・相談支援事業との連携により、年度中盤に新規5名利用開始。 ②短期入所事業平日利用促進により、登録曜日外の利用日数増。 ③アレルギー食や低カリウム食を提供。
職員の身体負担度軽減	①床走行リフトの利用促進。 ②浴室天井走行リフトの導入相談は継続。（神戸市へ相談中） ③腰痛対策研修に参加。
援助技術の伝承	①求職者職場体験にて、業務内容を詳細に説明。 ②関西福祉大、甲子園短大の実習生を受入。

ii) 就労継続支援B型事業

課題	実施内容
安定した判りやすい活動スケジュールの確保	①はしまん（株）、スペースギャラリー（株）よりの受注量増加。 ②全体で余暇活動実施時に、希望者のみ作業活動へ従事。 ③音楽療法を週1回提供。 ④多機能・生活介護と共に季節行事を開催。 ⑤各取引先の業務基準書をタイムリーに更新。
工賃評定の見直し	①新規評価基準は未実施。
健康管理	①低カリウム食を糖尿病患者に提供。 ②体重測定を定期的実施。
社会生活力の向上	①ゴミ屋敷と化していた当事者自宅の片付け支援実施。
就B事業利用率安定化	①利用率 105.2%（対法定 100.52%） ②多機能・生活介護や近隣事業所との相互利用継続。 ③段階的に各利用者の利用登録日増。

2. 研修

内部、外部研修は、継続して虐待防止関連の研修を重点的に取り組みました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
AED研修	5	感染症対策講座（神戸市）	6
障害者虐待防止研修（中部在障）	2	障害者虐待防止研修	8
メンタルヘルス「セルフケア研修」	2	腰痛予防推進研修	10
		知的障害者の高齢化・重度化における支援の在り方	12
		障害者総合支援法関係事業者説明会	3

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
3件	送迎車遅延、駐車後処理誤り、帰宅直後臀部汚染	3件	0件

※駐車後処理誤り～は、運転委託業者によるサイドブレーキ忘れで車両が無人で動き、向かい側に駐車していたレンタカーに接触した件。

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
10件	3件	1件

※誤嚥による死亡事故1件

本部報告は便座からの滑落による打撲と介助時骨折各1件。

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	キャナルタウンイーストとの合同訓練	6
避難・通報・消火訓練	地震想定での訓練	11

4. 地域交流

ボランティアグループ いずみの会のメンバーに夏祭りやクリスマス会、秋の外出活動の付添やイベント手伝いをお願いしました。

(1) ボランティア

ア) 個人：2名

イ) 団体：11名

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 インクルージョンひょうご

(生活介護・神戸市重症心身障害者日中活動支援事業)

施設長 村山 盛光

総括.

- (1) 利用を見込んでいた4月からの新卒新規利用者1名は、ご家族の都合により年間通して数日の利用にとどまり、下半期より既存医療ケアニーズ利用者の利用登録曜日週1日増、年度末に新規同利用者を週2日利用曜日登録出来ました。両利用者とも順調に利用されていますが、年間の目標利用率達成には至りませんでした。
- (2) 利用者ご家族のご要望に応え、今年度から祝日平常営業を開始しました。
- (3) 当事業所家族会が長年にわたり要望され、法人当事業所としても神戸市との折衝を経て、一昨年度から宿泊活動の実施等、本格的な準備を進めてきた短期入所事業「アクシスひょうご」が今年度4月より開設されました。今後、重心登録をされている利用者・家族の日中・夜間両事業の相互利用を拡大し、重い障がいがある利用者・家族の個別支援計画に基づき、利用者を支える家族も含めて、地域社会で『普通に生きる』ことができるよう、『質の高い思いやりのあるサービス』の提供に努めます。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

今年度は、多くの当事業所職員が、短期入所事業「アクシスひょうご」を利用された当事業所利用者・家族に関わることで、利用者・家族理解を更に進める契機となりました。

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	・医療部門の再編	①医療ケアの提供体制として、看護師を常勤換算で1名配置し、経管栄養維持管理1名、導尿2名、酸素吸入1名の利用者様へケアを継続。 ②短期入所事業「アクシスひょうご」へ下半期から看護師1名が1泊2日夜勤を担い、夜間の医療ケアを提供。
	・利用者送迎の見直し	①昨年度から継続して多機能型障がい者デイセンターひょうごとの共同運行を推進。 ②須磨本区西部まで送迎経路を延長し、新規利用者を受入。
	・サービス管理責任者の育成	①法人サービス管理責任者会議へ出席し、疾患別のマニュアル作成に従事。
サービス	・利用者主体の支援の実践	①毎週月曜日朝礼や事業所の会議にて法人基本理念を唱和。 ②サービス等利用計画内容と反転させつつ、半期での個別支援計画モニタリング実施。

	・権利擁護支援	①中部在障にて虐待防止研修に参加し、関係外部研修に参加。 ②成年後見制度に関する研修に参加。
	・地域生活支援における関係機関との連携・協力	①神戸聖隷総合相談センター等と連携、サービス等利用計画のモニタリングに参画。 ②新規利用希望者の掘り起こしや利用受入。
	・食事サービスの充実	①食事サービス検討委員会を毎月開催、委託先管理栄養士交代後に連携を更に強化。 ②嗜好調査を実施し、利用者の意見を調査し、月2回の選択メニューを実施。
	・快適空間の創造と日中活動の充実	①満足度調査結果に記載されていた他利用者から見た職員の食事支援内容や、設備備品の充実を検討。 ②ハートでアートこうべ2016に出展。 ③各係・担当采配の下、更に充実した活動を展開。
経営	・リスクマネジメントの強化	①服薬間違い、送迎ルート間違い事例の検証と業務手順の明確化。 ②自衛消防訓練を地震対策にて実施。 ③タイムカード、超過勤務命令書の継続的な突合とノー残業デイの更新・徹底。 ④1月にリスクマネジメント委員会を常設委員会として設置。
	・メンタルヘルス対策の取組	①中部在障全体でセルフケア研修を開催し、新着職員もれなく参加。 ②法人全体でメンタルヘルスチェック実施。
	・第3期中期計画策定	①各職員が記入したSWOT分析シートを基に事業所の第3期中期計画を策定。
人材育成	・キリスト教理念の理解	①法人キリスト教福祉講座へ参加。 ②医療ケアニーズ利用者の利用を積極的に受入。
	・職員の定着と育成	①求職者へ職場見学案内、職場体験を提供し、マッチングに重点。 ②事業所独自初任者研修は4月開催に留まる。 ③各係、担当を職員で話し合いながら分担。 ④職員からの提案により、アクシス入浴のサービスの向上と日中活動事業の負担軽減を図る為、検討委員会を特別委員会として設置。 ⑤考課結果のフィードバック年度内未実施。
	・専門性の向上	①てんかん基礎講座、腰痛対策講座へ参加。 ②法人総合職員研修発表の取組として、摂食嚥下障害評価票を作成。 ③関西福祉大・甲子園短大の実習生受入。

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護・神戸市重症心身障害者日中活動支援事業

課題	実施内容
利用者主体の支援の発展	①個別対応に重点を置いた日毎の業務分担。 ②夏祭り、クリスマス会時の神戸医療福祉専門学校生 8 名との交流や、公共交通機関を利用して日帰り旅行を実施。
重症心身障害者日中活動支援事業利用率安定化	①利用率 67.64% (対法定 64.39%) 利用を見込んでいた 4 月からの新卒新規利用者 1 名は、ご家族の都合により年間通して数日の利用に留まったものの、下半期より既存医療ケアニーズ利用者の利用登録曜日週 1 日増、年度末に新規同利用者を週 2 日利用曜日登録。 ②土曜臨時営業を休止し、祝日平常営業を実施。
医療的ケアが必要な利用者の社会参加の工夫	①公共交通機関を利用して日帰り旅行実施。 ②医療ケアが必要な利用者新たに 1 名新規利用開始し、1 名利用登録曜日 1 日増。 ③健康ライフプラザにて利用者健康診断を実施。 ④認定特定行為業務従事者の実務者登録、事業所登録未実施。
意思決定支援に基づいた食事支援の取組	①法人総合職員研修発表の取組として、摂食嚥下障害評価票を作成。
職員の身体負担度軽減	①床走行リフトの利用促進。 ②天井走行リフト導入検討は未実施。 ③腰痛対策研修に参加。
援助技術の伝承	①求職者職場体験にて、業務内容を詳細に説明。 ②季節行事に神戸医療介護福祉専門学校 8 名ボランティア活動。

2. 研修

内部、外部研修は、継続して虐待防止関連の研修を重点的に取り組みました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
AED 研修	5	感染症対策講座 (神戸市)	6
メンタルヘルス「セルフケア研修」	2	てんかん基礎講座	6
障害者虐待防止研修 (中部在障)	2	障害者虐待防止研修 (自立支援協)	8
		看護職員研修 (県社協)	11
		知的障害者の高齢化・重度化における支援の在り方	12
		障害者総合支援法関係事業者説明会	3

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
5件	送迎遅延 個人所有物持帰り間違い 職員装飾品	5件	0件

※職員装飾品～の記載は、職員のジェルネイルが利用者介助中に取れてしまったと思われ、それが帰宅後車椅子座面に有った状況についてご家族より指摘を受けた件。

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
19件	0件	3件

※利用者持物破損3件、軽微な車両接触3件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	キャナルタウンイーストとの合同訓練。	6
避難・通報・消火訓練	地震想定での訓練	11

4. 地域交流

夏祭り、クリスマス会に神戸医療福祉専門学校の学生を8名受け入れ、利用者付添を担ってもらいました。

(1) ボランティア

ア) 個人：0名

イ) 団体：8名

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 アクシスひょうご

(短期入所事業)

施設長 村山 盛光

総括.

- (1) インクルージョンひょうご家族会が長年にわたり要望され、法人当事業所としても神戸市との折衝を進めつつ、一昨年度から宿泊活動を実施し、昨年度は設備設計・改修、備品調達、予算管理、予約管理、サービス管理、人員体制整備、広報活動等、本格的な準備に取り組みました。多くの関係者のご尽力により今年度4月より開業致しました。
- (2) 具体的なサービス内容の整備については、利用者6名に対し、夜勤支援員2名のサービス提供体制を構築したことにより、利用者お一人おひとりにきめの細かい介護・支援を提供することが出来ましたが、多機能型事業所における管理体制や入浴サービスの提供方法、ひょうごデイ日中活動事業所への負担等、今後の課題となりました。
- (3) 一日平均利用者が6.47人であり、利用目標の100%を超え、107.86%となりました。開業1年目として大きな成果となりました。
- (4) 今後、中部在障、法人内外事業所利用者・家族の日中・夜間両事業の相互利用を拡大し、利用の裾野を広げることで、目標利用率の達成を目指すと共に、中長期的に、神戸市や市内在障事業所とも連携しつつ、経営の安定を図ります。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

各職員が開設間もない短期入所事業所に従事することで、重い障がいがある利用者を支える家族も含めて、地域社会で『普通に生きる』ことを支援し、『質の高い思いやりのあるサービス』の提供に努める社会的使命を再確認しました。

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
サービス	利用者主体の支援の実践	①利用登録者96名、利用延べ2362名。 ②身体、知的、様々な基礎疾患、医療ケアニーズを持った障害当事者が定期利用。 ③事業所会議にて法人基本理念を唱和。 ④神戸聖隷総合相談センター等、相談支援事業所と連携し、利用者のサービス等利用計画立案、モニタリングに参画。
	権利擁護支援	①中部在障にて虐待防止研修に参加し、関係外部研修に参加。 ②成年後見制度に関する研修に参加。

	快適空間の創造	<p>①入浴サービス向上を図る為、入浴検討委員会を特別委員会として設置。</p> <p>②新たに整備した設備・備品を活用。</p> <p>③定期利用者や長期滞在利用者については、日々観察を重ね、利用者個々の興味関心に沿った支援を実践。</p>
経営	リスクマネジメントの強化	<p>①服薬間違いを契機とし、服薬支援マニュアルや物理的環境を再構築。</p> <p>②特にきめの細かい介護支援の必要な利用者へもれなく提供出来る様、介助チェックリストを活用。</p> <p>③タイムカード、超過勤務命令書の継続的な突合とノー残業デイの更新・徹底。</p> <p>④1月にリスクマネジメント委員会を常設委員会として設置。</p>
	メンタルヘルス対策の取組み	<p>①中部在障全体でセルフケア研修を開催し、新着職員もれなく参加。</p> <p>②法人全体でメンタルヘルスチェック実施。</p>
	第3期中期計画策定	<p>①各職員が記入した SWOT 分析シートを基に事業所の第3期中期計画を策定。</p>
	キリスト教理念の理解	<p>①法人キリスト教福祉講座へ参加。</p> <p>②医療ケアニーズ利用者の利用を積極的に受入。</p>
	職員の定着と育成	<p>①求職者へ職場見学案内、職場体験を提供し、マッチングに重点。</p> <p>②事業所独自初任者研修は4月開催に留まる。</p> <p>③各係、担当を職員で話し合いながら分担。</p> <p>④職員からの提案により、アクシス入浴のサービスの向上と日中活動事業の負担軽減を図る為、検討委員会を特別委員会として設置。</p>
人材育成	専門性の向上	<p>①てんかん基礎講座、腰痛対策講座へ参加。</p> <p>②法人総合職員研修発表の取組として、摂食嚥下障害評価票を作成。</p> <p>③関西福祉大・甲子園短大の実習生受入。</p>

(2) 各事業の課題・状況

i) 短期入所事業

課題	実施内容
具体的なサービス内容の整備	<p>①介護サービス 食事介助、排泄支援、入浴介助、移乗介助、車椅子移動等の生活介護について、各種サービスマニュアルをひょうごデイ内他事業と共に整備。</p> <p>②食事サービス ペースト食、極刻み食、普通刻み食、粗刻み食、一口大、アレルギー食等、特別食を各利用者様の食事箋を整備し、提供。</p> <p>③入浴サービス 一般浴《介助歩行等》中間浴《座位リフト》特殊浴《仰臥位リフト》、各利用者様のニーズに合わせた設備備品を活用し、週3回提供。</p> <p>④営業形態から、職員間の連絡に空白がないように毎月1回支援者会議を実施。</p>
短期入所事業利用率安定化	<p>①年間利用率 109.77% (対法定 107.86%)</p> <p>②中部在障内事業所利用者中心に、日中活動事業所と併用する形で多数定期利用。</p> <p>③法人内外日中活動事業所利用者も利用。</p>

2. 研修

内部研修は、安全管理と虐待防止関連の研修を重点的に取り組みました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
AED研修	5		
メンタルヘルス「セルフケア研修」	2		
障害者虐待防止研修(中部在障)	2		

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
3件	服薬関係	3件	0件

※服薬関係は違う利用者の薬を服薬介助してしまった件等

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
5件	1件	0件

※利用者個人専用飲料を他利用者様に飲んで頂いてしまった件等

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	キャナルタウンイーストとの合同訓練。	6
避難・通報・消火訓練	2階火元設定での訓練	11

4. 地域交流

特に無し

2016年度 事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
神戸市立自立センターひょうご
施設長 村山 盛光

総括.

利用者、家族の高齢化に伴いご家庭での生活から離れざるを得ないケースが増えています。慌てずに家族と将来への準備を始める一歩として、アクシスひょうご（短期入所事業）との連携を深め、多くの方に短期入所事業を利用して頂くことができました。また、年間を通して実施したシリーズ研修（障害特性の理解とその支援）では、思い込みの支援がいかに不適切な支援に繋がるかを学ぶ機会となり、学び続けることの重要性を再認識すると共に、「福祉のプロ集団」を目指す大きな一歩となりました。また、サポートブック啓発活動を通して「地域に根差した施設となる為は何を行うことができるのか」を自身に問い、地域の企業、警察、消防署等との連携、協力関係を深め、地域交流を深める方向性を見いだせました。

次年度から実行していく第3期中期計画（2017年度～2019年度）の策定に職員全員が参画できたことは、当センターの課題、強み、ビジョンを共有する上で非常に良い機会となり、今後の推進に向けチームとしての一体感が形成されつつあります。次年度以降、「利用者、家族の心よりどころとなる自立センター」を目指し、事業所全体としてしっかりと取り組んでいきます。

1. 2016年度の主な計画と推進策

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	人材育成	①外部の専門研修への参加。内部専門研修の実施。 ②人事考課の運用（9月～3月） 共通要素評価、専門要素評価、目標管理制度 フィードバック面接の実施。
	理念の浸透	①職員会議において法人基本理念の唱和。 ②マニュアル作成委員会にて、理念の継承を盛り込む。
	将来に備えた取り組み	①モニタリングにて将来設計についての聞き取りの実施。
サービス	支援の充実	①支援員間の共通理解を行う為の個別支援会議の実施。
	権利擁護・虐待防止への取り組み	①虐待防止委員の選出、委員会会議への出席。 ②虐待防止基準表研修会への参加。 ③チェックリストの実施（8月、3月）と施設長によるヒヤリングの実施。チェックリスト結果の報告と職制によるOJTの実施。 ④虐待防止に向けた研修会への参加。 ⑤虐待事案を職員会議、ミーティング等で情報共有。

経営	経営の安定	<p>①新規利用者確保に向けての営業活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 支援センター、福祉事務所との日常的な情報交換 * 友生支援学校、青陽東養護学校へ訪問 * 見学者、実習希望者受入等の PR (青陽東養護学校、友生支援学校、神戸特別支援学校、青陽須磨支援学校) * 保護者への情報提供 (随時) <p>②収入予算の月次管理による目標達成 (毎月)。</p>
	経営の安定	<p>①送迎運行表を見直し、人数増と時間短縮を考えた送迎コースの検討。</p> <p>②利用者の状況に合わせた臨時送迎。</p> <p>③利用率の維持。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 目標利用率 82%⇒年間利用率 81.74% <p>④支援センター、支援学校訪問で利用者確保の為のよびかけ。</p>
	リスクマネジメントの強化	<p>①朝礼・終礼・会議での苦情、事故等の確実な情報伝達、情報共有、組織的な対応の徹底。</p> <p>②サポートブック作成と携帯の促し。</p> <p style="padding-left: 2em;">サポートブックロゴ「ぎゅっとハート」宣伝。</p> <p style="padding-left: 2em;">警察署、消防署、区役所への情報提示。</p> <p>③サポートブック認識度向上の対策として、企業に説明を行う。</p>
	メンタルヘルスへの対応	<p>①働きやすい職場環境づくり。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 適切な労務管理 (週一回のノー残業デーの徹底) * グループミーティング、職員会議の定例化でコミュニケーション力を向上。 <p>②ストレスチェック実施 (9月)。</p> <p>③セルフケア研修の実施 (2月)。</p> <p>④一部職員の兼務に伴う勤務体制の工夫、配慮。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 臨時職員 1名増 * パート職員の 2名増 <p>⑤メンタルヘルスに基づく研修への参加。</p>
人材育成	専門性の向上	<p>①外部研修への計画的参加 (1人1研修)。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 年度内 23名中 21名が参加 <p>②伝達研修の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 外部研修の記録を回覧にて伝達、共有 <p>③⑤事業所に講師を招いての職員全体研修 (7月, 8月, 9月, 11月)。</p> <p>④現任訓練の実施 (5年目)。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 自立センターたるみとの交流 (7月 1名、12月 1名) <p>⑦自己啓発促進、情報の掲示、回覧。</p>

	理念の理解	①法人基本理念、施設基本方針の唱和。 ②朝礼、職員会議で施設長からの伝承。 ③マニュアル作成委員会におけるマニュアル盛り込みの検討。
--	-------	--

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護事業

課題	具体策
利用者主体の支援の推進	①個々に合わせた絵カード、写真、実物を使用した視覚支援の提供（見える化支援）。 ＊TEACCHプログラム、PECSを意識した見通しの持てる支援の実施。 ＊ワークシステムに基づいた作業手順の統一 ＊全職員への視覚支援カードの配布、携帯と支援への活用 ②絵カード実物を用いて選択できる意思決定支援の実施。 ③利用者1人1人にカスタマイズされた、カード、自立課題、活動の実施と提供。
利用者満足度向上への取組	①アクシスひょうご兼任者の為の人的補充としてパート職員採用（3名）。 ②利用者支援マニュアルの検討会議。 ③祝日プログラムの内容をポスターにして掲示。 祝日利用の促進(かき氷、ボランティアコンサート、バルーンアート等) ④ハートでアート展に作品出展（9月）。 ⑤神戸市×麒麟ビバレッジ株式会社 神戸開港150年記念オリジナル缶マグネットイラスト募集（3月） ⑥満足度調査の実施（1月）。 ⑦嗜好調査の実施（1月）。

医療的ケアの充実	<p>①看護師と生活支援員の連携による健康把握。</p> <p>②利用者の地域医療機関への緊急的な受診。 *家族の高齢化と不在の為に定期受診付き添いの実施 *利用者ショートステイ後の引き継ぎを行い、日中の利用者支援に繋げる。 *支援センターと事業所が連携し緊急ショートステイ先の確保</p> <p>③月1回グループごとの看護師によるバイタルチェックを設け、健康管理を行う。(げんきクラブの実施)</p> <p>③近隣の医療機関と、事業所に医療団体を呼んでの健康診断の実施。</p> <p>④ひょうごデイサービスセンターとの看護師協力体制の実施。</p>
事業所内の環境整備	<p>①環境改善チームの編成、改善が必要な場所の抽出。</p> <p>②1, 2グループの活動スペースにおいて、椅子、ソファの増設と仕切りを使用したレイアウトの変更を行い快適さの追求。</p>
将来に備えた取り組み	<p>①ショートステイ利用の推進。 アクシスひょうご利用者数 男性 → 17名 女性 → 10名 計27名が短期入所を体験 13名が短期入所初体験</p>

2. 研修

内部研修は、メンタルヘルス対策と虐待防止を実施・参加しました。

外部研修においても、メンタルヘルス対策と虐待防止、自閉症者支援、高齢知的障がい者支援等の専門研修を重点的に受講し、人権擁護と支援力向上を目指しました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
新規採用職員研修	5	神戸市知的障害者施設連盟職員部会総会	5
AED研修	5・11	全国知的障害関係施設長等会議	6
上級一般職員研修	6	第39回てんかん基礎講座	7
新人職員研修	7	日本PWS協会主催研修会	8
中級一般職員研修(フォローアップⅡ)	10	神戸市知的障害者施設連盟看護師部会研修	8
新採用職員フォローアップ研修	11	神戸市社会福祉大会	9
中級一般職員研修(Ⅲ) 「対人援助と支援の振り返り」	1	第54回全国知的障害福祉関係職員研究大会北海道大会	9
主任・副主任研修「OJT推進基礎研修」	1・2	おめめどう研修会	9

総合職員研修	2	自閉症 e サービス 人材育成& コンサルテーション事業 基礎 講座	9・10
地域連携センター勉強会 交流分析「エゴグラム」	3	第65回兵庫県社会福祉大会	10
法人 キリスト教福祉講座(1/2)	3	事務職員講座② 『財務規律の強化について』	11
せいれいやさかだい主催 自閉症スペクトラム障害対応研修	10、12、2	兵庫県社会福祉協議会看護職 員研修	11
中部在宅障害者福祉センター メンタルヘルスセルフケア研修	2	リスクマネジメント研修	11
虐待防止研修	2	福祉村サミット	11
		かぞくねっと研修	11
		知的障害者の高齢化・重度化における支 援の在り方	12
		神戸女子大学実習教育研究会	1
		神戸市知的障害者施設連盟職員部会 看護師・栄養士・支援員研修 障害の理解と支援の基本	2
		職場内研修(OJT研修)担当者研 修会(1/2)	2・3
		兵庫県知的障害者施設協会 播淡地区職員 第2回施設 長会研修	3
		社会福祉施設職員共通研修 「イライラと上手に付き合う～アンガ ーマネジメント研修～」	3
		高齢期支援の在り方を考える	3

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
8件	<ul style="list-style-type: none"> ・体調が悪い利用者が登所した時の対応の件 ・作業室内の温度が低かった件 ・送迎車両の停車位置が悪かった件 ・送迎の待ち合わせの場所に遅れて行ったらもう出発してしまっていた件 ・相模原障害者殺傷事件を聞き、自立センターひょうごもすぐに入れるので何か対策をとって欲しいとの訴えがあった件 ・トイレに空調設備が整っていない件 	7件	1件

	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼した配布物が送り主に届いていなかった件 ・迎えに行った際に玄関先に職員がおらず、対応してもらえなかった件 		
--	--	--	--

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
25 件	2 件	48 件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	キャナルタウンイースト合同訓練	6
避難・通報・消火訓練	中部在障各階合同の避難誘導、消火訓練 (地震想定)	11

4. 地域交流

(1) 実習受け入れ等

- ・兵庫区自立支援協議会
運営委員として参画
社会参加を考える部会にて、近隣事業所と協力・連携して車両共同送迎を実施
- ・実習生の受け入れ
 - <相談援助実習>神戸女子大学 (2名)、日本福祉大学 (1名) 流通科学大学 (1名)
 - <介護実習>須磨ノ浦高等学校 (5名)
 - <保育実習>神戸常盤大学 (3名)
 - <歯科衛生学科臨地実習>総合衛生学院 (6名)
 - <介護等体験>関西学院大学 (1名)、神戸親和女子大学 (3名)
関西国際大学 (1名)、甲南大学 (1名)
- ・インターンシップ (保育サポーター) の受け入れ
神戸常盤大学 (1名)
- ・トライやるウィークの受け入れ
須佐野中学 (3名)
- ・フェスピック基金によるクリスマス会へ中部在宅障害者福祉センター利用者、職員招待
- ・日常活動のボランティアに加え、行事・祝日プログラム等にボランティアを依頼
- ・サポートブック携帯、障害者理解を得るための広報活動を近隣店舗、施設に行う。

(2) ボランティア

- ア) 個人：延べ 148 名
- イ) 団体： 1 団体延べ 60 名

(3) その他

- ・近隣公園の清掃

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 ワークセンターわかまつ

施設長 井上 待子

総括

- (1) 支援面では、利用者自治会が設立して2年目、深化・発展をめざし利用者が主体的に活動へ参画しました。特にクリスマス会の多くの部分を利用者自身で決定することができました。また、利用者、家族からの希望が多かった宿泊活動を2006年以来、久々に実施することができました。
- (2) 作業面では、法人内の共同受注作業だけでなく、新規に作業を導入しました。さらに、自主生産品も新たに制作しました。工賃収入は前年度(2015年度)と比較し10%増。次年度(2017年度)は目標工賃達成加算を取得予定です。
- (3) 環境面では、老朽化していたフェンスや外壁、屋根等の補修工事が神戸市主導でようやく開始しました。工事完了は新年度(2017年度)に持ち越しとなります。
- 一方で、2019年(平成31年)3月まで神戸市と借用契約を結んでいますが、第三期中期計画の策定時に「わかまつの移転」を次年度から具体的に進めていくことを決定しました。

1、2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課題	実施内容
中期計画	わかまつの将来検討	①第三期中期計画策定に向けた様々な話し合いにおいて、わかまつの移転を具体的に勧めていくことを次年度から実施していくことを決定。 ②神戸市のファシリティマネジメントの取り組みにより、フェンス塗装やグラウンド、屋根等防水加工処理、植栽の撤去工事等が着工。(4月完工予定)
	安定した工賃・作業提供するための取り組み	①生産部門:安定した生産となり、昨年度実績を上回った。 ②加工部門:海図紙袋、クリスマス献金袋など新たな自主生産品に着手。
	グループホームの設置に向けての取り組み	①グループホームたいのはた東の体験利用やグループホームふくだの開設に合わせて、家族会にてグループホームの話を行い、意見交換を実施。

サービス	利用者のニーズに即した支援	①定期的な見直しが定着。 ②サービス提供票の整備を検討していたが、整備するまでに至らず。 ③自治会活動を利用者が主体的に行えるようになった。 ④新たな試みとして宿泊活動を実施。 ⑤利用者満足度調査も2月に実施。
	人権を尊重した支援	①成年後見制度に向けて研修会を実施。 ②法人の虐待防止チェックリストを用い、定期的に支援を見直す機会を設けた。 ③表示物についてはルビを振ったものを掲示。
	就労継続支援(働く喜び)の提供	①共同受注窓口ワーキングに担当職員が参加。その他の職員も一定の品質を保つために開催された研修会に参加。
	リスクマネジメント	①ジョイプラザとの合同防災訓練を実施。 ②2日分の食糧と水、毛布等の衛星品も確保。
経営	安定した訓練等給付費収入の確保	①法定日数と同じ269日の開所。利用率98.1% (月日数-8日、30人定員の計算)の目標に対し、97.9%。 ②新規利用者1名が利用開始となり、34名登録。
	経費削減・福利厚生	①毎週水曜日に設定しているノー残業デーは、職員間の意識も向上し定着した。
人材育成	基本理念の理解	①基本理念の唱和、聖書の輪読に加え、臨時職員には内部研修にて基本理念の勉強会を実施。
	階層別職員育成	①法人上級職員研修への参加。 ②外部研修受講は必要に応じて参加。
	専門性の向上	①神戸友生園との合同研修や、第三者評価受審後のセミナー等全職員で参加できる研修企画が来た。
	実習生の受け入れ	①特別支援学校からの実習生の受け入れを実施。

(2) 各事業の課題・状況

i) 就労継続支援B型

課題	実施内容
中工賃の配分維持	<ul style="list-style-type: none"> 外部作業所の撤退により激減していた作業は終了。下請1社、新規として作業開始。 法人内、家族会(明生会)への販売開始。

余暇活動、自治会活動の充実	①自治会は利用者が主体的に活動することができた。社会活動も概ね毎月実施。
地域交流、地域貢献、啓発	①高校生、大学生、専門学校生の実習の受け入れ。 ②5月ジョイプラザ合同防災訓練に参加。

2. 研修

虐待防止に関する研修や、その他、外部研修など必要に応じて職員を参加させました。

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
個別支援計画策定の意義	6月	エコール神戸主催研修	6月
支援の基本を考える	8月	面接相談スキルアップ研修	8月・9月 10月
法人の基本理念をについて	8月	リスクマネジメント研修	9月
虐待防止研修（友生園合同）	2月	兵庫県主催「サービス管理責任者研修」	8月・9月 12月
共同受注 W 研修	3月	事務職員研修	10月・11月
第三者評価セミナー	3月	成年後見制度研修	12月

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
<u>0</u> 件		<u>0</u> 件	<u>0</u> 件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
<u>2</u> 件	<u>0</u> 件	<u>10</u> 件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	ジョイプラザ合同避難訓練	5月

4. 地域交流

兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科、須磨ノ浦女子高等学校、神戸常磐大学、夙川短期大学の受け入れ

2016年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
 施設名 せいれいやさかだい
 施設長 高瀬 菜穂

総括.

- (1) シミズ事業所の安全な活動場所の確保を目的として林タオルビルへの統合を再考し、耐火建築物への改修工事を顧問設計事務所も交えて検討しました。法令遵守の観点で改修は不可との判断に至りました。また、事業再編部会での検討の結果、就労継続B型事業の単一事業所として活動場所の確保に取り組むことを方向づけました。
- (2) 支援の専門性を高める取り組みとして、近隣支援学校の教諭を講師として迎え、ABAの学習会を法人内事業所の参加も得て継続的に実施しました。障害特性に応じた科学的支援の基礎学習に取り組むと同時に困難事例のスーパーバイズを受け、支援力の強化に取り組みました。
- (3) 友が丘事業所では、独居高齢者を含む地域住民とのサロン活動を継続的に実施しました。卓球や運動会、老人会や民生委員主催の喫茶へのお誘いを新たに受け、地域活動への参加に更なる広がり見られた一年でした。
- (4) 一昨年10月から株式会社ラフトに委託した給食を3月末で終了し、神戸聖生園の給食再開に向け厨房設備や体制について調整を開始しました。
- (5) 貧困や生活困窮者自立支援法について全職員で学習会を実施。「社会的孤立」の実態を学び、社会参加の一步を後押しする為、「就労準備支援事業」の受託に向け準備に取り組みました。次年度は、路上生活者を含む支援実践や企業内事業所としての環境特性を生かして新たな事業展開の一步を踏み出します。

1. 2016年度の主な計画に対する実施内容

(1) 総合的な課題・対策への取り組み

区分	課 題	実施内容
中期計画	第三期中期計画の策定	①福祉を取り巻く社会情勢の理解に向け全職員参画の社会的孤立・生活困窮者自立支援法の学習会実施。(7・9月) ②SWOT分析(9月)に基づく経営計画の策定。(12月)
	利用者ニーズにもとづく事業再編(地区)	①神戸地区事業再編部会にて就労継続B型再編計画検討。 ②生活介護ニーズの友が丘事業所への集約。
	親亡き後の生活支援の具現化(地区)	①グループホームふくだへの入居を11名が希望内3名入居決定。 ②建て貸し方式のグループホームについて情報共有。

	地域に開かれたサービス展開	<ul style="list-style-type: none"> ①北須磨団地自治会主催の「支え愛学習会」・懇談会・運動会に積極的に参加。 ②地域住民と利用者との交流サロン活動を実施。 ③友が丘中学校へトライやるウィークの受け入れ。(6名) ④ミニ機関誌の発行による近隣住民への広報活動開始。(9月)
サービス	人権擁護の推進	<ul style="list-style-type: none"> ①「合理的配慮」実践に向け支援の専門性強化を目標に職員研修会(スーパーバイザーによる事例検討)実施。(7月、8月) ②面談を通じて新たに2件成年後見制度活用に向け申し立て準備開始。1件NPO法人と連携し申し立て準備中。 ③内部研修による支援観の共有と専門的実践による虐待防止へ取組み実施。(5・7・8月) ④虐待防止チェックリスト実施。(9月、2月) ⑤障害基礎年金申請支援の結果2名が受給開始。
	つながりを創る支援力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ①社会的孤立に関する学習会を実施。(7月) ②計画相談支援事業所との担当者会(29回)困難事例に対する調整会議(7回)により関係機関との連携強化。 ③地域のマンパワーの活用と連携。(392名) ④須磨区生活保護担当係長による生活困窮者自立支援法の学習。(9月)
	利用者主体の支援	<ul style="list-style-type: none"> ①特性に配慮した情報提示やコミュニケーションツールの活用促進。(見える化支援実践) ②わかる情報提供を基にした選択活動の実施。
	高齢化対応(認知症への対応)	<ul style="list-style-type: none"> ①知的障害者の高齢化についての研修会参加(11、3月)情報収集。 ②認知症判別テストについて研修受講。(3月)
	リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ①職員会議にてヒヤリハット報告と対応策検討。 ②非常用備品の整備完了(9月)対応マニュアル策定に向け消防署から情報収集。(8・9月) ③リスクマネジメント研修実施。(7・9月) ④播磨地域福祉サービス第三者評価機構によるサービス評価を受審。(3月)

経営	利用率の維持向上による安定収入の確保	<ul style="list-style-type: none"> ①新規利用者2名を含む安定的利用促進。 ②単身生活者の健康管理支援強化。(医療機関との連携・生活支援の充実により利用率向上) ③送迎サービスの実施によりショートステイ中の利用を促進継続実施。(117回) ④調整会議やアフターケアにより関係機関・特別支援学校との連携強化実施。(8回) ⑤毎月職員会議にて経営状況について情報共有実施。
	経営計画の策定	①全職員参画による経営計画の策定に向けSWOT分析実施し経営課題共有。
人材育成	法人理念に照らしたキリスト教理念の具現化	<ul style="list-style-type: none"> ①職員会議を通して法人基本理念に照らした支援観の共有。 ②牧師によるキリスト教福祉講座の内部研修企画。(11月) ③キリスト教福祉講座へ2名参加。
	専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ①スーパーバイザーによる事例検討会を通じた専門性の向上(7月8月)下半期に継続実施。 ②自閉症スペクトラム障害への見える化コミュニケーション学習の継続。 ③権利擁護(虐待防止)研修会に参加伝達研修実施。(5、3月)
	次世代の担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> ①大学からの実習生や体験実習の受け入れに向け情報発信。(8月) ②他業種からの就労者への育成体制の確立に向け業務指示書完成。 ③若年層ボランティアへの働きかけとしてトライやるウィーク受け入れ調整実施。
	メンタルヘルスの維持	<ul style="list-style-type: none"> ①ストレスチェック実施。(9月) ②管理者による職員ヒヤリング実施。(年2回)

(2) 各事業の課題・状況

i) 生活介護事業

課題	実施内容
意思決定支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ①見える化コミュニケーションによる「わかる情報提供」を継続。 ②選択活動による意思決定支援の充実継続。 ③「利用者につながる個別支援計画」に向け、利用者への聞き取りシートの活用と表記方法の再考。

体力維持プログラム・健康活動の充実	①個々の状況に応じたバイタル測定実施に向け血圧、血中酸素濃度測定実施。 ②主治医と看護師との連携による健康支援充実。 ③歯科健診（3月）歯磨き支援の継続実施。 ④筋力低下予防の体力維持プログラムの継続実施。
将来の生活像を見据えた支援	①グループホームでの生活を想定した生活プログラムの実施。 ②半日活動を通じた余暇支援と社会経験の拡充に向け活動実施。（10回） ③アクションワークショップによる感情表出と発信力のサポート継続。（延べ36回） ④面談を通じて社会資源の活用に向けた情報発信と利用促進。（9月）

ii) 就労継続支援B型事業

課題	実施内容
就労支援機能の充実	①職員の就労支援力向上に向けた研修未達成。 ②神戸愛生園のシーツ交換作業の受託未達成。 ③作業指示書等情報の視覚化による作業力の向上実継続。 ④共同受注体制の確立に向けた法人内連携継続。
健康管理	①主治医や看護師との連携による体調管理と生活支援充実。 ②単身生活者に対する健康支援について関係機関との連携強化により利用率向上。

2. 研修

内部研修		外部研修	
内容	実施月	内容	実施月
支援力アップ研修 5回	7月～2月	自立支援協議会事例検討 (事例発表)	10月
人事考課評価者研修	11月	神戸市知連職員部会研修会	5月
リスクマネジメント研修	9月	宝塚育成会支援セミナー (ABA)	7月
上級一般職員研修	6月	県社協リスクマネジメント研修	7月
中級一般職員研修	1月	北須磨団地自治会主催・ささえ 愛学習会	5、11月
主任・副主任研修「OJT推進基礎研修」	2月		
成年後見制度実務研修	3月	ひょうごかぞくねっと中央研修会	11月

キリスト教福祉（事業所内）	11月	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	10月
成年後見制度基礎研修	12月	県知協施設長研修	1月
総合職員研修研究発表会	2月	市知連施設長研修	2月
成年後見制度実務研修	3月	市知連高齢知的障害者研修	3月
虐待防止研修	5,3月	障害者虐待対応力向上研修	3月
キリスト教福祉講座	3月		

3. リスクマネジメント

(1) 苦情相談・対応状況

件数	主な内容	解決	継続対応
0件	なし	件	件

(2) 事故報告・ひやりハット報告状況

事故報告		ひやりハット報告
件数	うち本部報告	件数
6件	6件	11件

(3) 防災対策

訓練等	内容	実施月
避難・通報・消火訓練	林タオール事業所	2月
避難・通報・消火訓練	シミズ事業所	3月
避難・通報・消火訓練	友が丘事業所	3月

4. 地域交流

① サロン活動

友が丘事業所にて月1回「サロン活動」と称して地域の高齢者を招いて利用者とともに昼食作りに取り組むと共に看護師による血圧測定を実施。

① 地域学習会への参加

地域の事業者主催の地域ケア会議や自治会主催の学習会に積極的に参加、連携強化。

② トライやるウィーク

友が丘中学校からトライやるウィークで6名の中学生を受け入れ。利用者との交流や利用者家族の講話など啓発活動実施。

③ 実習受け入れ

日本自閉スペクトラム学会より施設実習受け入れ。(1名)

⑤ 地域活動への参加

カラオケ（福祉センター・第1木曜日）

卓球（福祉センター・毎水曜日）

寿喫茶（老人憩いの家・第3水曜日）

すくすく喫茶（北須磨自治会館・第4火曜日）

さくら喫茶（神の谷地域福祉センター・第2木曜日）

北須磨団地運動会・夏祭り（多井畑小学校）

④ 地域清掃活動（友が丘事業所・シミズ事業所）

⑤ 須磨区自立支援協議会・まなぼ一部会に参加。

10月に事例発表（高齢母子世帯の支援について）

（1）ボランティア

ア）個人：392名

イ）団体：4団体（北須磨団地寿喫茶・すくすく喫茶・卓球サークル・さくら喫茶）